シソウしそう ニカン

ズイヒツ メイセンシュウ

エイゾウ

目次

シソウしそう ニカン
エイゾウ

はじめに

　このシリーズもニカンめとなった。わたしのズイヒツよんサクめから、ロクサクめをまとめたものである。いまおもうと、イチネンにサンサツと、よくだしたものだとおもう。いまは、やすんでいるようだからそうおもう。つぎのこのシリーズがでるまで、イチネンはまたなければならないだろう。
　キョウははれできもちがいい。はるイチバンがセンジツふいて、キョウはニバンであろう。ホンなどかいて、ヘヤにこもっていなくてよいとおもうが、トウブンやめるきはない。ただ、そとがきもちよさそうなのはジジツである。はたけしごともできればとおもう。

ニセンニジュウネンサンガツジュウよっか

イチ、『オンガクイチエンのジダイ』イチ

ソレンはカイサンしてそのゴどうなったか。なぜカイサンすることになったかというと、ビョウドウすぎたときく。グタイテキには、はたらかないでキュウリョウをもらうひとにあわせて、よくはたらくひとや、ユウノウなひとがはたらかなくなったからだという。たしかに、あまりはたらかないひとにケイザイをあわせるととんでもないことになろう。これは、どこかのくにのケイザイセイサクににている。そうだ、「ザンギョウ」をキセイしようというセイサクのことだ。たしかに、はたらきすぎてしんでしまったり、もえつきてしまったりするのはこまるが、みんながみんなそうなるわけではない。だからザンギョウをとめるのは、コベツにやるべきだろう。はたらきざかりがはたらかなくなったら、やはりケイザイはコンランするのだ。ソレンカするニホンではしょうがないとおもう。

ニ、『オ』よん

エーからビーにすすむのに、イチビョウかかれば、イチビョウカンかかったという。くるまにしても、くるまでもヒコーキでもイドウするにはジカンがかかる。くるまにしても、ヒコーキにしても、ニンゲンがつくりだしたものである。それはチキュウジョウでソクドのはやいブルイだろう。いまのところイチバンはやいとされているのが「ひかり」である。これはニンゲンがつくりだせるか。たしかにデントウはつくったようだ。
ところで、イドウにはエネルギーがヒツヨウである。くるまならガソリン、ヒコーキならジェットネンリョウである。それはどうショウヒされるか。おおきいものをうごかすと、よりおおきなエネルギーをヒツヨウとする。ちいさなものならすくなくすむ。それからなにかいえないか。そう、「ひかり」よりもちいさなブッシツをつくれば、ひかりよりはやくイドウできるだろう。これを「こまびかり」といおう。なんのやくにたつかはわからないが、チキュウジョウのリヨウだけでも、ジョウホウがはやくうごくようになるわけだから、セイサンセイがあがるだろう。

サン、『オ』ジュウ

エーアイがたまにワダイになる。シハンのキカイにもトウサイされたものがある。もっとすごくなると、リョウリのこんだてとか、むだづかいのガクを、ケイサンしてくれるのだろう。そういうエーアイとたたかうのがかしこいのであろうか。あるコウコウセイ、ダイガクセイのチシキは、カキュウのエーアイにうちまかされてしまうだろう。キョウイクにゴヒャクマンエンかけるのなら、エーアイをサンビャクマンエンでかったホウがやすいとなる。キョウイクはジョセイキンでなりたつようなキョウソウができないギョウカイである。だから、そういうエーアイとカカクキョウソウをしたら、キョウイクギョウカイがまけるのはめにみえている。まけるとはどういうことか。キョウイクギョウカイのあかじがふえるということだ。あかじをだすまいと、ねだんをあげるかもしれない。そうするとますますキョウイクギョウカイにおかねをはらうのが、ばかばかしくなってくる。そういうミライがみえたからか、わたしはコウコウにいかなくなった。エーアイとサバイバルゲームをするきはなかった。
どうすればいいか。エーアイをつくるホウにまわれば、もうかるだろう。ニジュウネンまえはコンピューターがそうだった。コンピューターがリュウコウしていたときは、コンピューターをつくっていれば、もうかっただろう。テレビゲームでハンドウタイやガメンになれていたこどもがおおかったから、パソコンにもなじみやすかっただろう。いまは、リュウコウからセイジュクしていき、ハードウェアは、そうそうもうからなくなってきているようだ。しかし、パソコンをつかうひとはそんなにへっているわけではないだろう。ソフトウェアはまだまだもうかるかかもしれない。
エーアイはわりとあたらしいソフトウェアである。もし、チシキだけがヒツヨウとすれば、エーアイにかなうひとはそうそういないだろう。ニンゲンはどうすればいいか。うごけばいいのである。このブンのようにかくしごとは、やがてエーアイにうばわれるかもしれない（かといってぬきをしているわけではない。わたしジシンのユニークさで

ショウブしているつもりだ。)。
しかし、ものをはこぶとかリョウリをつくるのは、エーアイにはできない。ロボットがやりはじめるかもしれないが、そこのところはキョウソウしてもいいかもしれない。リョウリはつくってたべなきゃニンゲンがしんでしまうからだ。そういうキソテキなことでないから、エーアイはかるくみられている。しかし、ガッコウでまなんだことがチシキだとしたら、ニュウシャシケンでは、「おかえりください。うちにはエーアイがいますんで。」になってしまう。そういうわけで、チシキよりギジュツがダイジになっているジダイなのだとおもう。エーアイとキョウソウするくらいなら、つぎにひかえているロボットとキョウソウするのがかしこいといえるかもしれない。

ヨン、『オ』ジュウサン

わたしたちのすんでいるあたりを「アジア」という。もともとチュウトウあたりにあったくにをそうよんだために、それをカクダイしてつかっているようだ。しかし、コウゾウシュギシャ（●『よろこぶゲンシジン［イカ、よ]』イチ）はそれでいいのかとおもう。なぜなら、そのガンソアジアは、ショクミンチにされていたのだ（ゾッコクといったホウがいいかもしれない。)。そんななまえをみとめてしまったから、ジュウゴセイキイコウのトウシュウ（レイのなまえはつかわないホウがいいだろうから、かりにトウシュウとしておく。）は、ショクミンチにされてしまったといえるかもしれない。ことばの（こういういいかたはすきではないが）マリョクというやつである。かといってトウシュウといっても、そうそうつうじるわけではないだろうが、ジブンたちのことはそういえるだろう。ゾッコクじゃしょうがない。

ゴ、『オ』ジュウゴ

あるしなものエーがあったとする。エーのほかにエーダッシュもあるとする。エーダッシュだから、エーとはちがうか。それはなんともいえないが、ブツリテキにはまったくおなじものというのはむずかしいから、やはりちがうといえそうだ。しかし、それだと、エーイコール エーダッシュ、エーダッシュ イコール ビーだからエー イコールビーといういいかたができなくなってしまう。つまり、エーもエーダッシュもビーもちがうということだ。
ロンリはヒャクパーセントとかレイパーセントとかのものだから、ニジュッパーセントゴサがありますではこまってしまう。でもゲンジツはそんなものだからしょうがない。トウケイガクのようにゴパーセントゴサがあります。でいいとおもう。つまり、エーイコールビーであるが、ニジュッパーセントのゴサがあると。ギャクからいえば、エーイコール ビーではないが、ハチジュッパーセントのゴサでまちがえだと。
シーさんいったディは、コウテイされたり、ハンロンされたりするが、サンジュッパーセントまちがいだというようにスウチカすれば、ギロンもハクネツしないのでないか。

ロク、『オ』ジュウハチ

ものがタクサンあるホウがゆたかだろうか。タブン、そういうひとがおおいにちがいない。ゆたかなくらしとは、ものにかこまれたセイカツだと。しかし、わたしはサイキン、クウゲンをかんがえる（●『アルクカラカンガエル［イカ、ア］』ニヒャクニジュウキュウ）。クウゲンとはわたしのゾウゴで、「からっぽ」というシゲンである。つまり、どこかにものがないホウがジユウともいえる。なにかものをおいてもよいし、おかなくてもよい。しかしそれはフドウサンである。ようするにあきちドウヨウだ。ケッキョクはフドウサンがダイジなのではないかということだ（ヘヤのイチブとしても）。
そういうわけで、わたしはフドウサンをうったわけではないが、かいもどしている。そうすると、ゆとりがでてくる。そうニホンジンのいえはせまいのだ。わたしのおやじもおふくろもヨケイなものはおかなかった。わたしはそうではなかったが、ものがふえるにつれ、どうもジブンがうごけるハンイがせばまってくるのにきづいた。だから、ものをかたづけるといういいかたもあるかとはおもうが、フドウサンをかいもどすのである。かねもちのいえはタブンヨユウがあるだろう。けっしてソウコのようにはなっていないとおもう。

シチ、『オ』ニジュウニ

わたしがチュウコウセイのころ、ほとんどジタクではベンキョウしなかった。テレビゲームをしたり、からだをうごかしてウンドウしたり、ガッキをひいたりした。テレビゲームというあそびは、いまのわたしにとってなににもなっていないが、あえていうなら、レキシにキョウミをもったことだ。カンレンボンもよんだ。もうイッテンは、ハンドウタイのハッテンのためになった（●『よ』ヒャクナナジュウサン、ヒャクハチジュウサン）。ウンドウはシンタイのケンコウにつながっているし、ガッキはシュミになっている。
でも、サイキン、ベンキョウなり、ケンキュウもいいシュミではないかとおもえる。ホンとヒッキグテイドにしかおかねがかからないからだ。ホンはゴヒャクエンからかえるが、ガッキはナンジュウマンとする。やすくてもスウマンだ。だから、ショミンにとって、ベンキョウはいいシュミだとおもうのである。それをおそわったのはいいシュウカクであった。

ハチ、『オ』ニジュウよん

なぜテンにめされるといういいかたをするか。それはウチュウをサイセイサンしたホウがいいからである（と、わたしはかんがえる。）。どういうことか。ウチュウはひろがりつづけているという。ベツにそんなおおきくかんがえなくてもいい。タイヨウのもって

いるすべてのシザイをホウシュツしてしまったらどうなるか（ひかりもシザイである。）。タイヨウはもえなくなり、タブン「ブラックホール」になるだろう。そしてもともとのシゲンはとおくにいってしまっている。またもえるのをサイカイさせようとおもったらどうか。またシザイをあつめるしかない。だから、ブラックホールはいろいろとすいこむといわれるのではないか。またシザイがあつまれば、またもえることができるのだ。つまり、ニンゲンなんかはテンにめされたホウがよいのだ（あなたがタイヨウケイのながつづきをキボウするのならだが。）。そうすればタイヨウはながくつづく。テンにめされてもいいし、リンネテンセイでもいいのである。

キュウ、『オ』ニジュウハチ

わたしがダイガクにいっていたとき、アルバイトをはじめた。それでそのうちダイガクのガクヒをジブンではらうようになった。ゲンエキでニュウガクしたならともかく、おくれてはいったので、シュミでガッコウにいっているとおもうようになった。だから、ジブンではらったホウがいいだろうと。それがあったから、コウギはやすまずにうけた。セイセキはまぁまぁだった。
しかし、ガクヒをだすのはそうカンタンでなく、おかねのやりくりをケイサンするようになった。イチガツにいくらためて、シガツにいくらはらってといったものである。そのときはカイキブンセキ（あるスウジをタンジュンなイチジシキでヨソクするギジュツ）をあまりしらなかったが、イチジシキで、チョクセンテキなスウシキで、それからのみこみ、ガクヒのブンのおかねのたまりぐあいをケイサンするようになった。ワイ（ジブンのジンセイ［ガクヒのたまりぐあい］）イコール エーエックス（マイツキのキュウリョウ［ジキュウ かけるキンムジカン］）マイナスビー（セイカツヒ）といったぐあいである。
エーエックス（キュウリョウ）がふえればすごくゆたかだが、そうカンタンではない。トウジはそれにもかかわらず、それをタッセイしようとした。しかし、つとめさきではケイエイゴウリカで、アルバイトジュウギョウインのキンムジカンをへらしていた。これではガッコウにいけなくなるとわたしはかんがえ、ベツのアルバイトをはじめた。しかしである、エックス（キンムジカン）をのばそうというのは、わたしのみがってなかんがえだ。コヨウぬしとのカンケイできまるものであるのに、そうしてアルバイトをテンテンとした。
ケッカは、おかねはたまったがシュクダイをやるジカンがなくなってしまったので、これはソツギョウできないとおもい、ジネンイコウのケイカクをかんがえた。しかし、このトチュウでジブンのみがってさになやまされる。かせげるかはわたしだけがきめるものではない。そこでうまくいかなくなった。いまなら、スウシキのヘンスウをイッコ、ニコふやしたらいいとおもう。つまり、ワイ（わたしのジンセイ）イコール エーエックス（ジブンのドリョク）プラスシーゼット（カイシャのギョウセキ）プラス ディエイチ（シジョウのケイキ）マイナスビー（セイカツヒ）のようにである。さきのシキよりはまともなヨソクができるだろう。

ジュウ、『オ』ニジュウキュウ

ショウバイにはコストとリエキがあるとされる。うりあげ イコール コストたすリエキというやつだ。うりあげをいくらあげても、リエキがないのではもうかっているとはいえない。だから、うりあげでなく、リエキをあげることをスイショウしたりする。コストをこまかくいうと、ゲンザイリョウをかうコストやジンケンヒなどがある。だから、コストをさげようとおもったら、ジンケンヒ（ジュウギョウインのキュウリョウ）をさげるヒツヨウもでてくる。そういうリユウで、カイガイのジンケンヒがすくなくすむところでセイヒンをつくったりする。そのホウが、リエキがおおきいからだ。これはシホンシュギのシュダンといえるかもしれない。
ところでジュウゴセイキくらいのヨーロッパでは、センキョウシをカイガイにおくりだしはじめた。シンタイリクがみつかったのがリユウのひとつだろう。また、そういうチイキをヨーロッパのくにはちからずくでショクミンチカしようとした。なぜショクミンチカするか。あるセイヒンやゲンリョウをやすくてにいれたかったからだろう。そうすればヨーロッパでのセイヒンカカクがひくくおさえられるか、リエキがおおくでるのである。センキョウシをカイガイにおくりこむことも、コストをさげるためだとおもう。
どういうことかというと、ヨーロッパでシュウキョウにかかわるひとをイクセイしようとする。それにはコストがかかる。かりにひとりあたりイッセンマンエンかかったとしよう。シュウキョウにうりあげのガイネンをもちこむのはどうかだが、そのひとたちがそれぞれニセンマンエンうりあげたとする。そうすると、ひとりあたりリエキはイッセンマンエンとなる。しかし、ショクミンチでひとをそだてれば（ヨーロッパよりブッカがやすいとカテイする。）、ニヒャクマンエンでひとりそだてられる。それなら、コストはゴブンのイチだから、うりあげをおなじスイジュンでかんがえれば、センハッピャクマンエンのリエキ（そのひとをキョウイクゴにヨーロッパにまねいたばあい。）、うりあげがすくないとしても（たとえばヨンヒャクマンエン。）、ちいさなキンガクでキョウイク、センキョウができるのである。こういうわけだから、やっぱりセンキョウシも、ジンケンヒがやすいところにいくのだ。これをシュウキョウのホウホウとよぶことにする。シホンシュギのシュダンとシュウキョウのホウホウはどちらがさきにできたかわからないが、おなじようなものなのである。ただことばのかべがあるから、カイガイでやすくつくるのはカンタンではない。しかし、エイゴのフキュウでそれはやさしくなっているし、ホンヤクキもセイドがあがっているだろう。だからカイガイでつくるのもやさしくなっているかもしれない。

ジュウイチ、『オ』サンジュウ

「いいニュースがある。シホンカとロウドウシャのタイリツがおわったんだって。」といえるひはいつのことだろう。たしかにそれは「おわる」かもしれないし、「おわら」ないかもしれない。エーアイとロボットギジュツがハッタツしている。なにかのセイヒンの

コウジョウでも、それらをつかったりするだろう。それがキュウゲキにすすむとどうなるのか。ニンゲンのロウドウシャがいらなくなるのである。「いらない」とはどういうことか。「やとわない。」、「リストラ」というやつである。エーアイやロボットがセイサンするから、ニンゲンのロウドウシャはいらないということである。
シホンカはエーアイやロボットにまかせてセイサンする。リストラされたロウドウシャは、いえではたけをたがやしたり、ザツヨウのしごとをしたりするようになるかもしれない。ロウドウシャにとってよくないようだが、むかしはそうやってくらしているひとがおおかったのではないか。それでまぁまぁやっていけるのなら、さきにいった、シホンカとロウドウシャのタイリツはおわりである。リョウシャともジッサイにはつきあわないわけであるから。
しかし、シホンカがノウチをタクサンかったばあい、ロウドウシャは、そこではたらくようになるかもしれない。コサクニンになるというわけだ。なんのことはない、またショウエンセイになるというだけだ。それであまりにロウドウジョウケンがわるいとどうなるか。ガッシュウコクのナンボクセンソウのようになるかもしれない。
ナンブではドレイをつかったノウギョウをしていて、ホクブではコウギョウセイサンをしていた。ナンブがドクリツしようとして、センソウになったというシジツだ。やはり、ショウエンのロウドウシャが、うらみつらみをいうようではセンランになるかもしれない。イッポウ、コウギョウセイサンをするひとや、ドクリツテキにくらすひともいるだろう。こういったシャカイをナンボクタイセイといっておこう。
ただ、ガッシュウコクのばあいには、ホクブはコウギョウセイサンをしていたからシキンはあった。しかし、このヨソウのばあいはそうではないかもしれない。シホンカはノウギョウもコウギョウもおさえているかもしれない。ニクダンセンでたたかうことはできるが、ショウエンがわがグンとなかよくしていたら、ショウエンセイはながくつづくだろう。ホクブはホクブでジキュウジソクやコウギョウセイサンをしていれば、まぁモンダイはない。そうやって、シホンカとロウドウシャのタイリツはおわる。かわって、シホンカとコサクニンのタイリツがおこるかもしれない。

ジュウニ、『オ』サンジュウイチ

ロウドウシャのチンギンをあげる。そのひとがロウドウシャならうれしい。しかし、そのドがすぎてしまうと、ロウドウシャドウシのキュウリョウのうばいあいになり、リストラされることになる。また、さきにいった（●ジュウイチ、『オンガクイチエンのジダイ［イカ、オ］』サンジュウ）エーアイとロボットのカツドウもあるから、キュウリョウがあがるといっても、すなおによろこべない。タンジュンにいえば、ニンゲンのロウドウシャにはらうキュウリョウより、エーアイ、ロボットのイジヒのホウがやすければ、ニンゲンのロウドウシャは、リストラのタイショウになる。
ニホンジンよりナンポウのほうのくにのひとにつくらせるとかをいままでやっていたが、それらのくにのひとより、エーアイやロボットのホウがやすければ、そうやってセイサンするカノウセイがおおきい。エーアイより、ロボットのホウが、うごきがあるブン、つ

くるのがむずかしいだろうから、ニクタイロウドウならば、とりあえずはリストラにはならないかもしれない。しかし、ジカンのモンダイというきがする。

ジュウサン、『オ』サンジュウサン

「コウコウ、ダイガクにはいかなくてもよいのでは。」というテンについてのべた（●サン、『オ』ジュウ）。それはなぜか。そこでおぼえるチシキはそこらへんにあるし、ヒツヨウなときにネットワークからよびだすことができるからだ。タンジュンにいうと、「チシキ」へのアクセスカカクがやすくなったのだ。それはネットワークカンキョウがととのったことによる。パソコン（ネットワーク）が「チシキ」へのアクセスカカクをやすくしたわけだ。もっというと、もはや、ただとおもわれているかもしれない。それなら、ガッコウにたかいかねをはらうことはない（しかし、ケンキュウショクなどチシキでショウブするしごとだったら、ガッコウにいくのがいいだろう。）。
「チシキ」へのアクセスカカクがさがったのだから、ガッコウのガクヒもやすくなるのがシジョウのジョウシキである。ゲンにダイガクなどはテイインわれがでているときく。しかし、どうもゼイキンをトウニュウするようだから、やすくはならないというか、ガッコウがオンゾンされる。まぁ、（キョウシ、キョウジュにタイする）シツギョウタイサクもあるからだろうが、ガッコウがシンポするのかうたがってしまう。こんなだから、コクサイキョウソウリョクのあるダイガクがでてこないのだろう。

ジュウヨン、『オ』サンジュウよん

パソコン（とネットワーク）が「チシキ」へのアクセスカカクをさげた（●ジュウサン、『オ』サンジュウサン）。いまはもっとそれがすすんでいる。それはそうだ。パソコンがフキュウして、ニ、サンジュウネンたつからだ。コンドは「エーアイ」によって、ズノウロウドウがやすくなるだろう。ズノウロウドウというと、キュウジュウネンダイから、ニホンキギョウがジュウシしていたブンヤだ。セッケイがニホンでおこなわれて、セイゾウがカイガイというセイヒンのつくりかたが、そのレイである。ほかには、ホンヤクとかキャクホンとかケイリとかそういうショクシュである。ガッコウのキョウシもそうかもしれない。そういったショクシュのロウドウのカカクがさがる（さがっている）だろう。カンタンにいうと、エーアイがもちいられて、ひとはベツのしごとをするようになるということだ。それもまたゼイキンをトウニュウしてロウドウシャをまもるのかがキョウミぶかい。

ジュウゴ、『オ』サンジュウゴ

「エーアイによって、ズノウロウドウがやすくなる（●ジュウヨン、『オ』サンジュウよ

ん)。」のつぎはなにか。ロボットのリヨウである。これはいますすんでいて、タンジュンなうごきのニクタイロウドウはつぎつぎとおきかえられるであろう。たとえばショウテンのハンバイイン、インショクテンのテンイン、タクシーのウンテンシュ、セイソウインなどがロボットにおきかえられる。やっぱり、これでシツギョウするひとをどうささえるのかが、キョウミぶかいところであるが、さきのふたつのおきかえ（コンピューター、エーアイ）をふくめてまだニンゲンのロウドウシャが、はたらきつづけられるはたらきかたがある。
それはショクニンになることである。つまり、トクテイのブンヤで、コンピューター、エーアイ、ロボットをタクエツするギジュツをもっていれば、はたらきつづけられるということだ。ジンリキでなにかをするひとをアーティストという。ニホンでアーティストというと、サッカ、ゲイノウジンであるが、アート（てサギョウ）をさきのみっつにまけないスイジュンまでたかめられれば、シツギョウしない。しかし、ジブンがへたなアーティストだとおもうのなら、いまからジュンビしておいたホウがいいかもしれない。エーアイやロボットにおしえられるくらいじゃないときびしいだろう。

ジュウロク、『オ』サンジュウロク

コンピューター、エーアイ、ロボットのハッタツのためにチシキへのアクセスのカカクがさがり（●ジュウ)、ズノウロウドウのカカクがさがり（●ジュウヨン、『オ』サンジュウよん)、ニクタイロウドウのカカクがさがる（●ジュウイチ、『オ』サンジュウ、ジュウニ、『オ』サンジュウイチ、ジュウゴ、『オ』サンジュウゴ)。そうすると、たいしたしごとをしないぶらさがりロウドウシャはいらなくなってくる。
これまでは、シャカイシュギにサラリーマンがホゴされていたカンがあるが、もうそれもおわりだろう。ひとつでも、それらみっつにまけないギジュツがなければ、はたらくキギョウにとってやとうカチはすくない。これまでは、しごとがカイガイのロウドウシャにおきかえられたが、いまではそのみっつにおきかえられる。じぶんにギジュツがないとすれば、ロウドウシュウヤクテキなしごとをハッテントジョウコクなみのチンギンでやるようだろう。そのときに、サイテイチンギンというホウリツテキしばりがジャマになる。そのキセイカンワがヒツヨウかもしれない。しごとがないよりましだとおもうのである。

ジュウシチ、『オ』よんジュウ

サイキン、あまりフケイキだということをいわない。ホントウかどうかはともかく、シツギョウもへっているらしい。しかし、イッポウで、セイシャインのロウドウジカンのタンシュクをスイショウしている。ケイキがいいなら、ロウドウジカンをへらせないだろう。ロウドウジカンがへれば、セイサンリョウもへるが、キュウリョウもへる。ジツはフキョウなのではないか。シュヨウなホウドウでは、あまりセイケンヒハンはしないの

で、そういうこともいわないのかもしれない。しごとがへって、キュウリョウがさがってどうするのだろう。おかねをつかわないシュミがはやるんだろうか。

ジュウハチ、『オ』よんジュウニ

シホンカとロウドウシャのタイリツというテーマがある（●ジュウイチ、『オ』サンジュウ）。タブンそのリョウシャともしっかりしごとをするのがよいとおもうが、それによっておきたセイヘンなどもある。
きたチョウセンがカク（ヘイキ）をもってけしからんというとき、そのズシキをおもいだすと、やっぱりよかったのかもしれないとおもうことができるのではないか。つまり、（アメリカ）ガッシュウコクやオウシュウというかねもちのくにが、カクヘイキをもって（ビンボウでカクヘイキをもっているくにはすくない。）、ロウドウシャカイキュウのきたチョウセンがカクヘイキをもてば、もはやかねもちだけのイシで、セカイをうごかすことはできなくなる。つまり、いままでシホンカによるシハイだったセカイが、ロウドウシャのイケンもふまえたセカイにすることができるようになるのである。つまりはヘイワになるのである。
かねもちは、キトクケンエキをうしなうからつらいが、シホンカとロウドウシャのいいキンチョウをもちつつ、セカイをウンエイしていくことができるのだ。かんがえかたシダイではわるくないだろう。

ジュウキュウ、『オ』よんジュウサン

あるアーティストがサクヒンをだし、シィディをおおいにうったとしよう。ヒャクマンマイうれたとする。そのヒョウカについてひとは、「アーティストのコセイが、よにみとめられた。」などという。しかし、ホントウに「コセイ」でうれたのだろうか。
わたしがおもうには、「コセイ」はニのつぎで、そのアーティストをオウエンしようというひとびとがタクサンできたことで、ヒャクマンマイのうりあげをタッセイしたのだとおもう。もっといえば、オウエンするひとがヒャクマンニンいるから、かれらにささえられて、つぎもいいサクヒンをかれはつくるはずである。
わたしは、キュウジュウネンダイにうれたアーティストのサクヒンをそうおもった。オウエンするひとがバクハツテキなうりあげをつくるのである。オウエンがいいオンガクをつくらせるのである。

ニジュウ、『オ』よんジュウゴ

シィディやディブイディ、ホン、そのタネットワークなどでキョウキュウされる「こと」を、わたしは「ギジ（ダイリ）タイケン」とよんでいる（●『よ』ヒャクよんジュウよ

ん)。「ダイリタイケン」ではあるけれども、それらはジョウホウギジュツのハッタツで、ダイタイ、アッシュクされている。また、ナイヨウもムダなブブンをなくして、アッシュクされたナイヨウである。だからここでは、これらを「アッシュクタイケン」とよぶ。
サイキンのこれらのトクチョウは、カカクがやすくなっていることである。もしくはそんなにうれない。なぜかというと、チュウコシジョウをふくめて、タクサンのしなかずがあるからだ。キョウキュウがふえれば、カカクがテイカするというはなしだ。だから、ものとしてではなく、チュウコシジョウにながせない「データ」としてうるケイコウがつよくなっている。それなら、チュウコシジョウにながせないから、カカクがやすくならないというわけである。
しかし、まだシィディやディブイディ、ホンはつくられつづけている。だから、カカクのテイカはとまらないわけだ。トクにわたしがキグするのが、「アニメ」である。これは、ひとりがイチニチ、サンジュウマイのえをかいて、ゴセンヨンヒャクニチ。つまりジュウゴネンかかって、イチジカンハンのアニメがカンセイする。それほどてかずのおおいアッシュクタイケンなのである。このカカクがさがると、つくろうとするひとがへってくる。それをおぎなうためにコンピューターギジュツをつかって、ゴウセイしていくサクヒンがふえるだろう。そうすると、もはやアート（●ジュウゴ、『オ』サンジュウゴ）ではなくなる。まるばつさんとコンピューターのキョウサクですというようになる。だからそういうジョウキョウをさけたければ、オウエンすべきだとおもう。「アート」としてのアニメがホウフにあったジダイはおわりつつあるということだ。ほかのアッシュクタイケンもそうだが、トクにアニメがケンチョだとおもう。

ニジュウイチ、『オ』よんジュウロク

カガクというのは、エイゴでエスシーアイ、きるというセットウジのつくことばである。だから、ドンドンこまかくみていく。ケンビキョウができて、さらにブンシコウゾウ、またそれよりこまかいものをみるというように。
くすりはむかしはショクブツなどからつくっただろうが、いまは、カガクシキをかんがえてつくる。いいカガクシキをかんがえてつくる。いいカガクシキとゲンブツをつくれば、コキャクにかってもらえるわけである。しかし、ベツにそこまでこまかくしなくてもいいかもしれない。つまり、ヨブンがあるくすりみたいなものである。たとえば、ショウガのなにかのセイブンが、いたみにきくが、そこまでこまかくしないで、ショウガつかうといったぐあいにである。カガクシキにもとづいてブンシをつくるやりかたはメンキョがヒツヨウだったりする。しかし、コーヒーをチョウゴウするのにはメンキョはヒツヨウない。そういうくさカガクがおもしろそうだとおもう。たべたらおもしろくなるくさも、ハッケンされるかもしれない。

ニジュウニ、『オ』よんジュウなな

このまえ、マンネンヒツをデンシショッピングしていた。いまわたしがひらシャインだとしたら、ショウシンしていくたびに、どういうそれをつかうかというぐあいにしらべた。モチロンこのみがあるから、すべてがタイショウにはならない。ひとそれぞれのものがたりがあるからだ。しかし、えらんでみると、アンガイかずはすくない。シャチョウなるまでひととおりしらべたが、ジユウドはそんなにない。イチヤクショクにみっつセンタクシがあればいいホウだ。それでちょっとショウシンしたきになって（おそらく「かかりチョウ」だ。)、かってみた。
しかし、うれしいのだが（ショウシンがであろう。)、あまりキノウテキとはいえなかった。ガイコクセイ（カイガイフニンといえるかもしれない。ちなみにわたしのキャリアパスでは「とりしまりやく」までカイガイだった。）のそれは、ほそいといわれるふでさきでもふとい。だからわたしにはつかいづらい。キャリアパスをまっとうするには、エイゴをつかえばよいのかもしれないが、それもどうかとおもう。だからさらにセンタクシがせばまる。そうすると、えらんでいるのだが、ほとんどえらべないのである。また、ショウシンしたら、まえにつかっていたものにもどせないようなきもする。それはコウカクだからである。そういうわけで、シュッセするとあとがなくなる。
それなら、あまりショウシンしなくてもよいのではとおもうようになった。いまのマンネンヒツ（ショウシンまえ）にフマンがあるわけではない。よっぽどフマンやいきづまりカンがでてきたら、ショウシンさせればいいとおもうようになった。つまり、ショウシンするカイキュウもシゲンだから、タイセツにして、だれかがいきづまったら、そのひとをショウシンさせればいいということである。
ただ、がんばっているひと、ユウシュウなひとが、あまりセイセキのよくないひとにさきにショウシンされるというのは、あまりおもしろくないだろうから（そういうシャカイシュギのシッパイをくりかえすのではノウがない。)、カイキュウとキュウリョウはベツにするわけである。だから、ユウシュウなひらシャインのまるクンはネンシュウハッピャクマンエンだが、カチョウになったバツさんはネンシュウがヨンヒャクマンエンというぐあいにである。ショウシンについてかんがえてそうおもった。

ニジュウサン、『オ』よんジュウキュウ

ショクジをとると、やがてウンコがでる。これはニンゲンにとっては、あたりまえのことかとおもう。むかしのヨーロッパでは、それをそとのドウロになげすてたという。しかし、ゲンザイではゲスイドウにカイシュウしているのだろう。このようにチツジョからはイッテイのディスオーダー（フチツジョ）がでるということは、しかたのないことだとおもう。ほかのレイでいえば「ごみ」である。それをリサイクルして、またチツジョにくみこんでいくというホウホウをいまはとっている。かわって、ロウドウのバメンではどうだろうか。やはり「ウンコ」とか「ディスオーダー」はでないであろうか。
あまりきかないが、「ディスオーダー（カイシャからみれば)」ホンニンのモンダイではない、がたまってドクリツ、リショクするひともいるだろう。たまに、しんでしまうひともいる。そういえば、シンソツのあるイッテイスウがナンネンイナイにやめるといわれ

ている。しんでしまうのはトクにモンダイだが、タイショクするひとをふくめて、「ディスオーダー」のショリがわるいともいえるのではないか。テンショクするうちに、「ディスオーダー」のショリをおぼえていたのかもしれないが、わたしもそのショリがうまくない。まぁ、さけをのむなど、いいカイショウホウがあればいいとおもう。

ニジュウヨン、『オ』ゴジュウイチ

キョウソウをゼとしたり、キョウソウをいかんとしたりする。イッパンテキには、あるテイドのキョウソウは、そこであつかうものをシンカさせたりするためにのぞましいとされるのではないか。しかし、ホントウにそうなのだろうか。チョメイなショウをとったニホンジンはいるが、ニホンでサイコウとされるダイガクは、あまりコクサイキョウソウリョクをもたないという。そこにはいるためにタブン、キョウソウしたであろうにもかかわらずである。ホントウにダイジなのはキョウソウだろうか。あるキギョウブショのレイでかんがえてみる。
まるさんは、しごとができるホウで、バツさんはあまりしごとができない。このふたりがのみにいくと、まるさんは、バツさんのことを、「きみがいったダイガクがわるかった。だからしごとができないんだ。」などとさんざんいやみをいう。バツさんもバツさんで「そうだよね。おれのセイセキがわるかったから。」などという。これはセイサンテキか。また、かりにまるさんのことばにタイして、「ばかやろう。おれはおまえのコソクなやりかたがきにくわねえんだ。」といったとしてもどうだろう。ほとんどセイサンセイがない。しごとのはなしではなくコジンコウゲキをしているからだ。ダイジなのは、ココがそれぞれのしごとをきちんと、なるべくよくなるように、やることで、そういったフモウなシテキやケンカをすることではない。フモウなコウゲキやケンカをするブン、セイサンセイはさがるだろう。
だったら、キョウソウじゃないのかであるが、モチロン、セイセキによるキョウソウテキなものはあるだろう。しかし、それはそれでホンシツではないとおもう。フモウなコウゲキのかわりに「このまえのしごとのカイゼンをかんがえた。こうこうなんだけどおまえはどうおもう。」「それならああしたホウがはやくできる。」となればセイサンテキである。わたしにいわせれば、ベンショウホウのあるココのドリョクではないだろうか。カイゼンがヒツヨウなければ、ベンショウホウはいらない。キホンテキにはしごとはコジンがするものだからである。しかし、ニホンのダイガクのコクサイキョウソウリョクがひくいというのは、ニホンジンがベンショウホウをにがてとするからではないか。

ニジュウゴ、『オ』ゴジュウニ

「うまれかわり」などという。「ゼンセイはなんだったか。」というはなしも、わたしがこどものころにきいたことがある。それはイデンのはなしではない。マテリアルのはなしである。

エーさんというひとがいたとして、そのエーさんのイチブは、もと うしや、もとホウレンソウでできていることは、ヨウイにソウゾウできる。わたしも（このいいかたがテキトウかはわからない。「わたし」は、ジョウホウであるカノウセイがあるからだ。）、そういうぐあいである。わたしがしんだら、タブン、カソウされて、ほねとキタイとかすがのこるんだろう。そこからどうリサイクルされるか、なんかのドウブツ、ショクブツのかてになるかはわからない。ほねは、はかなどでホゴされるだろうし、キタイはふたたびリクチにおりてこなければわからないし、かすはカソウジョウのゴミとしてショリされるのだろう。

こういうかんじでは、「うまれかわり」はゼツボウテキだ。わたしはドソウができないのなら、サンコツとかジュモクソウにしてもらいたいかもしれない。サンコツやジュモクソウなら、ショクブツにほねがキュウシュウされて、それがドウブツにたべられてという「うまれかわり」がセイリツする。わたしをかりにマスター（シソ）としたら、そのイチブたちがうまれかわりをするわけだ。その「イチブ」をワンスルーということにする。ワンスルーがうまれかわりをするということは、もののリサイクルである。だからそうするばあいは「ライセイ」のはなしにもなる。

くさからドウブツ、そしてニンゲンになれればたいしたものだ。そういうわたしもカコのだれかのワンスルーがふくまれているかもしれない。ヨウするに、ゼンセイのゼンセイがニンゲンだったかもしれないのだ（ゼンセイはショクブツかドウブツがほとんどだろう。たまにキンルイとかコンチュウもあるかもしれない（きのこ、いなごなど）。

だからゼンセイをさかのぼっていくと、やっぱりマスターにいきつくだろう。ニンゲンのマスターのことをセイショではゲンキュウする。そこからまえのはなしになると、どうもたちばがわかれるようだ（かみがつくったとか、シンカしたとか）。マスターヒューマンのゼンセイはどうだったか。やっぱりくさとかドウブツだったとかかんがえるのがシゼンでないか。イデンシをしらべればわかるといったって、サイボウのフクセイギジュツはジョウホウである。ものがなければフクセイはできない。もののありかたにオウじて、ギジュツがハッテンしたのではというきがする。

だから、くさとかドウブツのブンシをしらべれば、かこにあったもの、シンカするまえのくさ、ドウブツのすがたがソウゾウできるのではないかとおもう。しかし、くさ、ドウブツ、プリヒューマン、ヒューマンというジュンカンはそれほどかわらないとおもう。だが、セッキ、テッキをハッタツさせるまえの「プリ」ヒューマンはドウブツのセッシュがすくなかったようにおもう。だからゲンシテキなヒューマンは、くさ、プリヒューマンというジュンカンだっただろう。「はか」をハッタツさせるまえだったら、くさ、「プリ」ヒューマン、ドウブツだっただろう。つまりドウブツのホウが、カイソウがたかいのだ。それをマイソウギジュツのハッテン（はじめのうちは、ユウリョクシャだけだっただろう。）により、「プリ」ヒューマンがカイソウをあげた（もはやヒューマンかもしれない。）。セッキのハッタツもジュウヨウだが、それでもやっぱりドウブツのホウがうえとなる。もっとまえになると、ショクブツよりカイソウがひくかったかもしれない。つまり、うごけないプリプリヒューマンである。ショクブツ（こけのような）にキセイされるようなプリプリヒューマンである。

プリプリヒューマンのまえはわからないが。さるからハッテンしたといわれたりもする

が、ホントウのところはわからない。さるはさるでのこっていわけだから。イデンシがにているといってもそれはショクリョウのキンジであろう。それともコンゴ、ポストヒューマンをみとめるのだろうか。ポストヒューマンをみとめるとしたら、シンカのズシキにあるようなえだわかれもカノウだろう。まぁ、ブゾクあらそいなんかしてもしょうがないのだが。
ひとついえるのは、セイショがかかれたのは、はかがハッタツしたあとだろう。それかドウジキだったかもしれない。だから、「ニンゲンがチキュウをシハイ」なのだ。エジプトおうのコウセキがおおきいだろう。あんなおおきなはかをつくったのだから。そのまえはほかのドウブツがチョウテンだった。もしヨゲンシャがジュウヨウなもののハッテンのときにあらわれるのならば、セッキをつくったときにもあらわれるはずだ。ただそれをキロクするものがなかったかもしれない。ただ、はかとドウヨウにフキュウしただろう。ただ、ニホンにはイッパンテキに「サイゴのシンパン」のかんがえがないので、もやしてしまうのだろう。リンネテンセイのホウがいいとおもうのだが。

ニジュウロク、『オ』ゴジュウサン

ユウセイセイショクのリテンとはなんだろう。クローンもつくれるジダイのはなしである。よりよいケイシツをもちあって、よりよいこがつくれることだろうか。たしかにそれならすぐれたひとばかりになる。ただそれはギャンブルのようで、よりわるいケイシツがのこることもある。しかし、そんなにシゼン、そしてシャカイカンキョウはきびしいのだろうか。たしかにショクリョウがなかったり、みずがなかったりするチイキはあるようだ。
いまなら、いいデンキ（デンシキキ）をつくれるひとがユウシュウなんだろうか。かわでセンタクをしてもいいはずだ。まぁ、デンキはフウリョクハツデンでもできるから、ネンリョウにたよらないデンキジダイはいいかもしれない。さしづめ、このまえは、ユキ（セキユ）ジダイだろうか。そのまえは、タンキ（セキタン）ジダイだ。はたしてこういうシンポは、いつまでつづくのだろう。それがユウセイセイショクのシュクメイだろう。

ニジュウシチ、『オ』ゴジュウロク

「わをもってとうとしとなす。」とショウトクタイシがいったという。だからニホンジンは「わ」をダイジにするんだろう。ニホンはシュウダンシュギのブンカともきかれる。それでいいのかというハンセイがあったかわからないが、わりと「コ」のこともいうようになった。「コセイソンチョウ」など。ただ、ロウドウシャにとってはロウドウすることがダイジだろう。「わ」でも「コセイ」でもいいが、とにかくはたらくことだ。
サギョウというのはキョウドウサギョウもあるが、ひとりでやるのがキホンだ。だから、「コ」がしっかりしていなければいけない。あまり「わ」をおもんじてしまうと、「わ」をなすサギョウ、タンジュンにいえば、なかよくするためにジカンがさかれてしまい、カ

ンジンのしごとがはかどらないとなる。だから「わ」をなすでもほどほどにしたホウがいい。「わ」をおもんじすぎると、カイカクがすすまず、「コ」をおもんじると、ヤクショクからおろされたりと。わたしからみれば、「わ」をおもんじすぎると「ヘイサテキ」におもえる。

ニジュウハチ、『オ』ゴジュウなな

さきにはなした「ゼンセイ」のはなし（●ニジュウゴ、『オ』ゴジュウニ）は、もののはなしである。イデンシによってサイボウがフクセイされるというのは、どちらかというとものはなしではない。「もの」はほかにヒツヨウだからだ。だから、ジョウホウとかギジュツであろう。サイキンは「ゼンセイ」のはなしをあまりしなくなった。むかしはだれかがしているのをきいたものだ。「オカルト」とかそっちのホウのあつかいになっているかもしれない。そういうわたしも、そのてのはなしは、すきではなかった。ヒカガクテキなはなしのようにおもっていた。
しかし、よくかんがえてみると、「もの」のはなしである（ニンゲンのからだをコウセイするブッシツの）。だからそれはたしかなのである。ただそれがどこからどこにいったといったはなしは、タイテイオクソクだからウサンくさい。そういうことである。ジョウホウにはいいカゲンなそれがある。ただそれだけだ。
ところが、サイキンそのはなしをしない。どうもイデンのホウが、セットクリョクがあるのだろう。ガッコウでもおそわる。しかし、それがどのザイリョウをつかってカノウになるかはあまりいわない。セツメイはカノウだろうが、そういうもののはなしはしない。そういうのを「ジョウホウカシャカイ」というのだろう。そのジョウホウをしったって、ものがなければくみたてられない。だからしょうがないといえばしょうがないはなしなのである。そういうものぬきのはなしにどこまでたえられるか。オンガクもビデオもホンもデンシカ。もののないなにかである。むかしはジンリキでつくっていた。それをアートとよぶ（●ジュウゴ、『オ』サンジュウゴ、ニジュウ、『オ』よんジュウゴ）。どこまでジョウホウカするのかはわからないがアートをダイジにしたい。

ニジュウキュウ、『オ』ゴジュウキュウ

ワンスルーのはなしをした（●ニジュウゴ、『オ』ゴジュウニ）。マスターヒューマンのイチブだったそれには、マスターヒューマンのほかのイチブというキョウダイというかドウシというかがあるだろう。マスターヒューマンがしんでブンカイすると、そのタスウのワンスルーはカクサンする。そしてつぎのショクブツやドウブツのコウセイブツになるわけだ。センコワンスルーがあれば、センコのドウショクブツのコウセイブツになるかもしれない。そうすると、そのセンコのワンスルーのエンで、センコのドウショクブツはキョウダイといえるかもしれない。それがくりかえされると、シンセキがふえていく。そうかんがえると、カケイでなくて、ものとして、ケッコウなかずのひととキョ

ウダイであるといえそうなのだ。それをニンシキできるかはわからないがそういうエンもありそうだ。

サンジュウ、『オ』ロクジュウ

ニジュッセイキのゼンハンにはインフレがおこったという。おかねよりもののホウがアンゼンだと、ひとびとがハンダンすれば、ものがヒツヨウイジョウにかわれ、もののねだんがあがる。ニホンもセイサクテキにインフレをねらっているらしい。スウパーセントテイドのインフレという。
しかし、きをつけなければならないのは、もっとおおきいインフレだ。それはセイフフサイのショリによっておこるかもしれない。すでにセイフやジチタイのコウサイハッコウガクはセンチョウエンをこえた。これはかえせるのかというと、いまではキンリをかえすのがセイゼイのようだ。だからもっとふくらむ。それをひどいやりかたで、たとえばブッカにテンカするというやりかた（タンジュンにいうと、ショウヒゼイのようなゼイキンをとりたててショリするやりかた。）をすると、シジョウにでまわっているエンをニヒャクゴジュッチョウエンとカテイして、それのよんバイのセンチョウエンを、ショウヒンカカクにうわのせすることになる。つまりニヒャクゴジュッチョウエンで、センニヒャクゴジュッチョウエンのものをかうことになるから、カカクはゴバイになる。もうひとつかんがえかたがある。
あとスウネンでセイフフサイはコジンキンユウシシサンとおなじくらいのガクになる。そこでセイフがトクセイレイをだしたらどうなるか。セイフフサイのブンだけあたらしいかねがヒツヨウになる。それをジッサイにすると、コジンキンユウシサンとあわせ、コジンキンユウシサンのニバイのかねがあふれることになる。そうすると、ニバイのインフレとなるわけである。どちらにしてもきびしいが、ヨウイをしておくといいかもしれない。

サンジュウイチ、『オ』ロクジュウニ

やすいなにかはおかいどくかもしれない。わりとカカクをみてかいものをしたりするだろう。やすいものをえらんだりする。しかし、「やすものがいのぜにうしない」ともいう。なぜか。それはやすいカカクには、リスクがふくまれていることがあるからだ。つまり、それはフベンなもの（サービス）だったりするわけだ。うるホウもなるべくたかくかってほしいところであろう。だから「やすい」にはきをつけたほうがいいだろう。

サンジュウニ、『オ』ロクジュウゴ
こどもはやがてガッコウにいく。ガッコウでキョウカショをめくり、ジュギョウをうける。ガッコウをソツギョウしても、やっぱりジュギョウにおセワになるかもしれない。な

にかというとテレビである。ガッコウですなおにジュギョウうけていられたのなら、テレビキョクがながす「ジュギョウ」をうけるくらいわけないであろう。そうかんがえると、ニホンジンはしぬまでベンキョウしているんだなとおもう。そういえばわたしのオヤジもケッコウテレビをみていた。しかし、わたしはカイガイにいっていたときがあるので、ことばがわからずテレビをみないことがおおかった。いまになってもそんなにみない。だから、そのセンでいくと、わたしはわるいセイトだ。「ベンキョウ」していないことになるからだ。
しかしながら、そういうジカンができたことでかんがえるようになった。かんがえたってしかたないのであるが、ちょっとかわったセイトになったかもしれない。いまは、パソコンネットワークのハッテンで、そのホウメンからハッシンされるニュースをよんだりする。パソコンガッコウのセイトではあるわけだ。それはなにがいいか。うるさくないことであろう。それはホンをよむこととかわらない。つまり、「キョウカショ」だけちょっとよんで、あとはジシュウしているのである。だからしゃべるのはへたになるかもしれない。モデルとなるセンセイのことばをきかないわけだから。

サンジュウサン、『オ』ロクジュウロク

ひょっとしたら、「かみ」が、かんじるひとの「そと」にあろうが、「うち」にあろうがモンダイはないのかもしれない。それはこういうことである。ゲンダイには「マヤク」があるとされている。そのマヤクをつかうひとの「うち」にいれるのはモンダイとされるが、「そと」にあるばあいもまたモンダイなのである。それは、マヤクをつかったり、うりかいしたりするカノウセイがあるからである。「そと」にもっているとすれば、そのひとがつかわないにせよ、チキュウシャカイというおおきなめでみれば、つかっているのとドウヨウであろう。
タブンこういうことだとおもう。マヤクは「ある」イジョウしかたがないが、あるノウドをこえてセッシュするとモンダイだと。タンジュンにいえば、「ある」マヤクをセカイジュウのひとにキントウにいれさせればモンダイはないと（コウカがうすい。）。こいノウドであるひとの「うち」にいれるからモンダイだと。だから、ホウリツテキにはキンシされているのだけれども、「ダメ」か「ダメじゃない」かのニタクではなくて、テイドのモンダイなのであろう。「マヤク」だってリサイクルがあるはずなのである。
このモンダイは、「かみ」にもいえるかもしれない。やっぱり「うち」にあるか「そと」にあるかはモンダイなのではないだろう。キョウシンはこわいメンもあるけど、まったくないといいきるのもこわい。テイドのモンダイではないか。

サンジュウヨン、『オ』ロクジュウなな

ハチジュウネンダイからキュウジュウネンダイに、ニホンはコウギョウセイサンなどのシュイのザについたともいわれる。しかし、それイコウあまりそういうことをいわなく

なった（シュイからおちたからでもあろう。）。「まもりをかためたふねぶね」みたいないいかたもあまりきかない。ジッサイに、オウベイではケイザイセイチョウがつづいているが、ニホンはあまりしていないという。なぜそうなのか。
わたしなんかのレイでも、なにかがたりないなかでケンメイにドリョクしているときはタイクツとかそういうことはおもわなかった。しかし、ひととおりものがそろってしまうと、そのあとにタイクツとおもってしまう。つまり、ニホンジンが「センゴフッコウ」のブンミャクでうごいていたときは、とにかくがんばっていたが、ひととおりそれがおわると、あまりがんばらなくなったのではということだ。がんばらなくなったというか、がんばりにくいのだろうとおもう。
わたしなんかはこどものころにめぐまれていたので、「センゴフッコウ」のセンでかんがえることができなかった。しかし、「センゴフッコウ」がおわっても、セイサンカツドウはおわらない。ジブンとショウブなのかもしれない。シンリガクでは、ジブンのそとのモンダイでがんばらなければいけないときは、そのモンダイがなくなると、ドリョクをやめてしまいがちだが、うちの（そのひとの）モチベーションでなにかをすると、やるきがながもちするという。ニホンジンもそうした「うち」のモチベーションでしごとをやるときなのかもしれない。

サンジュウゴ、『オ』ロクジュウハチ

かねのあつまるところにトシができる。トウキョウもそうだし、ニューヨークだってそうだろう。いまはセイフがゼイキンをとってサイブンパイをおこなうから、セイジジョウのシュトにトシができることがおおい。セイフがゼイキンをとらなくなったらどうなるか。かねもちのいるところ、キギョウのあるところにトシができるはずだ。キギョウジョウカまちということばがあるが、それがふえるだろう。そうすると、シャカイタイセイはトシコッカにちかくなるであろう。
いまのところ、セイフがいらないというはなしはあまりしないが、もしいらないとなると、そういうタイセイになろう。いくつかのトドウフケンをまとめるやりかたよりキョクタンではあるが、むかしはそれでやっていたくにもあるので、フカノウではないだろう。しかし、やっぱりセンソウになるのかもしれない。

サンジュウロク、『オ』ロクジュウキュウ

「はか」がセイブツカイにおけるニンゲンのカイソウをあげたことをシテキした（●ニジュウゴ、『オ』ゴジュウニ）。これはユウメイなのでエジプトおうのはかがある。こういったはかでまもれば、ほかのドウブツにシタイをたべられないわけだ。それからキュウヤクセイショができた。「ニンゲンがほかのドウブツをシハイする。」とかかれている。こうかかれると、それをタッセイするために（ほかのドウブツにたべられるようじゃ、くらいがたかいとはいえない。）、はかをつくるだろう。だから、キリストキョウは、はか

のシュウキョウとよべるかもしれない。
それをヨーロッパではニセンネンほどつづけ、ジュウキュウセイキになってニーチェがでてきた。かれは、「かみはしんだ。」といい、サイセイをといた。ほかのなにかにサイセイされるということを。その「サイセイ」というのは、「リンネテンセイ」のようなはなしでないか。つまり、ニセンネンほどニンゲンがセイブツカイでサイジョウイとして、ほかのドウブツにたべられないようにしていたが、そうではなく、ニンゲンもリサイクルしたホウがいいということではないか。たしかにキリストキョウカイのセイリョクが、よわくなっているときく。しかし、マイソウについては、サンコツやウチュウソウなどでてきたが、まだフツウのマイソウがおおいとおもわれる。たしかにリサイクルのシソウはひろまっているようだが、まだニンゲンのカイソウをおとすようなかんがえが、タスウにシジされにくいとおもわれる。そういうイミではまだ「かみ」はしんでいないのである。ただ、このゴはどうであろう。

サンジュウシチ、『オ』ななジュウ

ひとがフユウソウとなるとき、おかねをもつようになるのがさきか、それともフユウソウのタイドができるようになるのがさきなのだろうか。かねのないフユウソウじゃしょうがないから、おかねをもつことがさきとかんがえられるかもしれない。しかし、いきなりおかねをもったばあいは、フユウソウのタイドができていないから、「なりキン」とよばれることがおおいのではないか。ウェーバー（マックス、ドイツのシャカイガクシャ）は、プロテスタントのひとたちのセイジツさがシホンシュギをハッタツさせたという。つまり、タイドがさきでおかねはあとなのではないかともいえる。ニホンではコウレイシャがケッコウなシサンをもっているというから、やっぱりシサンができるタイドができていたのだろう。もしコウレイシャなみにシサンをもちたいというのであれば、コウレイシャのタイドをまなぶといいだろう。わたしはまだまだそれができていないから、おかねもちにはなりにくいかもしれない。

サンジュウハチ、『オ』ななジュウよん

ローカルでのひとづきあいがすくなくなったなどといわれる。また、ミコンシャがふえているともいう。なぜそういうことになるのか。それはヒヨウのモンダイかもしれない。ローカルでひとづきあいするばあい、それぞれがなにもヨウキュウしなければ、ヒヨウはレイにちかいか、レイだろう。ジカンやロウリョクはかかるかもしれないが、ほかにはかからない。しかし、もっといいジョウケンがある。それはカイシャとのつきあい、カイシャでのつきあいである。それだと、ヒヨウがマイナスになったりする。キュウリョウがはいったり、ケイヒでおとされたりするからだ。だから、ローカルのつきあいより、しごとでのつきあいをユウセンする。そうすると、ローカルでは、ひとづきあいがうすれてしまうのだ。そうすると、ちかばのひとをしらなかったり、エンができなかったり

するだろう。それならそれでカイシャがケッコンあいてをショウカイすればいいかとおもうが、なかなかむずかしいのかもしれない。シュウシンコヨウのジダイならともかく、「リストラ」をしにくくなってしまうからだ。

サンジュウキュウ、『オ』ななジュウゴ

ウチュウのはじまりは「ビッグバン」でセツメイされることがある。バクハツだから、ウチュウはそとがわにむかってひろがっていく。そうすると、バクハツのチュウシンでは、ものというかシゲンというかはすくなくなるだろう。それでそとへむかってシゲンがイドウし、ウチュウはどうなるのか。
ここでいいたいのは、ウチュウのサイセイサンはどうなるのかということだ。そんなことしるかといわれるかもしれないが、ながもちするといいだろう。タンジュンなコウセイのばあい、やがてもえきって、「ブラックホール」になるとおもわれる。それで、うそかホントかはわからないが、シゲンをよびもどすわけである。これならサイセイサンである。ウチュウジタイもやはりそうなのでないか。ムダにしないようなしくみがあるじゃないかとおもう。ちいさなまるとドーナツがたのくりかえしでないか。

ヨンジュウ、『オ』ななジュウなな

まえに、たらこやイクラをたべなくなってきているから、こどものかずがへっているのではとかいた（●『むしのツゴウニンゲンのツゴウ［イカ、む]』ヒャクサンジュウシチ)。また、「まるまるこ」と「こ」をつけたなまえをつけないから、やはりこどもがすくなくなってきているのではとかいた（●『よ』ヒャクロクジュウロク)。さかなのたまごをたべなくなっていることと、「こ」をつけたなまえをつけないことは、イッシュのリュウコウであるが、いってみれば、あまりチュウモクされないリュウコウだ。それをセンザイテキリュウコウとよぼう。そして、それをホジするものを、センザイテキリュウコウのシンリコウゾウとよぶ。
「こどもがすくなくなっている。」のは、わりといわれるリュウコウである。よくいわれるリュウコウはそれなりのリユウがセツメイされるが、あまりセンザイテキなリュウコウのはなしにならない。ましてやシンリコウゾウのはなしだとなおさらだ。ほかにヒコンカのリュウコウもそうだ。これはなにがセンザイテキなリョウコウになっているかというと、わたしがおもうに、「おむすび」をあまりたべなくなったことだ（「おにぎり」はたべているかもしれない。)。
よく、コンブをたべて、「よろこぶ」とか、まめをたべて、「まめにはたらく」とかいうが、それもたべるリョウがへっているのかもしれない。ニホンジンは、センザイテキなリュウコウやそのシンリコウゾウにすなおなのではないかとおもう。きれいによくみえるリュウコウにつながるからだ。ことたまシコウというのがうなずけるようである。

ヨンジュウイチ、『オ』ななジュウキュウ

コンピューターのハッタツで、チュウトウキョウイクがあまりやくにたたなくなるとかいた（●サン、『オ』ジュウ、ジュウサン、『オ』サンジュウサン）。それでもまなびたいひとはいるだろう。いまのところはキョウイク、シュウショクシステムにくみこまれているので、そうカンタンにくずれないとはおもうが、ケンサクすればすぐでてくるチシキをおぼえるのに、サンネンかけていいのかというモンダイがある。
コンピューターがコンゴもモンダイなくつかえるのであれば、スウガクやカガクなどを、ゲイジュツのようなセンモンブンヤとしてあつかっていくことがかんがえられるであろう。つまりオンガクなどとおなじあつかいにしてまうのだ。くわしくはダイガクでケンキュウしてくださいでもいいだろう。それができれば、コクゴやエイゴくらいのキョウイクのみでイチネンでおわらせることができるのではないか。これだと、ジュウななサイでダイガクやセンモンガッコウにニュウガクできる。サンネンブンロウドウリョクもふえるだろう。

ヨンジュウニ、『オ』ハチジュウ

まえにセンザイテキリュウコウのはなしをした（●ヨンジュウ、『オ』ななジュウなな）。しかし、おもいだしてみると、そういういいかたをしなくても、「エンギ」といういいかたがある。つまり、さかなのたまごをたべるという（「こダクサン」など）エンギをかつぐから、こどもがタクサンうまれるというぐあいにである。
サイキンは「エンギ」ということばをきかなくなった。エンギをかつぐより、なにかのコウカがあるかないかみたいに、キノウシュギテキになってきているのかもしれない。たしかにさかなのたまごをたべたからといって、かならずしもこどもができるわけではないだろう。だからといって、メイシンだでおわらせていいのか。コウカがあるかどうかはともかく、ひょっとしたらこどもができるかもぐらいに、たのしみながらにしたいものである。どうもゲンダイジンは、きみじかなのかもしれない。

ヨンジュウサン、『オ』ハチジュウイチ

ニホンでは、ひとがしんだあと、そのシタイをカソウする。そうすると、ほねだけがのこる。それをマイソウする。しかし、それはちょっとどうなのかともおもう。なぜはかにマイソウするかといったら、ひとつはさきにのべたように（●『オ』ニジュウなな、ニジュウゴ、『オ』ゴジュウニ、サンジュウロク、『オ』ロクジュウキュウ）、ほかのドウブツにたべられないようにするためだといえる。これはキリストキョウケイのカチカンであろう。そうやってニンゲンのくらいをイジするのである。
しかし、「リンネテンセイ」だとか「サイセイ」また「リサイクル」というひともいる

（●サンジュウロク、『オ』ロクジュウキュウ）。それだったらほかのドウブツにたべてもらったホウが、いのちのエイゾクセイがあるともいえる。つまり、あるひとがもっていたブッシツとしてのからだ（わたしはワンスルーといっている［●ニジュウゴ、『オ』ゴジュウニ］。）が、ほかのドウブツ、ショクブツにひきつがれるのだ。だから、きみのライセイはたぬきか、などとはなしができる。
かならずしもキリストキョウのように、「ニンゲンがほかのドウブツをシハイしなければならない。」ではないから、そうやってリサイクルをすればいいようにもおもえる。たしかにテンにめされることも（●ハチ、『オ』ニジュウよん）（セイブツではなくて）、もののメンでダイジかとはおもうがテキトウなバランスをみて、リサイクルをすればともおもう。カソウしてゼンメツさせなくてもとおもう。「テン」にめされるとナンオクネンとシンカしたのをもうイッカイとなるし、「テン」にめされないひとも、「リサイクル」され、ゲンダイのセイメイのホゼンにひとカツヤクする。それでいいのではないか。

ヨンジュウヨン、『オ』ハチジュウニ

わたしは、『アルクカラカンガエル（●『ア』ヒャクハチジュウサン）いった。あるくから、フウケイがかわってノウがはたらくということである。だからうごかないひとはあまりかんがえないであろうということだ。うごかない「もの」が、かんがえるというのはあまりきかない。サイキンはやりのカテイヨウジンコウチノウソウチにしたって、デンキがなければ、データをあつめられないので、たいしたことはできないであろう。そうかんがえると、デンキがあるからかんがえるかもしれない。
ニンゲンもテレビがうつっていると、かんがえたりもするであろう。おわらいバングミの、ここでわらうのですよとシテイされ、サンプルのわらいごえがでるシュンカンにわらうのは「かんがえる」とはいわない。それはだれかのまねをしているだけだ。それだと、シャカイのジョウシキとかホウソウサッカのおもいをくんだ「かんどおり（●『む』よんジュウイチ）」だ。かんがえるとは、「カン」をヒテイしなくてはならない。ベツにそんなことはしなくてもいいのだが、ひとはいろいろなリユウがあってかんがえる。
しかし、フウケイがかわるとか、ジョウホウがあるとか、デンキがないとかんがえられないのである。もっというと、たべものをたべないとしんでしまう。エイヨウもかんがえるもとである。エーアイのハッタツがケンチョになると、それにまけじとかんがえるひとは、よくあるくようになるか、それともうごかずショウエネでかんがえるようになるかはキョウミのあるところである。
すべてのジョウホウのくみあわせで、ヨソクされるとなると、ニンゲンのかんがえることはエーアイによまれてしまう。だから、よまれたくないニンゲンはイチレイヒシャ（ショウギ）のようなてをとりだすだろう。タンジュンにいえばルールをかえてしまうのだ。ニンゲンのブンカも、そういうルールヘンコウをしながらハッタツしたともかんがえられる。カンタンなレイだと、ラテンゴをはなしていたのを、フランスゴではなすようにしたり、コゴをつかっていたのをゲンダイゴにかえたりということである。だから、エーアイがカッタツになると、たとえば、エイゴがチンプカするということがおこりそ

うなのである。グタイテキにいうと、いままでつかっていたエイゴではなくて、ほかの、またはあたらしいことばをつかいだすだろうということだ。レキシをみるとそうだ。

ヨンジュウゴ、『オ』ハチジュウサン

ニホンにガッシュウコクサンのこむぎと、ギュウニクがはいってきたから、ニホンジンのなかに、かみがチャイロのひとがあらわれたのなら、まぁしょうがない（ガッシュウコクサンのこむぎやギュウニクには、ドソウされたガッシュウコクジンセイブンがはいりこむあろう。）。
わたしのひげなんかにも、しらがとともに、チャイロのけやブロンドのけがまじったりする（ベツにそめたわけではない。タンにガッシュウコクサンのこむぎやギュウニクをたべたケッカであろう。）。ところがそのひとたちは、ジブンのてで（ビヨウシにやってもらうこともあっただろうが。）、チャイロにしたり、ダッショクさせてしまったりしていた。そのひとたちは、タイジュウヒでイッパーセントからジュッパーセントテイドのガッシュウコクサンのたべものをたべたのだろうか（イチリンでもイチわりでもなく）かみのけをヒャクパーセントそめてしまった。そういうひとたちを「ロッカー」なり、「ヤンキー」とよんだが、それはまぁどういうことであろう。
しかし、ジンコウヒでいえば、トウショはイチリンとかイチわりだった。それがふえていったようだ。それをみると、セイフハッピョウのジキュウリツより、ただしいスウジがわかるかもしれない。ニわりテイドガッシュコクサンのたべものをニホンジンがたべているのかもしれない。わたしはそういうフウにかみをそめるひとをボウメイシャ（●『ア』ヒャクニジュウシチ）とよんだが、まぁ、やっぱりニホンジンなのではないかとおもう。しかし、それだけのニンゲンが、ガッシュウコクサンのおかげでいきているというジジツではある。「ニチベイドウメイ」ということばは、ウサンくさいことばだとおもうが、タイベイイゾンというのは、ゲンジツにソンザイするわけである。

ヨンジュウロク、『オ』ハチジュウよん

トシのホウでは、そこにすんでいるニホンジンのウンコは、うみにながれるようになっている。ひょっとしたら、ゲスイショリジョウでぬきとられるかもしれない。しかし、エキタイのセイブンをすべてぬきとることは、むずかしいであろう。うみにながれると、うみのショクブツのエイヨウになる。だからうみがゆたかになる。
しかし、ノウチもゆたかにしたいだろう。だから、うみにハンブン、ノウチにハンブンをながせばいいかもしれない。イチニチにロクセンマンウンコがうみにもどされれば（ニホンジンがさかなやのりをたべたとカテイするとそういえるだろう。）、サイセイサンにつながる。
きになるのがとなりのジンコウのおおいくにだ。ハンブンながしただけでロクオクウンコになる。そうすると、そのくにのエンカイがゆたかになるはずだ。そこにハイタテキ

ケイザイスイイキ（イーイーゼット）というキジュンをもちだして、ニホンのギョセンががんばってしまうとケンカになるだろう。たしかにイーイーゼットはひとつのキジュンではある。しかし、バンノウではないだろう。だからそのカイイキのあつかいにカンしてはジュウナンにするのがよいかとおもわれる。「ウンコをかえせ。」といわれてもなかなかむずかしいからである（セイサンリョウがちがう。）。レイセイにいうと「シゲン」なのである。

ヨンジュウシチ、『オ』ハチジュウハチ

サッカーでもヤキュウでも、しばらくみているとルールがわかってくる。これらはあいてよりおおくゴールすればかちというキョウギだからわかりやすい。エンギをヒョウカするニンゲンがテンスウをつけるキョウギもある。それもしばらくみていれば、どのくらいのテンがつくかというのはわかってくる。それはみているひとが、テンスウのつけかたをガクシュウして、テンスウをヨソクするわけだ。ニンゲンはそういうことができるが、コンピューターもそういうことができるだろう。
セイジショクぬきのコンピューターにヒョウカさせたホウが、よりコウセイかもしれない。そんなことをいっていると、シンパンというしごとがコンピューターにうばわれてしまう。しかし、ニンゲンのいいところは、ひいきをすることかもしれない。まるばつセンシュにコウトクテンをつけたりするというやりかただ。コンピューターは、このてのことがにがてでないか。
しかし、ひいきするシンパンは、ひいきをしたセンシュからはよくおもわれても、ほかのセンシュからはよくおもわれない。だが、コンピューターをドウニュウすると、ニンゲンのシンパンはそのくらいしかしごとがないだろう。そうやってニンゲンは、コウセイというチュウドウテキなポジションからコンピューターによっておいだされてしまう。コンピューターとおなじイケンなら、そのひとのかわりにコンピューターがあるんだから、そのひとはいらないとなる。
そうして、ニンゲンは、かたよったたちばをとるようになる。いってみれば、ニンゲンがよりコセイテキになるわけである。コセイテキでなければコンピューターにかわられてしまうからだ。いまはエイゴがキョウツウゴだから、あえてドイツゴをガクシュウしようとかになるだろう。コンピューターがエイゴシヨウであれば、ドイツゴではなしていれば、コンピューターとしごとのメンでぶつからないことになる。それならそのことばをつかうかぎり、チュウドウテキなたちばのもどれる。しかし、タブン、ドイツゴもコンピューターのおよぶハンイだ。だからベツのことば、たとえばラテンゴとかをガクシュウする。それならやっぱりチュウドウテキなたちばをとれる。ユウキのあるひとなら、あたらしいことばをつくるだろう。そうやってコンピューターとかぶらないように、ふるいことば、もしくはあたらしいことばを、ひとはセンタクするようになる。それならコンピューターにしごとをうばわれないからだ。このジョウキョウをチンプカされたシャカイ（オールドファッションドソサエティ）とよぶ。つまりゲンジョウのシャカイは「ふるい」ということである。

そして、もっとふるいゆえに、あたらしいことばやブンカに、ひとはアイチャクしようとする。チンプカされたシャカイ（ふるいシャカイ。コンピューターがカツヤクしているゆえに。）では、コンピューターによってしごとをとられてしまうから、ふるいか、あたらしいシャカイにひとはテイイしようとする。みちのイメージでいえば、みちのまんなかは、コンピューターというくるまがはしっている。のっていればアンゼンだが、それをかうのにはおかねがかかる。だから、ひとは、みちのひだりか、みぎによる。ひだりをあるくのは、あたらしいことばやブンカをシコウするひだりみちハだ（セイジショクはない。）。もうひとつ、みぎをあるくのは、かなりふるいことばやブンカをシヨウする、みぎみちハだ。できればチュウオウをあるきたい。しかし、あぶないので、どちらかによるわけだ。
しかし、ひだりみちハも、みぎみちハもアンシンはできない。くるまがよりおおきくなるカノウセイがあるからだ。いってみると、コンピューターかコンピューターをつかっているニンゲンが、ひだりやみぎに、ちょっかいをだすかもしれないわけだ。タンジュンにいうと、ひだりやみぎのことば、ブンカをコンピューターにインストールしようとすることだ。そうやって、コンピューターによって、わたしたちのくにやチイキがショクミンチカされようとする。ショクミンチとはどういうことか。やすいねだんで、ザイ、サービスをソウシュコクにテイキョウさせられることだ。そういうかんがえかたはあまりみえないが、まだのこっていなくないか。
とりひきとは、ホンライソウホウのゴウイでおこなわれるものだ。しかし、ショクミンチのばあい、ブリョクやシリョクによって、とりひきをキョヒできないようにしたうえで、とりひきがおこなわれる。いまのばあいだと、「ジユウボウエキ」というかんがえかたである。そこではとりひきをキョヒできないように、とりひきがおこなわれる。つけくわえると、キョヒはできるが、あいてもなにかのとりひきで、キョヒやカカクのつみましをせまるだろう。そうやって、コンピューターテイコクはセイリョクをのばす。しかし、わたしは、わたしジシン、もしくはいえのドクリツをイジしたいおもう。

ヨンジュウハチ、『オ』キュウジュウ

セイヒンをカイガイでつくれば、ねだんをやすくできるという。たしかにおかねのメンでいえば、やすくつくれるところもあるだろう。キュウリョウがやすいなどのリユウだ。しかし、ホントウにやすいのか。あるセイヒンエーをつくるのには、ふたりがかりで、サンジュウニチかかるとする。それをカイガイでつくっても、ふたりがかりで、サンジュウニチかかるだろう。カカクのメンではともかく、エネルギーのメンでは、かわらないのである。コストがちいさいとかいうが、やっぱりつかうエネルギーは、かわらないであろう。それなら、コストはちいさくないはずだ。コストはおなじなのである。
ただ、つかうエネルギーのリョウは、かわらずとも、やすくうけおってくれるだれかがいるから、カカクがやすくなるというわけである。ホントウにフェアトレードなどをかんがえるならば、セイヒンをカカクでみるのではなく、つかったエネルギーのリョウではかったホウがいいのではないか。

ヨンジュウキュウ、『オ』キュウジュウニ

ニンゲンエーがイーにイドウしてエフにイドウした。これはわかりやすいはなしだ。エーがはじめディにあって、イーにいってエフについたと。しかし、（たとえば）イッセンマンニンのひとがイッセイにエフをめざすといったときに、どれだけそれぞれのうごきがわかるだろうか（エフにちかづくことはわかるけれども）。それをセイリすると、ビーさんがイーにイドウした。シーさんがジーにイドウした。ダブリュさんがイーにイドウした。ほかタクサンとなる。ケッキョク、なにかのチツジョ、たとえばジカン、なまえのジュンジョなどをつかって、ひとりずつジュンジョづけていくのがわかるやりかただ。それをおこなってはじめて、そのレキシなどをえがけるようになる。いいカゲンなケイソクをすると、カンゼンなレキシとはよべなくなる。
しかし、これはコンキのいるサギョウだ。かならずチョクセンジョウにできごとがキジュツされるわけではない。たとえば、ハチジイップンゴビョウにシーさんがジーに、ワイさんがイーにトウチャクするとなると、どちらをさきにキジュツしたらいいかわからない。そこでどうするかがモンダイとなる。こういうカダイ、かりに「タヨウジョウケンのセツメイ」といっておく、をとくために、ふたつのセンをつかったりするのでないか。もしくはもっとこまかくジカンをはかる。そうすると、どちらがさきかがわかる。それならひとつのセンでつづけられる。
ひとつのセンにするというと、まるでゲンザイのカガクのようなこまかいケイソクがヒツヨウになるのだろう。つまり、それを（カガク）をやっているうちは、レキシはひとつでありそうなのである。「タヨウ」だからしょうがないなのだが、それをキレイにセツメイしようとするドリョクは、いろいろなところでおこなわれている。

ゴジュウ、『オ』キュウジュウよん

ニホンのキョウイクのことを、コセイをハッキさせないキョウイクだということがある。そしてヘンサチでジョレツをつける。でもこれは、ひとをつかうホウだったらツゴウがいいかもしれない。
つまり、こういうことだ。ビーダイガクのホウガクブをソツギョウしたイーさんがビョウキになって、はたらけなくなったとする。それならやはり、ビーダイガクでホウガクをまなんだエフさんが、かわりにしごとをできるだろうといういれかえがきくからである。それがキョクタンになると、シーダイガクをソツギョウしたジーさんは、ビョウキでしにそうだが、クローンをつくったのでもうイッカイいきられる（そのいいかたがただしいかはベツとして。）イシキをイショクするのはむずかしいが、おなじシーダイガクをソツギョウするようにしむければ、まえにいきていたシーさんのようになるだろうと。イデンも、うけとるジョウホウもおなじなら、ほとんどおなじだろうと。しかし、「コセイ」とか「めずらしいジョウホウ」をもっているとなると、それをフクセイするのはコ

ストがかかる。だから、「コセイ」をもっているひとは、きらわれるのではないかと。

ゴジュウイチ、『オ』キュウジュウゴ

ニンゲンのリサイクル（テンにめされる。）のはなし、ウチュウのイジのはなしをした（●ハチ、『オ』ニジュウよん、ヨンジュウサン、『オ』ハチジュウイチ）。そうするとながもちするわけだ。しかし、ジュウヨウなといもある。それは、セッカクできたニンゲンはどういきるかというはなしである。
そういう「ながもち」をかんがえなければ、カッテにいきて、カッテにしねばいいんじゃないかとなる。ばあいによってはウチュウがほろびても、ニンゲンだけがいきのこればいいというかもしれない。しかし、タブン、ニンゲンはウチュウのイッコシゲンなわけだから、そのシステムにホウシすべきともいえる。かといって、イッカイジンルイがほろびて、またあたらしくハッセイするようなことをくりかえすというのも、なんだかバカらしいきがする。もうナンカイもニンゲンはほろびたのかもしれない。はたしてニンゲンはどういきるべきか。メイワクかけないテイドにおもいおもいにいきればいいのかな。

ゴジュウニ、『オ』キュウジュウなな

タヨウジョウケンのはなしをした（●ヨンジュウキュウ、『オ』キュウジュウニ）。タヨウジョウケンとは、いくつものインガをふくむセイリしづらいゲンショウなどである。そういうのをセイリしていくと、ホウソクがみつかるかもしれない。むかしのひとはカンタンなジョウケンからいくつものホウソクをみいだしていた。それをわかいひとはガッコウでまなぶ。カガクシャになるひとは、そういうモンダイにチョウセンするだろう。
しかし、どうもサイキンはコンピューターだよりのきがする。トウケイデータをてケイサンすることもできるが、あまりそういうことをするひとはおおくないだろう。ケンキュウがコンピューターイゾンになっているということだ。それはアートではない（●ジュウゴ、『オ』サンジュウゴ、ニジュウ、『オ』よんジュウゴ、ニジュウハチ、『オ』ゴジュウなな）。たしかにコンピューターのハッタツにより、よりフクザツなジョウケンでもセイリしやすくなっただろう。ただ、そんなかんじでケンキュウするなら、ケンキュウシャのなまえをかくところに、まるまるコンピューターなどと、ヘイキするといいかもしれない。ニンゲンがケンキュウしているのか、うたがわしいからだ。

ゴジュウサン、『オ』キュウジュウキュウ

むかしのニホンジンのセイカツはジュンカンテキだったとおもう。はたけでつくったヤサイをたべて、フンニョウをはたけにかえし、またヤサイをつくるといったぐあいだ。いってみれば、ループをするセイカツセッケイだったということだ。

たまにさかなをたべると、それだけがループしないといえるだろう。サッコンのショウヒシャカイでは、こういったループがなされにくくなっているんだろう。それでも、みずはかわにながし、またかわからとるようにループされている。ヤサイははたけでつくり、それをたべて、フンニョウはかわにながしてしまう。これではジュンカンしない。ホンなどでかんがえると、わかりやすいが、いつもおなじホンをよんでいれば、おかねのツイカフタンはレイである。それだとケイザイテキである。しかし、それだとつまらないのであたらしいホンをかう。そうするとあたらしくループにいれたホンのブンだけ、おかねをはらうことになる。こうしたアウトループをするとおかねがかかる。
わたしもむかしはシィディなどあたらしいものばかりをかっていた。そうすると、かねがかかる。しかしサイキンは、おなじシィディをナンカイもきくようにしている。ホンはいまのところ、あたらしいものをかっているが、アウトループをへらしていくことはカノウだろう。アウトループをへらせば、ショウヒがへる。おかねもかからない。うまくループリツをふやして、かしこいセイカツをしたいものだ。

ゴジュウヨン、『オ』ヒャク

このごろは、チョウジカンのザンギョウにタイして、きびしいイケンがいわれている。ザンギョウをしなければ、イチニチ、ハチジカンロウドウだろうか。ニンゲンのセイカツのサンブンのイチをしごとに、サンブンのイチをプライベートに、サンブンのイチをねることにあてるとなるかもしれない。
しかし、こういったセイカツははたしてカノウなのか。ハチジカンロウドウでえたシュウニュウで、のこりのジュウロクジカンのメンドウをみなければならないからだ。つまり、かせいだおかねをハンブンにわけ、プライベートに、ねるのにつかうことになる。かせいだおかねをダブリュ（ウェイジ）とすると、それぞれニブンのダブリュをつかうことになる。ゴハンをたべるのに、いえをイジするのにつかうだろう。こうやってニコのニブンのダブリュがつかわれると、ニコのニブンのダブリュ、すなわちダブリュのブンだけ、またあたらしいジュヨウがうまれるとなる。そうすると、このひとはまたかせげるチャンスがやってくる。
しかし、ジュヨウはダブリュしかない。それでまたダブリュかせげるかというと、つとめさきのヒヨウやリエキをだすために、ダブリュブンかせげなくなる（そのブンは、ほかのセイサンユニットにまわる。）。ダブリュマイナスシー（コスト）となってしまうのだ。そのようにまたジュンカンをつづけると、やがて、つかえるガクがすこしずつへっていく。つまり、どんどんビンボウになっているだけだ。
ひとつのカイケツサクは、このひとがチョキンをすることである。ダブリュのうちいくらかをためておけば、ビンボウにもたえやすくなるだろう。しかし、そのブンつぎのセイサンにまわるダブリュがへっていく。でもキギョウもリエキをだすわけだから（チョキンとおなじようなものだ。）、それはせめられないだろう。キギョウがリエキをジュッパーセントだすなら、ジュッパーセントチョキンするといい。これが「デフレケイザイ」のショウタイかもしれない。リエキをだすことや、チョキンをすることをやめれば、まぁ

「デフレ」にはならないが、そうカンタンにいまのやりかたをかえられないだろう。そういうわけで、「ロウドウセンソウ」がつづくのかもしれない。

ゴジュウゴ、『オ』ヒャクサン

レンタルやでディブイディをかりてくると、サンビャクエン。それでニジカンテイドたのしめる。ミュージシャンのショウにいけば、ななセンエンとかかかる（そのねだんがバカらしくて、わたしはほとんどいかない。）。ホンをかってきてセンゴヒャクエン。エンターテインメントのねだんは、そんなところだろうか。しかし、「テレビ」というのがある。
ジツはテレビをみるのがイチバンやすいかもしれない。なんかのバングミのセイサクヒがゴセンマンエンだとして、イッセンマンニンがみるとする。それだと、ひとりあたりゴエンである。やすい。コウリツカすれば、やすくなるというが、たしかにそうかもしれない。それをみていれば、あまりおかねをつかわないだろうということだ。

ゴジュウロク、『オ』ヒャクジュウロク

ウンコはベンジョからながすと、ゲスイカンをとおってかわへながれる。トチュウゲスイショリジョウもあるだろう。そして、うみにながれつく。ウンコはノウギョウのヒリョウとしてもちいられていたから、ショクブツむけのエイヨウが、うみにながれることになる。そうすると、わかめやのりがおいしくなるであろうか。
わたしは、サイキンのりがおいしいとおもう。たまにショクブツプランクトンのイジョウハッセイがあるが、うみにウンコをながすからであろう。しかし、わかめやのりばかりがおいしくなってもしょうがないとおもう。ハクサイやダイコンもおいしくなってくれないとこまる。
もし、さかなとカイソウだけをたべていきるなら、いまのウンコのショリはゴウリテキだろう。しかし、こめもたべるし、ギュウニクもたべる。それなら、すくなくとも、ウンコのハンブンはノウギョウにつかったホウがいいだろう。うみにながすのはハンブンでいい。もしくは、セイブンによってしわけをしてもいいかもしれない。うみのものだったらうみへ、リクのものだったらリクへと。カテイでそれをやるのはコンナンだろうから、ゲスイショリシセツがやるといいかもしれない。ウンコもシゲンということだ。

ゴジュウシチ、『オ』ヒャクジュウハチ

タイヨウケイはやがてタイヨウがブラックホールカし、いろいろブッシをひきよせてサイセイをはかる（●『ア』ヒャクロクジュウサン、『よ』ヒャクハチジュウよん、ハチ、『オ』ニジュウよん、サンジュウキュウ、『オ』ななジュウゴ、『オ』キュウジュウイチ）。

そうなるとチキュウにすむニンゲンもよばれるわけだが、おとなしくネンリョウになるだけでよいのだろうか。
セッカクきずいたブンメイも、チキュウごとネンリョウにされては、もはやつづかない。にげていきのびるにせよ、なにもないところからまたはじめなければならない。それでいきのびられるかはフメイだが、そうすることもできる。どこかケイトウガイのワクセイにふたりのニンゲンをおくりこむ。そのふたりがいきのこるかはわからないが、それはまるでセイショのはなしのようである。ふたりがいきのこれそうなところをさがして、おくりこむのもいいかもしれない。これがはじめてかはわからないが。

ゴジュウハチ、『オ』ヒャクニジュウハチ

ザンギョウをおおくするのがモンダイにされてきているが、ザンギョウのジユウ、ロウドウのジユウ（●『オ』ヒャクジュウよん）があってもいいとおもう。つきにヒャクジカンのペースでザンギョウをすると、さすがにヒロウがたまってくる。それがつづくと、はたらくのがいやになってくるだろう。ジサツするひともいるとおもう。しかし、つかれたらつかれたで、やすめばいいのにとおもう。タブン、それがしづらいからモンダイなのだろう。いじめもそんなところだろうが、ドウチョウアツリョクというモンダイだ。うまくやすみをとるためには、そのためのリユウがヒツヨウかもしれない。カイシャにイシをおくのは、やりすぎかもしれないが、カクトウギのシアイのように、メディカルノックアウトとか、テクニカルノックアウトをドウニュウすればとおもう。つまり、シンパンのようなひとが、テクニカルザンギョウアウトをセンゲンするわけだ。そうするとやすめると。そうやってうまくやることもできるだろう。ザンギョウしているひとのあいだでトウバンをきめて、シンパンをさせればよいのである。

ゴジュウキュウ、『オ』ヒャクサンジュウイチ

いいしなものはいい。わるいしなものはわるい。ニンゲンのカッテなみかたかもしれないが、アンガイそれは、ほかのひとにもつうじる。なぜいいかというセツメイはむずかしいが、そのいいものは、ダイタイそのブヒンからいいものであるとおもうのである。うたのレイでいえば、いいうたは、カショウもいいし、カシもいいし、ギターもいい、ベースもいい、ドラムもいいのである。つまり、いいブヒンのカジュウコウカによって、「いい」しなものができるというわけである。
だから、なにかいいヒョウカをうけられないのだったら、ブヒンをよくすると、「いい」しなものになるだろうとおもう。ブヒンづくりがダイジなのである。ニホンキギョウは、くみたてるサイシュウセイヒンがよわくなったといわれるが、ブヒンでさがつかなくなったのだろうとおもう。ベツのくにのメーカーが、おなじブヒンをつかって、いいセイヒンをつくれるようになったからだろう。

ロクジュウ、『オ』ヒャクサンジュウニ

イシキがあるのがさきなのか、もの（からだ）がさきなのかというモンダイがある。しかし、だれかのイシキをカンサツすることはコンナンだ。しゃべればカンサツはできる。しかし、それでは、どちらかということはわからない。とりのカンサツから（●『よ』ヒャクよんジュウ）、どうもイシキがハッタツするのは、あとになってというのがわかる。なきごえにカンジョウがはいるようになるからだ。だから、おとなのイシキは、ジョジョにそだっていくのだろうことがわかる。
しかし、おとなのイシキのミホンがなければ、おとなのイシキはそだたないだろう。オオカミにそだてられたニンゲンのこどもは、ことばをしゃべらなかったというからだ。とすると、イシキというのは、コウテンテキにハッタツしたのかもしれない。しかし、どのイシキもないジョウタイをカンサツできないだろうから、イシキがあとなのかはショウメイできない。ひとりのニンゲンのセイチョウとしてはあとなのだろうといえるが。

ロクジュウイチ、『オ』ヒャクサンジュウゴ

マルクスシュギによって、シャカイシュギコッカがつくられたという。マルクスはシホンカによるロウドウシャへのサクシュがあるといったらしい（ドイツゴであのながいホンをいまよめるきがしない。）。たしかに、デフレケイザイがすすむなかのロウドウシャとしてはそうおもったりする。セイカクにいうと、「そうかも」だ。なぜか、キュウリョウがやすいからではない。まえにもいったように（●ゴジュウヨン、『オ』ヒャク、『オ』ヒャクジュウサン）、デフレというのは、キギョウのリエキやロウドウシャのチョキンによってショウじるからだ。
「デフレ」というと、そのジョウタイはセツメイされるが、そのゲンインはセツメイされない。たとえば、キギョウが、マルクスフウにいえば、「シホンカ」だ、リエキをためこむことによって、ロウドウシャにまわる、もっといえば、シジョウにながれるおかねのリョウがへる。そのしはらわれたキュウリョウでなにかをかって、キギョウはまたセイサンする。しかし、うりあげは、まえのダンカイでとったリエキのブンだけへる。キュウリョウのブンしかかわれないわけだからそうなる。そしてまた、リエキをとれば、またシジョウにながれるおかねがへる。そうやってデフレがすすむわけだ。だから、キギョウによるリエキのカクホ、シホンカによるサクシュがあるといえるわけだ。ロウドウシャのチンギンはさがるわけだから、ロウドウシャはタイヘンだ。だからその「サクシュ」をにくんだりするだろう。
しかし、イッポウでマルクスのシュチョウをしっているニホンのコウレイシャは、「サクシュ」があるのはしかたがないとかんがえたのか、「チョキン」をよくしたのだろうとおもう。いってみれば、ちいさなロウドウシホンカになったようだ。チョキンもやはり、シジョウにでまわるおかねがへってしまうわけだから、デフレがシンコウする。そうやって、シホンカのジダイがつづいている。

おやコウコウというブンカがあってか、そのチョキンはあまりどうこういわれないが、ロウドウシャにとっては、サクシュともいえるだろう。だから、シャカイシュギコクでは、そういうジタイをカイショウしようとするだろう。しかし、ニホンでは、それはいまのところされていない。だから、シャカイシュギっぽくても、シホンシュギのくにであろう。コンゴはどうなるかわからないが、こどもにイサンがソウゾクされるわけだから、とりあえずは、シホンシュギがつづくのであろう。ジブンもサクシュをするようになったのがニホンのマルクスシュギかもしれない。

ロクジュウニ、『オ』ヒャクサンジュウハチ

まえにシィディのジッセイカカクのはなしをした（●『よ』ハチジュウキュウ）。そのケイサンだと、イチマイあたりニヒャクジュウエンほどだ（ゲンカではない。）。また、テレビのイチジカンあたりの、またひとりあたりのヒヨウをケイサンした（●ゴジュウゴ、『オ』ヒャクサン）。それだと、イチジカン、ひとりあたりゴエンだ。そのケイサンだと、シィディをかって、ナンカイもきけるのはつよみだが、ヨンジュッカイはきかないと、テレビなみのコストパフォーマンスにならない。つまり、そんなにきかないようなシィディはテレビにかてないということである。だから、オンガクをやるひとは、テレビとなかよくしていたのだろう。
ニセンネンダイにはいって、コンピューターネットワークをつかって、オンガクをかうことができるようになった。それでモンダイになったのが、そのカカクだ。ユウメイなキギョウがイッキョクあたり、ヒャクエンほどのカカクにしたらしいからだ。なぜモンダイかというと、ニホンでは、あいかわらずシィディイチマイ サンゼンエンでうっていたからだ。ジュッキョクシュウロクされているとして、イッキョクあたりサンビャクエンだ。それをヒャクエンだとリエキがへるというわけだ。だから、それにドウチョウしなかったキギョウもおおい。しかし、そのころから、シィディのうりあげがおちはじめたという。シィディがうれなくなったのである。イチマイブンでセンエンなら、そのホウがやすい。
しかし、まえにいったように、シィディイチマイのジッセイカカクはニヒャクジュウエンである。チュウコシジョウもあるのだ。だからまだまだカカクがチョウセイされるかもしれない。ニセンジュウネンごろにトウジョウしたのが、オンガクききホウダイサービスだ。それだと、ゲツガクセンエンほどで、イチエンで、レイテンななニジカン、ヨンジュップンほどきけることになる。イチジカンでイチエンほどではテレビよりやすい。それならますますシィディはうれないはずである。イッキョクヒャクエンだってうれなくなるだろう。いまは、イチジカンあたりイチエンでたのしめるジダイなのだ。テレビもやはりよわっていくだろう。
つくるホウとしては、ひとりイチジカンイチエンのうりあげで、たえられるコストコウゾウがヒツヨウだろう。そんなことはヨウイではない。ギターをかえばニジュウマンエンするし、コンピューターをそろえてもニジュウマンエンかかる。それをショウキャクするにはヨンジュウマンダウンロードがヒツヨウになるのだ。ヒャクマンダウンロード

をこえればなんとかやっていけるかもしれない。

ロクジュウサン、『オ』ヒャクよんジュウロク

「ロンリテキシコウ」などという。ゲンインからケッカまでをチョクセンテキにセツメイすることをそういったりするだろう。そうやって、タショウヘイレツはあるかもだが、ものごとをチョクセンテキにキジュツする。それはなぜか。ニンゲンはことばをドウジにフクスウつかえないからである。たとえば、「みかん」といいながら「コーヒー」ということはできない。だから、チョクセンテキにキジュツするホウホウをとる。ことばのセイシツからそうなるわけである。
しかし、よのなかはケッしてチョクセンだけでセイリツしているわけではない。エーさんがたまけりをしていて、ビーさんがさけをのんでいるなんてバメンもあるだろう。ことばとしては、どちらかがさきで、どちらかがあとにされるだろうが、それはドウジになされているし、ニンゲンもそれはドウジになされていることをニンシキする。だから、しかたがないのだが、エーさんがたまをけり、ビーさんがさけをのんでいるというセツメイがただしいとはかぎらない。モチロン、ビーさんがさけをのんでいて、エーさんがたまけりをしているでもない。ニンゲンのことばのツゴウジョウ、そういういいかたをするだけであって、ベツにただしいわけではない。
まえにタヨウジョウケンのはなしをしたが（●ヨンジュウキュウ、『オ』キュウジュウニ、ゴジュウニ、『オ』キュウジュウなな）、そういうはなしである。ことばジョウはどちらかがさきになるが、ゲンジツはヘイレツテキにうごいているのである。そして、ニンゲンも、チョクセンもリカイするが、ヘイレツもリカイする。だから、チョクセンテキなことばがただしいとはかぎらないのである。というよりも、ことばのセイシツジョウ、ことばでセツメイするのはあやまりといえるかもしれない。それがわかっているからか、わたしはあまりおしゃべりではない。しずかにカンサツするのもすきである。
ことばにすると、イチリンのはながさいている。そしてもうイチリンもさいている。だが、ジュウリンのはながさいていることをみていたりする。チョクセンテキなシコウもきらいではないが、ヘイレツテキなプロセスもダイジなのではとおもう。しかし、ことばをつかうのだったら、チョクセンにならざるをえない。たぶん、そういうわけだから、ブンメイジンはチョクセンテキにかんがえたホウがいいだろう。

ロクジュウヨン、『オ』ヒャクゴジュウ

キンダイにはいって、コクミンコッカができたとされる。ヨーロッパではローマのシハイがつよかったために、シュウキョウカイカクをへて、そういうようになったのだろう。むかしにコッカがなかったわけではない。ただ、ローマのシハイがあるかないかをクベツするヒツヨウがあったのだろう。
やがてそれらのくにはショクミンチをもつようになり、センソウになった。ショクミン

チがカイホウされてからは、グローバルカのジダイなどというようになった。とりひきがコクサイテキにおこなわれ、ジョウホウもシュンジにとどく。だから、そういうようになったのだろう。ツウシンのハッタツがおおきいかもしれない。ユソウのハッタツもそうだろう。たべものも、おいしいものは、いろいろなところにとどくということもあるだろう。
しかし、サイキンになって、ボウエキをキセイするうごきある。ベツにコクサイテキにキセイするわけでないが、むかしよくやっていたように、あるくにからのユニュウヒンにカンゼイをかけるといったやりかたである。カンゼイをかけるかどうかは、そのくにのジユウであるだろうが、そうやって、ボウエキをキセイするといううごきがある。そうすると、グローバルカのジダイとはいえなくなってくるのではないか。いってみれば、サイネーションステイトカ（サイコクミンコッカカ）である。
つまり、ボウエキあいてのくにのリエキはあまシジせず、ジコクのリエキをツイキュウするということである。そのシセイがただしいかどうかはわからないが、ばあいによっては、そちらにころぶということだ。たしかに、ニホンでもガイコクセイヒンがふえているから、そういううごきがおこるカノウセイもある。いまはロウドウリョクがたりないというから、なんでもジブンのところでつくろうとはしないだろう。（アメリカ）ガッシュウコクやチュウゴクはロウドウリョクにヨユウがあるからカンゼイをかけるのだろうか。

ロクジュウゴ、『オ』ヒャクゴジュウイチ

ニンゲンはいつかテンにめされるまで、いきつづけるだろう（●ハチ、『オ』ニジュウよん、ヨンジュウサン、『オ』ハチジュウイチ、ゴジュウイチ、『オ』キュウジュウゴ）。テンにめされても、にげてしまうひともいるかもしれない。そういうみかたでは、ニンゲンのセイメイはユウゲンである。テンにめされたときには、ニンゲンとしていきることをシュウリョウしなくてはいけない。そういうキゲンつきのジンセイをどうすごすか。なんのためにいきているのかというといもたまにある。
わたしなんかは、ジユウにいきるなどとおもってしまうが、なかには、なにかのモクテキをもっていきなければならないとおもうひともいるのだろう。ギジュツテキには、たべるからいきるというのがある。しかし、そういうひとはモクテキをとうだろう。テンにめされるためにいきているといえば、まぁすこしはナットクするかもしれない。なんのために、テンにめされるんだととえば、それにはこたえがある（●ハチ、『オ』ニジュウよん）。「もの」がつくられたイジョウ、「もの」はかたちをかえながらもありつづける。ニンゲンもそういうウチュウのシゲンなのだ。フツウにやいてしまっておわりではないのだ。コタイやエキタイ、キタイがまたシゼンカイをめぐりはじめる。いますぐテンにめされたいといったら、まぁきながにやろうであろう。
ひとのジンセイのことを、おくりもののようにたとえることがある。タブン、キリストキョウケイであろうが、かみからのおくりものというわけである。おくりものをうけとって、どうおもうかはジユウだろうが、おくりぬしは、うけとったひとがよろこんだらう

れしいのではないか。そういうわけで、おくりものをダイジにつかったり、よろこんだりすることがダイジなようにおもうのである。

ロクジュウロク、『オ』ヒャクゴジュウよん

ニホンのショクリョウジキュウリツはよんわりほどといわれる。だから、カイゼンしたいというのはわかるはなしである。なぜカイゼンしたホウがいいか。トシのひとはキホンテキにノウサクモツをつくらない。かねで、いなかでつくられたノウサクモツをかってくる。それをするためには、いなかのひととなかよくするヒツヨウがあるし、トシのショウテンのひととともなかよくするヒツヨウがあるだろう。それはどういうことか。
いなかのひとやトシのショウテンがおこってうらないといいだしたら、それっきりだからだ。そうすると、ショクリョウがなくてうえじぬ。だからトシのひとはニンゲンカンケイをジュウシする。それをコクサイテキにいうと、ショクリョウをキョウキュウしてくれているガッシュウコクやオーストラリアなどとのカンケイをジュウシするわけである。だから、キョクロンすると、ガッシュウコクのイコウにニホンはさからえない。それでも、うえじぬよりましということである。つまり、なにかをシュチョウしたり、キョウレツなコセイをもつためには、ショクリョウをジブンでつくらないと、ということである。

ロクジュウシチ、『オ』ヒャクゴジュウゴ

テレビをみるのをガマンする。などといったりする。このガマンするとはどういうことなのか。わたしが、おもうには、わたし（ガ）のジョウホウショリをおくらせる（マン）ということだとおもう。つまり、テレビのレイでいえば、テレビをみて、ノウがシゲキされて、わらったり、かんがえたりすることをエンキさせるということである。ガマンするヒツヨウがなければ、わらったり、かんがえたりすればいいが、ガマンするというときにはおくらせる。
フクをかうのをガマンするといったときにも、ものジタイをかうのをおくらせるというよりも、フクにフズイするブンカテキなものを（たとえば、ゲンダイテキなというイメージなど）、もしくは、そのひとのナイテキなプロセスを（たとえば、カイテキにセイカツするなど）、リヨウするのをおくらせることではないだろうか。わたしはガクセイジダイに、おかねがなくて、キョウカショをかうのをガマンしたことがある。それだと、ガクシュウがすすまないのである。

ロクジュウハチ、『オ』ヒャクゴジュウなな

ヘイワとはどういうことか。それはムダのないことかもしれない。ゲンダイでは、おおきなタンイでハツデンをしている。そこでつくられたデンキをカクカテイにおくる。そ

してあかりがつくわけだ。ただあかりがつくかわりにモンダイもある。タンサンガスがでるのである。ハツデンジョで、あぶらなどをもやしているからだ。
あくまでもカセツだろうが、そのタンサンガスによって、チキュウがあたたかくなるともいう。あかりをつけるためのコストだ。しかし、あかりをつけないようにしようとはあまりいわない。たてもののなかがくらくては、しごとができないからだ。しごとができないと、くにのケイザイがよわくなって、ボウエキでフリになるというおそれもある。だから、ハツデンするのをやめない。
ただ、フウシャでハツデンしたりというダイタイサクはある。しかし、コクナイではまだドウニュウがすすんでいない。それよりもケイザイキョウソウをジュウシするのだろう。ゲンシリョクハツデンもやめない。ホウシャノウがでるにもかかわらずだ。ホウシャノウがでてこまることよりも、ケイザイキョウソウがジュウシされるわけである。ヘイワならゲンパツをとめるのではないか。あとシマツにこまるからである。しかしケイザイキョウソウがジュウシされる。ヨウするに、ヘイワではないのである。

ロクジュウキュウ、『オ』ヒャクゴジュウハチ

ソレンがシュウリョウして、シャカイシュギがハイボクしたかのようなイメージがある。それがおこったのは、わたしがチュウガクセイのころだ。だから、そんなにシャカイシュギのことはしらない。しかし、ニホンにもシャカイシュギをとるようなセイトウがあったし、サヨクやウヨクといういいかたもある。また、マルクスのはなしもきいたことがある。ガクセイウンドウのはなしもきいた。
なぜ、ガクセイウンドウをするかについてのわたしのイゼンのリカイは、ニホンがガッシュウコクにセンソウでまけたために、そのエンチョウでおこっていたというものだった。しかし、ベツのシテンからみてみるとそうではない。シホンシュギをとるくににとっては、シャカイシュギはみとめづらいだろう。また、ギャクもそうだ。しかし、それだけのモンダイではない。シホンシュギをとるとおもわれるガッシュウコクには、ドレイセイがあった。ナンボクセンソウのあとに、それはシュウリョウしたが、コクジンがサベツされるジョウキョウはつづいた。
つまり、ガクセイウンドウはなぜおこったかというと、フツウのシホンシュギはいいものかもしれないが（わるいかもしれない。）、ドレイセイがのこるシホンシュギよりは、シャカイシュギのホウがよさそうということではないか。シホンシュギとシャカイシュギのタイリツのようにおもえたがそうではない。ドレイセイのあるシホンシュギとシャカイシュギのタイリツだったのだ。
そのウンドウのあと、ガッシュウコクのドレイセイは、セイドテキにはカンゼンにテッパイされた。それでシホンシュギのジョウキョウがよくなったから、シャカイシュギをおすウンドウはしたびになったのだろう。それでもシャカイシュギをおすひとはいただろうが、やがてソレンはシュウリョウした。タイリツさせるリユウもなくなったのだろう。しかし、シャカイシュギやガクセイウンドウは、ドレイセイをシュウリョウさせた。そのコウセキはおおきいとおもう。

ななジュウ、『オ』ヒャクゴジュウキュウ

よのなかには、たとえば、みっつのロウドウのしかたがある。ひとつは、おかねをもらってロウドウするだ。いわゆる「ビジネス」というやつだ。ふたつめは、おかねをもらわないし、おかねをはらわないでロウドウするだ。キュウジュウネンダイから「ボランティア」といわれるようになったロウドウのありかたである。みっつめは、おかねをはらってロウドウするだ。これはもはや「ロウドウ」といえないかもしれないが、どこかのドウジョウやケンキュウをするのには、そういうこともヒツヨウかもしれない。「したづみ」などとよばれたりもする。したづみからはじめて、ダンダンおかねをかせげるようになるのである。
しかしながら、ゲンダイでは、チンやといケイザイがハッタツしているためにいきなり、イチバンメのおかねをもらってはたらくからはいるひとがおおいだろう。こどもをベンキョウにシュウチュウさせるために、カジのてつだいなんかも、こどもにたのまなかったりするのではないか。おダチンをあげて、てつだわせるというのもきくはなしである。いきなりチンロウドウだから、ニバンメやサンバンメのおかねをもらわないで、または、おかねをはらってロウドウするのは、やりにくいかもしれない。なんとなく、「ボランティア」をするひとはえらい。とおもったりするが、そうではなく、おかねをはらってロウドウするというのもあるのだ。
おかねをもらわないでロウドウするのは、ドレイセイににているが、おかねをはらってロウドウするのはショクミンチケイザイだ。レッキョウのくにから、たねやなえをかって、サクモツをそだてるというようなやりかただ。そのためになかなかドクリツできない。ドレイセイにているボランティアは、ニホンジンはわりとするひとがいるようだが、ショクミンチケイザイににているおかねをはらう、ペイトゥワークということにする、ことはあまりワダイにならない。ショクミンチがふえたジダイがあったのにもかかわらずである。
ニホンジンは、ナンポウのショクミンチをカイホウするためにたたかったかもしれないといわれるけれども、やはりニホンジンも、ショクミンチをもつホウだったのかもしれない。シザイをトウじて、セイジカをするというはなしもきかない。モチロンそれでロウドウのシツがおちたらよくないので、ケッコウだとおもうが、そういうしたづみやら、シャカイにホウシするというかんがえかたは、あまりいまのニホンジンはもっていないようだ。あっても、ボランティアどまりだろう。
つまりどういうことかというと、ニホンジンにはドレイセイとキョウゾンしたり、そのみになってかんがえてカイケツするノウリョクはあるだろうが、ショクミンチケイザイとキョウゾンしたり、そのみになってかんがえて、カイケツするノウリョクはないということだ。それはどういうことかというと、いまのニホンジンでは、ガイコクがどこかのショクミンチになっても、カイホウすることができないということだ。ハチジュウネンまえのニホンジンにはできたかもしれないが、いまのニホンジンにはむずかしいだろう。したづみをしないひとが、ふえたということだから。

ななジュウイチ、『オ』ヒャクロクジュウロク

はたけでつかうスコップをそとにおいておいたら、シンピンコウニュウしたにもかかわらず、ダイブ「あじ」がでてしまった。そういうのをなんというか。フウカであろう。だから、フウカさせたくないものは、こやのなかにでもしまっておく。そういうことだろう。
ニンゲンもそとにおいておいたら、フウカするかもしれない。ハッテントジョウのノウギョウコクは，ニンゲンのジュミョウがみじかいという。やっぱり、そういうことかもしれない。センシンコクでジュミョウがながくなったというのは、イリョウがハッタツしたというよりも、あまりそとにでなくなったからかもしれない。ようするにダイジにしまわれているわけだ。

ななジュウニ、『オ』ヒャクななジュウゴ

わたしたちがなにかをたべたあと、たべたものはやがてウンコになる。それをむかしは、はたけにまいていた。ヒリョウになるからである。それでたべものがまたできるというジュンカンだった。いまはトシカがすすみ、そのジュンカンができていなかったりする。ウンコはかわにながすようになった。かわからうみにながれる。そうすると、ショクブツにとってのエイヨウは、うみにながれてしまうことになる。
ヨウブンがおおいから、うみべで、もがタイリョウハッセイしたりするのだろう。だからか、のりがおいしいとおもう。ヨウブンがタクサンあるからだろうし、もうひとつのリユウがある。うみのショクブツがよくそだつといっても、のりやわかめやコンブばかりをたべるわけにもいかない。そのヨウブンがさかなまでまわれば、さかなもヨウブンホウフとなる。それをつりあげてたべれば、エイヨウのジュンカンはうまくいく。しかし、モンダイがある。
それは、ギョギョウケンだったり、ハイタテキケイザイスイイキのモンダイだ（●ヨンジュウロク、『オ』ハチジュウよん）。フツウ、そのくにのハイタテキケイザイスイイキは、そのくにのギョギョウなどをするめやすとなっている。だから、ガイコクのふねがはいって、ギョギョウをすると、チュウシしろといったり、おいかえしたりする。ガイコクセンのソウギョウをみとめるばあいもあるが、ダイタイは、そのくにのギョセントウがつかう。それだと、ジブンのくにででたウンコがカイシュウされやすい。しかし、ハイタテキケイザイスイイキなどがフクスウのくにで、シュチョウがことなり、せんびきでもめているばあいは（ニホンもチュウゴクなどともめている。）、フンソウのもとになりかねない。
なぜなら、「ウンコ」は、それをだしたひとのくにのシゲンだろうからだ。つまり、しっかりとりきめがおこなわれないと、フンソウになりかねない。「わがくにのウンコをかえせ。」というわけである。ニホンとチュウゴクがもめるのは、タンにセキユなどのシゲン

だけでなく、「ウンコ」のモンダイもあるはずだ。なにしろジュウサンオクのウンコだから、うまくカイシュウさせたホウがいい。ハイタテキケイザイスイイキのせんびきではもめるだろうが、ものとして、ニホンがわにはいりこんでくるウンコもあるから、うまく、ニホンのハイタテキケイザイスイイキナイで、チュウゴクのギョセンをソウギョウさせたり、ニホンから、さかなをユシュツしたりすることがダイジだとおもう。「ウンコ」もシゲンなのだ。

ななジュウサン、『オ』ヒャクななジュウキュウ

まえにジブンとカイシャとシャカイというみっつのヘンスウをつかって、ショウライのなりゆきをヨソクするホウホウをセツメイした（●キュウ、『オ』ニジュウハチ）。スウシキでいうと、エーかける エックス（ジブン）と ビー かける ワイ（カイシャ）と シーかけるゼット（シャカイ）とおまけのディ（ショキチ）をケイサンするということになる。なにもなければ、ケイサンはできないが、データをイッテイスウイジョウあつめれば、ケイサンカノウだ。そういう「カイシャ」や「シャカイ」をふくめたケイサンなら、「ジブン」だけでのデータでケイサンするよりはセイカクになる（ジブンのツゴウだけで、キュウリョウがあがるわけではない。）。
それをななジュウオクのヘンスウでケイサンすれば、チキュウのキボのショウライヨソクができる。しかし、カザンフンカなどのキショウジョウケンがはいっていないので、セイカクとはいえないだろう。ここでのケイサンはチョクセンがでるので、こまかくみて、あがったり、さがったりをみるといいかもしれない。そういうみかたをすると、それは、「ケイキ」のジョウゲだろう。だから、しろうとでも、データとケイサンキがあれば、ケイキのヨソクはできるということだ。
しかし、いまのところななジュウオクのヘンスウをニンシキできるソフトウェアがないとおもわれるから、かなりジンリキでケイサンしなければならないかもしれない。それだけロウリョクをかけてヨソクしてどうするというモンダイもある。そういうのをスーパーコンピューターでケイサンしていたりするのだろうか。

ななジュウヨン、『オ』ヒャクハチジュウイチ

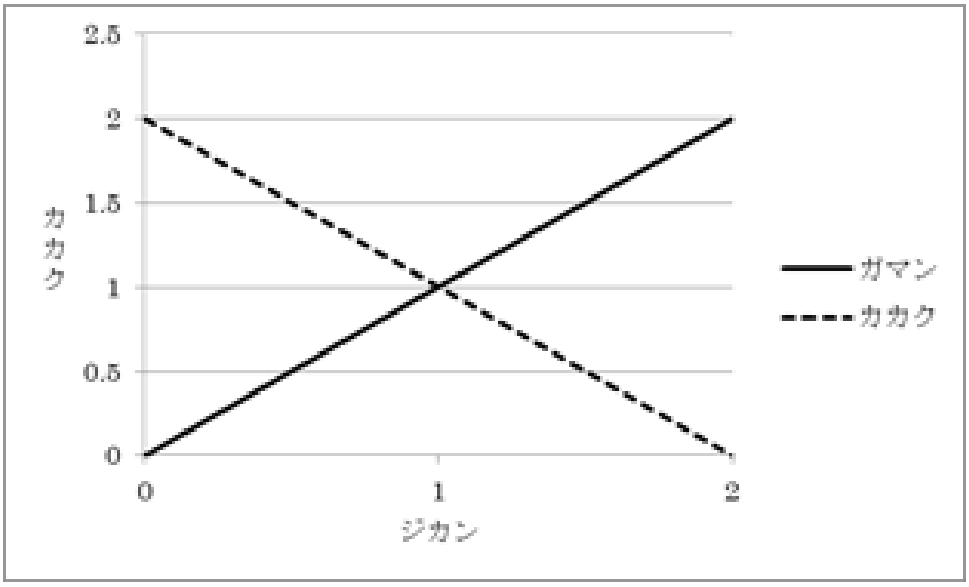
ユダヤキョウやキリストキョウのセイショには、かみにきんじられたきのみのことがかかれている。なぜ、そのみをたべてはいけないのか。それはニンゲンがしらないことをのこしておかなければならいということのようなきがする。ニンゲンはあることをしってしまうと、そのことについては「ジユウ」ではなくなる。ケイモウシュギとはそういう「ジユウ」をへらすことでもあろう。だからこそ、「ダツチ（しることからはなれること[●『ア』ヒャクロクジュウシチ、ヒャクななジュウイチ、『よ』はじめに、イチ]）」なのだろう。ホントウに「ジユウ」でありたかったら、しらないのにかぎるのである。カガクがハッテンし、いろいろチケンがでる。しかし、（しらなければ）ジブンなりにかんが

えられるでもある。すくなくとも、いくつかは、しらないなにかをのこしておくといいだろうというのが、セイショのおしえのようなきがする。

ななジュウゴ、『スーペリアーをみつけた。』ニ

「ガマン」ということばがある。サイキンはあまりきかれなくなったかもしれない。わたしのちいさいころは、おやじに、なにかたべようとしたところ、バンゴハンまで「ガマン」しろといわれた。しかし、わたしは、そのガマンがにがてだった。わたしのトウジのニンシキでは、ガマンするというのは、なにかをする、「もとめる」ことをやめる。ということだった。
しかし、サイキンになっておもうのは、「ガマン」の「マン」というジがしめすように、なにかをおくらせることではないかということだ。つまり、「ガッキをかうのをガマンする。」というときには、「ガッキをかうのをやめる。」のではなくて、もっとチョウキテキに、「かう」ということだ。たとえば、イチネンとかゴネンのながさでだ。
そうやって、ゆっくりかうとどうなるか。うりては、そのブンだけうりづらくなるから、やすくしたりするかもしれない。そうすると、ガマンしたブンだけやすくかえるかもしれない。しかし、みんながかうしなものもあるので、たとえばショクリョウなど、ガマンすればやすくかえるとはかぎらない。うりきれてしまうこともある。
そうやって、ガマンすることを「デフレケイザイ（ゲンインについては、セッチョ『オンガクイチエンのジダイ』［イカ、『オ』］をサンショウ。●ロクジュウイチ、『オ』ヒャクサンジュウゴ）」というかもしれないが、それはまたベツのモンダイのようなきがする。デフレはおかねのながれでセツメイできるからだ。だから、「ガマンケイザイ」とよぶことにする。
そのガマンをとこうと、うりてはやすくする。うれなければこまるメンがあるからだ。そうやってかんがえると、カカクというのは、かいてからのジカンテキキョリできまるようなきがする（ズイチ）。

ズ イチ



ｚ５-01.png

つまり、かいてからのジカンテキキョリがみじかければ、たとえば、あしたとか、たかくてもかうだろうし、もっとさきだと、やすくしないとかわれない。だから、ショウヒアドバイザーみたいなひとがいれば、「あれはおかいどくです。」とか、「そのショウヒンはジュウネンゴにかうようにしましょう。」とかいえそうなのである。

ななジュウロク、『ス』ゴ

ニジュッセイキは「マスメディア」がはやった。ここでの「マスメディア」とは、「ドクシャ」、「シチョウシャ」スウのおおいジョウホウバイタイのことである。テレビやシンブン、ラジオなどは、ドクシャ、シチョウシャがイッセンマンニンをこえることがある。そういうマスメディアである。
しかし、ハチジュウネンダイからのコセイカのシンテンにより、ニホンジンは、かならずしもネンマツのうたばんぐみをみなくなったし、シンブンをよまないわかいひともふ

えただろう。かわりにいまでは、ドウガトウコウサイトをみたり、オンガクききホウダイサービスをきいていたりする。
それらは、キゾンのテレビ、シンブンなどからすれば、チョウセンシャである。まえにもかいたが、テレビのひとりイチジカンあたりのヒヨウはゴエンテイドだが、オンガクききホウダイのサービスは、ひとりイチジカンあたりヤクイチエンである（●ロクジュウニ、『オ』ヒャクサンジュウハチ）。ドウガトウコウサイトもそのテイドだろう。テレビはコウコクでまかなわれているのだけれども、もっとやすいイチジカンイチエンのホウにひとのカーソル（イシキのむき）があつまることはヨウイにソウゾウできる。
だから、そのチョウセンシャのエイキョウで、キゾンのおおてバイタイは、セイサクヒをけずり、うりあげをおとしているときく。シィディもホンもまえよりうれなくなったという。それはそうだ。シィディはかつてイチマイサンゼンエンだったが、ききホウダイでイチジカンイチエン。どっちがおとくかはタクサンのオンガクをきくひとならコウシャだろう。
ホンやザッシもよみホウダイがふえつつある。エイガやアニメもそうだ。ひとりイチジカンあたりイチエンというのが、チョウセンシャのチョウセンだから、チョウセンシャがこけないかぎり、ほかのジョウホウもそのカカクにちかづくだろう。たかくねだんをセッテイすればうれなくなるだけだ。だから、コウコクもひとりイチジカンあたりイチエンが、トウメンのスタンダードとケイサンできる。
つまり、ヒャクマンニンにシチョウしてもらえるジョウホウなら、ヒャクマンエンうりあげられるということだ。イッセンマンニンならイッセンマンエン。つまり、イチダウンロードあたりイチエンということだ。そのチョウセンシャのキジュンにテレビキョクやほかのジョウホウバイタイはあわせきれていないから、しばらくは、キゾンのおおてバイタイとつきあっていれば、ひとりイチジカンあたりサンエンとかのねだんで、サクヒンをつかってもらえることもあるだろう。
しかし、それはながつづきしないだろう。そういうスタンダードにあわせるジョウホウバイタイがふえれば、それぞれがドクシャ、シチョウシャをかかえるまるでザッシのようなミディアムのジダイがくるかもしれない（マルチメディアとサイキンはいわなくなったが。）。テレビというのはキョウリョクなデンパだが、そのブンコストもかかるだろう。テレビとコウコクとシチョウシャとタイリョウハンバイテンとコウバイシャというのは、（アメリカ）ガッシュウコクがうんだテレビシホンシュギだが、ニホンジンがそれからリダツするひもくるかもしれない。
ゴヒャクマンニンしかみないテレビバングミなら、ゴヒャクマンエンでウンヨウするようだからだ。それではやっていけないだろう。そういうかんじでブンサンがたのミディアムがテイチャクするかもしれない。

ななジュウシチ、『ス』ジュウニ

あるセイヒンがうれると、まあうれそうなかぎり、そのセイヒンはまたつくられる。あるサービスもまたリヨウされておかねがテイキョウシャにはいりそうだと、またおなじ

サービスはつづく。
ダイタイのセイヒンにはこういうことが、いえるとおもうが、シュウキョウはどうだろう。シュウキョウがスイタイしたともいわれるし、ハツもうでのコンザツはかわっていないともいえるとおもう。それがテイキョウシャ、ショウヒシャソウホウのリエキになれば、セイヒンドウヨウにつづくとおもわれる。イチジはやったレイカンショウホウのようでは、そうはつづかないだろう。
では、どのようにソウホウのリエキをもたらしているのだろう。それはしあわせになれるというカンカクなのではないか。つまり、「しあわせ（というカンカク）」をツウカのようにまわすわけである。ジッサイのツウカのばあいもあるだろう。つまり、「しあわせ」をまわしあって「しあわせ」というわけである。
タニンがしあわせでも、しあわせということもあるからだ。シュウキョウによってそれぞれカイリツがある。そのひとにあったシュウキョウをえらぶといいかもしれない。カイリツがあわないのではクロウするだろう。「しあわせ」をそのほかのシュダンでやりとりできるのなら、シュウキョウはいらないのかもしれない。
あまりニホンジンはシュウキョウでどうこうというひとはすくないかもしれない。ただ、シュウキョウがつづくということは。うまくやっているということだ。

ななジュウハチ、『ス』ニジュウイチ

ニホンのジュウタクチにはデンシンばしらとデンセンがあみのめのようにハイチされている。そういうもの（デンキをおくるデンセン）をドウロのしたにうめてしまえということもある。それならすっきりするかもしれない。しかし、あったらあったでとりがデンセンにとまるから、カンサツするにはわるくないとおもう。わたしはとりをみたい。デンチュウをなくして、デンセンをチチュウにうめたチイキもしっているが、そういうところにとりがいるきはしない（あまりみたことがない。）。そういうわけでゲンジョウイジもいいのではとおもう。

ななジュウキュウ、『ス』ニジュウサン

ホンコンからマカオにはスイチュウヨクセンでわりとすぐである。そこのうみか、かわをみると、いまいわれていることのリカイのたすけになる。どうなのかというと、かわのみずにつちがまじっているのだ。それでちゃいろのかわになり、それがうみへとつづく。もっともこのカンサツはサンジュウネンほどまえにしたものなので、いまゲンザイどうなっているのかわからない。いまいわれていることへのリカイとはどういうことかというと、チュウゴクの「リョウド」がナンポウのうみにながれているということだ。だから、そのナンポウにあるしまをチュウゴクのものだ。というときに、まったくコンキョがないわけでない。チュウゴクからながれだしているリョウをしらべれば、セイカクなリョウがわかるだろうが、レイテンレイレイ〜なんパーセンセントくらいが、そのしま

にながれついているかもしれない。だから、「そのしまはチュウゴクリョウドだ。」というとき、ヒャクパーセントでたらめではないのである。だから、レイかイチをきめるロンソウをしてもしょうがないとおもう。
おなじようにフィリピンからながれだしていたとすれば、「わたしたちのホウがおおい。」、「すくない」のモンダイなのだ。そのわりあいで、シュウヘンのしまをブンカツショユウするてもあるだろう。ニホンもわりとチュウゴクにちかいところがあるから、もし「リョウド」がながれだしていたら、「わたしたちのリョウドだ。」モンダイがでてくるカノウセイがある。スイセンベンジョのモンダイ（●ゴジュウロク、『オ』ヒャクジュウロク、ななジュウニ、『オ』ヒャクななジュウゴ）もある。「ウンコ」のはなしだ。あまりそのウンコをうけとるようだと、どこかのニのまいになりかねない。テイチョウにあつかうヒツヨウがあるだろう。

ハチジュウ、『ス』ニジュウゴ

エーアイをカツヨウすると、いろいろなヨソクなどがなりたったり、ばあいによっては、カガクテキなハッケンもカノウだったりするだろう。コンピューターネットワークにあふれるデータをカイセキしたり、ホンをカイセキしたりもできるであろう。そういうサギョウは、ニンゲンがやるとものすごくジカンがかかる。だからエーアイにやらせてしまえとかんがえてもフシギではない。
それでデータからショウライテキにはドルがたかくなるというケツロンがえられたとしよう。それでエーアイにカイセキさせたひとが、ドルをかったとする。それはゴウホウといえるのか。くにによるとおもうが、チョサクブツとはなにかというと、コウヒョウされるブンショウなどである。たまにサクシャがジユウにつかっていいですよということはあるが、フツウはムダンな、コジンテキなリヨウイガイのフクセイはキンじられている。だから、いろいろなチョサクブツをリヨウして、エーアイにカイセキさせたひとが、シテキにリヨウするかぎりでは、イホウとはならない。
そういうわけで、コジンテキにドルをバイバイするわけだから、イホウではないかもしれない。しかし、ドルがニジュッパーセントあがるというジョウホウをひとにつたえたばあいは、「シテキ」なリヨウにはならないので、イホウとなる。それじゃエーアイをかっても、いいデータがなければつかいものにならないといえるかもしれない。そうだ。エーアイはケイサンキのようなもので、ジッサイのスウチがなければ、ケイサンはできない。ただ、コジンテキなリヨウについていえば、リエキがあるかもしれない。それをたかいとみるか、やすいとみるかであろう。おおきなフゴウみたいないいかたをするが、それのもとデータがチョサクブツとすれば、そうそうにリヨウできないはずである。そこのところをチュウイしてみなければならない。

ハチジュウイチ、『ス』ニジュウロク

「ショウシカ」とか、「コウレイカ」は、シャカイコウゾウである。トウケイテキなケンキュウによってみいだされたコウゾウだ。トクに「コウレイカ」はいじりづらいコウゾウだ。ひとがすこしずつおいていくというのは、うごかしがたいゲンショウなのである。イッポウ、「ショウシカ」は、まだいじれるヨチがあるとかんがえられているようだ。
そのショウコに、こそだてをユウグウするセイサクがある。タンジュンにいえば、こどもをひとりつくったら、いくらかあげますというセイサクだ。そのセイサクをジッコウすれば、（おかねにつられて）だれかがこどもをつくるだろうとかんがえているわけだ。しかし、それをやったところで、そうタクサンのこどもがふえたわけではない。にもかかわらず、そういうセイサクをつづけている。そのセイサクをしんじるというのもコウゾウである。おかねをあげれば、こどもがふえるというシンリコウゾウである。そういうコウゾウはほかにもある。キンリをさげれば、おかねをつかうだろうというシンリコウゾウだ。
しかし、そのコウゾウはかならずしもただしくない（シャカイコウゾウとしてはただしくない。）。それは、カイガイのキンリのたかいところにおかねがイドウすることがあるからである。しかしながら、そういうただしくないコウゾウでも、ただしいとおもわれたり、コウゾウとしてのこったりするコウゾウもある。ばあいによっては、スウジでごまかすこともカノウだ。こどものテイギをヨンジュッサイまでにしてしまえば、ショウシカではないし、としをとるのをニネンにイッカイということにしてしまえば、コウレイカではない。しかし、そうやってごまかしても、しょうがないとおもう。
さかなのたまごをたべれば、こどもがふえるというようなことをまえにいったが（●『む』ヒャクサンジュイチ）、その「さかなのたまご」をかうホジョもそれがただしいとなれば、セイサクにできる。しかし、あまりそういうはなしはきかない。ただ、さかなが「こダクサン」であろうことは、いえそうなのだ。
ほかにもちいさなうめぼしを「こうむ」となづけてハンバイすればいい。しかし、そういうエンギがムシされているのか、こどもをつくりたくないのかはわからないが、こどもがふえないのではしかたがない。カイカクシャにとっては、そういうこどもがふえないコウゾウをなんとかしなければならないのだろう。

ハチジュウニ、『ス』サンジュウハチ

「デフレ（●ななジュウゴ、『スーペリアーをみつけた。［イカ、ス］』ニ）」がだめだといって、セイサクテキにギャクのインフレにしようとしている。「デフレ」はブッカがさがるから、チンギンもさがるとしてケイエンされるが、ホンシツテキには、リエキをだそうとするコウドウがそうさせる（●ロクジュウイチ、『オ』ヒャクサンジュウゴ）。シジョウにでまわるおかねがへるからだ。それじゃ、エイリキギョウとコジンのヨキンをキンシしますとはなかなかならない。そういうコンポンテキなモンダイがあるのにもかかわらず、それをホウチして、おかねのカチをさげようとするセイサクをとる。デフレもリエキもチョキンもシジョウのこえである。ほうっておいてもいいのではないか。

ハチジュウサン、『ス』よんジュウ

いきるとは「キョウリョクすること」である（●『オ』ロク）。なぜそういえるか。ニンゲンのカクサイボウがキョウリョクしなかったら、セイゾンがコンナンだからだ。サイボウはそれぞれやくめをもちながらキョウリョクしている。ただ、キョウリョクするだけではだめだ。それぞれのやくめをはたさなければならない。そこをかんちがいしてしまうと、シュウダンにマイボツしたり、ツゴウのいいひとになったりしてしまう。おおきなタンイのセイゾンになにかキョウリョクできればいいのではなかろうか。

ハチジュウヨン、『ス』よんジュウゴ

ニホンジンは、そのはなしがただしいか、まちがっているかをハンダンするのがジョウズかとおもう（ガッコウで［ただしい］こたえをだすことをおそわるからだ。トウアンにサンカクとかゴジュウまるがつくことはすくないだろう。）。が、ベンショウホウもいいとおもう。
つまり、エーとビーをギロンして、シーというこたえにいたることだ。しかし、キョウイクのコウカがあってか、エーがただしいか、ビーがただしいかになりそうなきがする。ヤトウのコッカイシツモンをみていて、イーというケツロンにもっていきたいのだろうけど、ヤトウがコッカイをクウテンさせて、ムダなかねをつかっているというエフのこたえがみえてしまう。どうもベンショウホウがわかっていないようだ。

ハチジュウゴ、『ス』よんジュウロク

よくヒコーキにのると、「コーヒーにしますか、コウチャにしますか。」ときかれる。そこでコーヒーをえらぶと、コーヒーをえらんだセキニンがうまれる（●『よ』ヒャクニジュウロク）。
ゲキやすのショクドウにはいったんだから、おいしくなくても、おまえがわるいともいわれる。ケッコンもそうだ。だれかをえらんでケッコンして、「あいつのタイドがわるいんだ。」とかモンクをタニンにもらすと、キョクロンすれば、「（えらんだ）おまえがわるいんだ。いやならわかれろ。」となる。おみあいケッコンでカゾクになったのなら、そういうことをいっても、「まぁまぁ、おくさんもがんばっておられるから。」ととりもたれる。だから、アンガイえらばないホウがアンシンかもしれない。いいわけができるからだ。まわりもそんなにつめたくしないだろう。
だから、センタクではなくてエンがダイジなのだとおもう。なにもかもえらぶのなら、カンゼンにジコセキニンである。キョウドウタイがよわくなったというのは、ケッコンのしかたがかわったからかもしれない。

ハチジュウロク、『ス』ゴジュウゴ

ソレンは、やるきのあるロウドウシャをユウグウせず、はたらかないロウドウシャをおなじタイグウにしたためにユウシュウなロウドウシャのやるきがうしなわれ、やがて「ソレン」というシステムがダメになったという。
キョウリョクしてはたらくというのはセイタイとしてはただしい。それがなかったら、いのちはソンザイしえなかったようにおもえるからだ（●キュウジュウハチ、『ス』ハチジュウサン、ハチジュウサン、『ス』よんジュウ、『オ』ロク）。なにがわるかったのか。おおきくみたブンギョウはモンダイないかとおもう。タブン、そのひとのしごとへのセキニンカンというか、コミットメントがよわかったのではないか。タンジュンにいうといいカゲンにやっていたということだ。
シンリガクでいう、「ガイハツテキドウキづけ（ガイブからのシジなどでうごくこと）」でうごいていたといえるかもしれない。ところが、「ナイハツテキドウキづけ（ジブンジシンのモチベーションでなにかすること）」のホウがながくものごとをつづけられるという。そういったキョウリョクをするんだけれども、ジブンもしっかりしているというのが、ダイジだったのではないか。たとえれば、いきいきとしてしごとをしていたかどうかだ。ソレンはいつからだか、「いきいき」しなくなってしまったのだろう。

ハチジュウシチ、『ス』ゴジュウロク

センゴしばらくしてトシブでゲスイドウがハッタツした。センゼンからあったかもしれないがすこしずつフキュウしただろう。このやりかたは、ヨーロッパのトシで、ヘヤのそとにオブツをなげおとすシュウカンからハッセイしたデンセンビョウをコクフクするかれらなりのやりかただろう。デンセンビョウがハッセイするより、エイセイテキなホウがいい。しかし、これはベターであるが、ベストではない。
フンニョウというヒリョウにつかえるものをうみにながしてしまうからだ（●ななジュウイチ、ななジュウイチ、『オ』ヒャクロクジュウロク）。だから、ゲスイドウのなかからフンニョウをとりだして、ヒリョウにつかうというクフウがヒツヨウになる。むかしのくみとりシキベンジョだったら、くみとってヒリョウにつかえる。どうもそういったかんじでカイガイのまねをすることがおおかったのではとおもう。
たしかににおわないが、そういうモンダイがある。ジブンのたんぼやはたけでとれたさくもつをたべ、フンニョウをヒリョウにして、またさくもつをそだてれば、それはジュンカンしているわけだ。だから、イチネンゴもジュウネンゴも、からだをソセイするブッシツはかわらない。だとすると、そのひとは「かわらないひと」ということになる。

ハチジュウハチ、『ス』ゴジュウなな

ジョウホウをなにかしいれたとしても、からだのつくりジタイはかわらない。だれかのことばをたべてエイヨウになったというのはきかない。たしかにジョウホウもカガクハンノウとしてタイナイでショリされるだろう。ただ、そのカガクブッシツはそとからいれたといえるのか。ナイブのモンダイのようなきがする。だから、しらないことばをいわれると、「なんですか。」とムハンノウのようなハンノウをするだろう。
チュウセイやエドキまでは、トシブをのぞき、そういったかわらないセイカツをしていただろう。いまは、ガッシュウコクサンのギュウニクやフランスセイのチーズをたべたりする。それならマイニチヘンカがあるだろう。からだをコウセイするブッシツがちがうわけだから、ヘンカがあるいえる。それがイシキレベルまでトウタツするかはわからないが、とにかくいまのトシブのセイカツはニンゲンがかわりやすいといえるだろう。なにかがかわるということは、あたらしい（あたらしくはなくても）なにかがおこっているといえないか。トシブのセイカツはそんなものである。ひとがかわるのがいやになったら、ノウソンブにひっこしてたはたをたがやせばいい。なにがダイジかであろう。

ハチジュウキュウ、『ス』ゴジュウハチ

「ことば」はカガクブッシツなのであろうか。そのことばのはじめは、だれかのあたまのなかでかんがえられたものであろうから、そのあたまをつかったブン、カガクハンノウがあったといえる。そのカガクハンノウがカンサツカノウになると、ひとがしゃべったり、モジをかいたりしなくても、なにをいおうとしているかわかるようになるだろう。それをかんがえると、「ことば」より「カガクハンノウ」がダイジなのかもしれない。しかし、いまのところ、そのカガクハンノウはカンサツカノウでないから、「ことば」はダイジとなる。あまりしゃべらなくなるひがくるであろうか。

キュウジュウ、『ス』ロクジュウニ

ニンゲンはことばをあやつる。ほかのドウブツもことばのようなおとをつかう。ことばをつかうということは、「イシキ」があるとおもわれる。むしにもそれはあるといえるだろうし、もっとゲンショテキなセイブツにもあるといえないか。「あたま」があるかないかではなく、「イシ」があるかないかというはなしである。
タサイボウのドウショクブツは、キョウリョクしようというイシがなかったらセイリツしないであろう（●ハチジュウロク、『ス』ゴジュウゴ、『オ』ロク）。タンサイボウのドウショクブツでも、もっとこまかいタンイでキョウリョクしているだろう。その「キョウリョクをしよう」というイシが、どこかにあるはずなのである。それがあるから、「いのち」がセイリツしているといっていいだろう。
その「キョウリョクしよう」というイシは、ジョウホウといっても、セイタイにとっては、カガクブッシツだろう。イデンシがチュウモクされたりするが、サイボウのフクセイキコウではなくて、どこかにそのカガクブッシツがあるだろうとおもう。もし、それ

がトクテイできれば、そのブッシツをつかって、タンジュンなブッシツから「いのち」をハッセイさせることができるのではとおもう。

キュウジュウイチ、『ス』ロクジュウサン

みかんをみて、それを「みかん」ということがわからないと、ことばでつうじあうのはむずかしい。さて、その「みかん」ということばはなんだろうか。ひとはそういうのをジョウホウということがある。ジョウホウというと、モジなどでえがくものかもしれないが、その「みかん」ということばをハッするまえのダンカイでは、それはカガクブッシツではないか。「みかん」にかぎらず、ニンゲンのことばとは、ニンゲンのノウのカガクヘンカのケッカ、そのことばをくちにだすなどのウンドウとしてシュツリョクされる、もしくはおもいをめぐらすウンドウのようなものだろう。だから、「みかん」ということばをつかうときには、「みかん」をあらわすカガクブッシツがあるといえそうだ。そのカガクブッシツがないと、「みかん」ということばはリカイされない。そうやって、ことばとは、あるカガクブッシツをヒョウショウするものだといえそうだ。

キュウジュウニ、『ス』ロクジュウよん

ニンゲンはいのちのあるものだから、つぎつぎとカガクハンノウがおこる。のどがかわいたら、なにかのみたいだし、つかれたら、やすもうというぐあいにだ。そういうカガクハンノウがさきにあったか、ことばがさきにあったかだと、カガクハンノウがさきにあったというべきだろう。
ことばはほかのニンゲンとはなすときにヒツヨウである。ひとりでいきるブンにはいらないかもしれない。しかし、トシのホウでは、ニンゲンとつきあわざるをえない。なにかたべたいとおもっても、そこらヘンにたべものがあるわけではないのだ。かわなければならないだろう。またうりきれということもある。そのために、たべたいというのをガマンしなければならないようなばあいもある。
ひとのソウシキのサイチュウにうたいたいとおもっても、うたわないホウがシャカイテキにのぞましいということがある。だから、ニンゲンはジブンのカガクハンノウをダイイチにかんがえればいいとはかならずしもいえないわけだ。シャカイテキニのぞましいように、ジブンのカガクハンノウより、ほかのなにかをユウセンさせたりする。さきのレイのばあいだと（ひとのソウシキだ。）、ホントウにそうおもってなくても、そうカガクハンノウがおこなわれてなくても、「おしいひとをなくしました。」などという。ホンネはうたをうたいたいだが、「ジブン」にうそをつき、ソウシキがあるからとうたわない。また、「タシャ」にうそをつき、くやみのことばをのべる。「ホンネとたてまえ」というが、そうやって、シャカイにあわせていきるのが、まぁのぞましいのだろう。そういうふたつの「うそ」がある。

キュウジュウサン、『ス』ロクジュウロク

ものがさきにあったか、ことばがさきにあったかというといがある。わたしにいわせれば、ことばよりさきにカガクハンノウがあっただ。カガクハンノウをおこすためには、ものがヒツヨウだから、そういうジュンバンになる。カガクハンノウがあつまって、いのちができたのであろう。カガクハンノウしていないセイメイタイはないはずだ。タブン、「キョウリョクしよう」というおもいというかがあって、セイタイができたのだろう（●キュウジュウ、『ス』ロクジュウニ、『オ』ロク）。
なぜ、キョウリョクするヒツヨウがあったのか。きびしいカンキョウがあったのかもしれない。タンサイボウセイブツでは、いきながらえなくなりそうだったのかもしれない。とりこむエイヨウがホウフにあったから、ブンレツしておおきくなっていったのかもしれない。のれんわけだとしてもキョウリョクだろう。

キュウジュウヨン、『ス』ロクジュウハチ

　たまにテレビでリョコウバングミがある。だれかゲイノウジンがたびをするというものだ。もし、それでのフウケイをガメンごしにみるのと、ジッサイにそこにでむいてみるのとで、ノウのなかでのカガクハンノウがおなじだったらどうか。モチロン、ジッサイにそこへいけば、おとやにおいもあるだろう。しかし、みるというシカクシゲキだけにかぎって、ノウのハンノウがおなじだとしたら、リョコウにいかなくてもよいということになるかもしれない。
いまのところ、においなどをつたえることがむずかしいから、リョコウにいくホウがタクサンのシゲキをうけとれる。なぜひとがリョコウにいくかといったら、ゲンダイでは、においをかぎにいくといったかんじだろうか。

キュウジュウゴ、『ス』ななジュウサン

かんがえて、よんサツホンをだしていれば、あるテイドたちばというかがきまってくる。そうすると、やはりジブンがいっていたようなロール（やくわり）をしなければならなくなる。ひとのホンをよんで、あーだこーだいうひとは、ベツになにかのたちばにたつヒツヨウはない。もとめられても、サンセイかハンタイかいっていればいいだろう。
ナンサツかだして、ジブンはそういうジユウさをうしなっているのではとおもった。つまり、ハツゲンするブンだけ、ジユウではなくなるわけだ。ジユウにはあこがれるけど、まぁしょうがないとおもう。ジユウでありたければ、なにもいわなければいい。それだけだ。

キュウジュウロク、『ス』ななジュウよん

キュウジュウネンダイは、ソレンがシュウリョウして、ガッシュウコクがイッキョウとなったようなジダイともかんがえられる。ジッサイにわたしはガッシュウコクセイものをスウテンかった。リョコウにもいったが、やはりゆたかなくにであった。かねがあるというより、ものがやすいとおもった。ブランドヒンがまぁやすいのだ。
そのゴ、ニセンネンダイにはいって、ニホンでもエンだかのサヨウがではじめた。ユニュウヒンがやすくなってきた。エンだかにふれるようになったのはセンキュウヒャクハチジュウゴネンのエンだかイゴだから、コウカがでるまでジュウゴネンかかったといっていいだろう。
エンだかになるとやすくなるのか。ニホンセイのものはかわらないが、ユニュウヒンがやすくなる。これでやすくなったというと、つまりは、ニホンでつくらなくなったということだ。デンキキギョウなどはチュウゴクでつくるようになった。やすいガイコクセイがかえるようになったというのがただしいだろう。ニホンもそういうセンタクシがでてきた。
わたしがでかせぎにいっていたころ、ガッシュウコクでドウジタハツテロがおこった。ヨウギシャがどうだのいっていて、そのうちセンソウになっていった。それで、センソウハンタイのデモなどもあったろうが、そういうのにサンカするヨユウはわたしにはなかった。アフガニスタンでは、ミンカンジンがクロウしただろうし、イラクでは、かなりコンランしただろう。だから、ケシカランとおもったホウだ。しかし、そのころから、ニチベイアンポジョウヤクにかわって、「ニチベイドウメイ」というようになった。どうも、そのアフガニスタンやイラクでのセンソウをみとめろというテイである。
わたしは、ガッシュウコクジンがきらいではないが（いいセイヒンをつくっている。）、それらのセンソウをショウニンしろといわれたら、ハンタイするだろう。またコンゴの「ニチベイドウメイ」がふくまれるセンソウもよほどのことがないとであろう。ニチベイアンポジョウヤクはソウテイするハンイがきまっている。しかし、ニチベイドウメイはどこまでもとおもわれる。
たしかに、ガッシュウコクセイのギュウニクをたべたりするのだが、だからわたしもジミントウタイシツ（からだのセイブンがニホンセイとガッシュウコクのものによってコウセイされること。●『ア』ヒャクゴ）だ。しかし、イッポウテキなセンソウをサンセイはできない。だから、そういうツイベイシソウはあやしいとおもうのである。しかし、ジミントウタイシツのひとがふえているゆえにそのホウにいくのは、あるテイドしかたないとはおもう。だが、である。

キュウジュウシチ、『ス』ななジュウロク

いのちとはキョウリョクすることだとかいた（●キュウジュウサン、『ス』ロクジュウロク、『オ』ロク）。キョウリョクなり、シュウダンカすることにより、よりおおきなコタイをつくっている。いまワールドカップがおこなわれているが、それだと、くにタン

イでオウエンしたりということがあるかもしれない。フツウはジブンのキョジュウコクやシュッシンコクのチームをオウエンするだろう。むかしはセンソウでいやでもオウエンしなければならなかったかもしれないが、サイキンは、おおきなセンソウはあまりおこっていないようだ。
そういうナショナリズムのほかに、もっとこまかいタンイでみたり、もっとおおきなタンイでみたりする。こまかいタンイだと、トドウフケンベツやカイシャタンイだったりする。おおきなタンイだと、チキュウをタンイとしてみるものがある。そういうのを「グローバリズム」というかもしれないが、サイキンは、あまりはやらないのかもしれない。ボウエキでもめているからだ。
ニホンというくにだって、センゴクジダイから、とくがわシのジキをへてなんとかひとつにまとめられたといえるかもしれない。だから、あまりとおすぎるとわからないともいえるだろう。なにかキジュンなどがあれば、まぁひとつとできるかもしれないが、そのひとつとなるためのキジュンがととのわないのであろう。たとえば、シュウキョウであったり、セイジシソウであったり、ゲンゴであったり、セイヒンだったりであろうが、まぁ、ややちからブソクなのであろう。まぁ、さきがみじかいわけでないだろうから、いそがなくてもいいとおもうし、ひとつじゃないホウがいいのかもしれない。

キュウジュウハチ、『ス』ハチジュウサン

「コーヒーにしますか。コウチャにしますか。」ときかれることがある。これはオウベイリュウだろうか。すきなホウをえらべばいいのだが、えらんだホウがおいしくなかったとしても、ジブンでえらんだのだから、えらんだあなたがわるいとなる。このばあい、モンクを、だしたホウにいえるだろうが、やっぱり、えらんだセキニンがある（●『ス』サンジュウキュウ）。ケッコンもそうではないか。
むかしながらのおみあいでケッコンしたばあいは、だれかに、「こづかいをすこししかくれないあいつがわるい。」などと、ケッコンあいてのモンクをいえるだろう。モンクをきくホウも、「それはサイナンだったね。」といえる。しかし、ジブンでえらんでケッコンしたばあいは、「おまえがえらんだのだから、おまえがわるい。」とモンクをいっても、バシッとかえされてしまう。そういうわけだから、かならずしも、ジブンでえらんだり、レンアイケッコンをしたりするのがいいわけではないだろう。モンクをいうところがなくなってしまうからだ。

キュウジュウキュウ、『ス』ハチジュウロク

ニンゲンにはタクサンサイボウがある。そのサイボウがやくわりブンタンをしているともかんがえられている。だから、ノウのサイボウならイシキをつくりだし、キンニクならウンドウをになっているといわれる。しかし、タンサイボウセイブツはただひとつのサイボウでいきている。それにイシキがないといえるだろうか（●『ス』よんジュウサ

ン)。キケンがあれば、カイヒするだろう。そのノウリョクをイシキといわないか。ほかのレイではハイサイボウだ。どのキカンにもなれるサイボウなら、ノウがもつキノウもナイガンしているとはいえないか。そうすると、イシキはノウでなく、サイボウにあることになる。
ノウがソンショウすると、しゃべれなくなるというのはウンドウのモンダイだ。うまくおもいだせなくなるというのも、キオクのモンダイだ。イシキはウンドウではないし(ごくちいさなウンドウかもしれない。)、キオクでもない。そのソフトウェア(しゃべるのは、ハードウェアをリヨウ。キオクもハードウェアだろう。)は、ジツはサイボウにあるようにおもう。もし、イシキにわずかなちがいがあるばあい、それは、イデンシなどのトツゼンヘンイがおこっているということではないか。タクサンサイボウがあるわけだから、ヘンカもあるだろう。

ヒャク、『ス』ハチジュウなな

「チュウシン」と「シュウエン」という。なんのことかといえば、ブンカなどのブンプのセツメイにつかえる。ニホンでいえば、トウキョウがチュウシンで、いなかがシュウエンだ。リュウコウやあたらしいジョウホウは、トウキョウからハッシンされ、やがて、いなかにもそれがとどく。セイジテキなメンにもいえるだろう。それぞれのくににチュウシンとシュウエンがあれば、ニヒャクイジョウのチュウシンがあることになる。グローバルシュギシャなら、ニューヨークなどがチュウシンで、あとはシュウエンなんだろう。しかし、わたしは、チュウシンはひとつでなく、フクスウのダイトシなどがチュウシンとかんがえる。レキシでいえば、よんダイブンメイだろう。チュウシンドウシがコウリュウをもち、ジョウホウやものをコウカンすることがあるだろう。そうすると、そのコウカンしたブンだけ、ふたつのチュウシンがヘンカする。そうしたコウカンは、レキシテキにあるとされるだろう。なぜ、ニホンにラーメンがあるかをかんがえれば、そうしたコウカンがおこなわれたのだろう。ちなみに「ラーメン」はチュウゴクゴだし、もとはチュウゴクセイだ。
むかしはいまとちがって、チキュウのうらがわにいきコウカンするのはタイヘンだ。だから、わりとちかばとコウカンをしていただろう。ニホンだと、チュウゴク、チョウセンが、おおかっただろう。ゆえにちかばのくにのブンカは、にているところがあったりする。タンジュンにいえば、もっともとおいところのブンカが、もっともにていないだろう。つまり、ブンカのドウイツセイは、キョリにハンピレイするということだ。
そうなのだがが、ゲンダイのニホンは、わりととおいヨーロッパのブンカをいれたりしている。たとえば、エイゴがそうだし、チーズをユニュウしたりしている。それは、ユソウのギジュツがハッタツしたからでもあるし、ニホンジンがヨーロッパのブンカをわざといれたことにもよるだろう。そのケッカ、「ニホン」というくにのブンカはヘンカする。きものをきるひとはへったし、ジュンスイなワショクをたべられるみせはすくなくなった。そのヘンカをねらうなら、もっともとおいところとコウエキすれば、もっともヘンカがおおきいだろう。そうしたコウカンを「シェイク」とよぼう。

ギャクにヘンカさせたくなければ、ちかばとコウカンすればいい。ニホンはわりと、ヨーロッパのブンカをいれたからヘンカした。もし、コンゴあまりブンカをヘンヨウさせたくなければ、ちかばとコウカンすることだ。それは、コクナイでもそれがいえるだろう。ちかばとコウカンしていれば、そのブンカはまもられる。グローバルカで、とおくのひととコウエキしていれば、どんどんあなたがヘンカしていくだろう。ブンカくみかえもあるし、ブッシツくみかえもある。

ヒャクイチ、『ス』キュウジュウイチ

ノウがあるからイシキがあるのだろうか。イシキはノウのハセイブツなのだろうか（●ハチジュウロク）。タンサイボウセイブツが、タクサンシュウゴウするカテイで、なんらかのあいことばなりなんなりがあったとおもわれる。ショクブツだって、みきになるものとハッパになるサイボウがある。これらはなにかコードがなければ、あつまりにくかったはずである。だとしたら、サイボウレベルでゲンシイシキがあったのではないかとすることはトッピではないとおもう（●『ス』よんジュウサン）。
なぜ、ショクブツにはノウがないか、イドウのヒツヨウがないからである。ようするに、ノウはウンドウケイであろう。イドウのヒツヨウがしょうじたショクブツには、ノウができるとおもわれる。そうやって、ニンゲンもショクブツからシンカしたかもしれない。ただ、サンソをつかう、ニサンカタンソをつかう、サンソをつかうというキノウブンカがあるから、いまのままのくわけでいいのだとおもう。サイボウがあつまって、ウンドウのヒツヨウがショウじたから、ノウができたのだろう。ウンドウケイというわけだから、ことばをしゃべるのは、ノウのはたらきだ。なにかをおもうのは、サイボウのはたらきだとおもわれる。

ヒャクニ、『ス』キュウジュウサン

イシキはサイボウにあるかもしれないとかいたが（●キュウジュウキュウ、『ス』ハチジュウロク、ヒャクイチ、『ス』キュウジュウイチ）、それでも「ノウ」にあるとキョウチョウしたホウがいいのかもしれない。「いのち」とはキョウリョクすることだとかいたが（●『オ』ロク）、「ノウ」がシュタイなら、その「ノウ」をもつコクミンドウシがキョウリョクするというジギョウができるからである。そうすると、「くに」がさかえるであろう。しかし、イシキが「サイボウ」にあるとなると、まずコジンがナイブのことにチュウリョクして、さらに「くに」をゆたかにするとすれば、ガイブにもジンリョクしなければならない。カイソウがふえるわけだ。それなら、「コジン」のガイネンは、「ノウ」をチュウシンとした「イシキ」および、シンタイとすれば、おさまりがよいのではとなる。

そういうわけで、「セイジテキ」には、「ノウ」にあるとしたホウがやりやすいかもしれない。

ヒャクサン、『ス』キュウジュウよん

「イシキ」がサイボウにあるとすると（●ヒャクニ、『ス』キュウジュウサン）、タクサンのサイボウがあるわけだから、イケンがことなることもあろう。それをチョウセイするのがあるイミ「イシキ」だといえるだろうが、かりにジョウイイシキとしよう。コウドウをするにあたって、そのイケンのセンタクがされるだろう。コウドウにいたるばあいは、「ウンドウケイ」の「ノウ」にとおされるだろう。コウドウにうつされない「おもう」のばあいは、サイボウココの「イシキ」をふまえて、ジョウイイシキでおもうだろう。ひょっとしたら、「ノウ」をつかわないカノウセイもあるが、「ブンカテキなことば」をつかうということで、「ノウ」をつかうカノウセイもある。
ところで、イケンのフイッチがあったばあいはどうなるか。「ジョウイイシキ」がそれをセンタクする。しかし、ハンタイイケンがふえれば、その「ジョウイイシキ」がトウセイすることがコンナンになるだろう。シャカイでいえばカクメイさわぎだ。そうしないためには、イシキをトウセイカノウにたもっていく。キョウケンテキなシュホウもカノウだろうが、カクメイさわぎのおこるカノウセイがホリュウされる。だから、おだやかにハンタイイケンもくみとりつつ、イシキをトウセイするようだろう。そとからいうと、ジョウイイシキがかわっていくわけである。だから、コウドウなどもかわったりするだろう。イデンシもたまにかわるという。みたかんじ、あまりかわらないひとというのもいるだろうが、「イシキ」のヘンカがふえればかわらざるをえないだろう。そんなカンジにシンカする。シンカはそうしたコジンナイセイジのケッカなのかもしれない。

ヒャクヨン、『ス』キュウジュウロク

ニホンやカンコクやチュウゴクはトウヨウのくにである。それにタイしてセイヨウのくにもある。たとえばオウベイだ。セイヨウのくにはわりとセンシンテキで、そういうくにをセンシンコクという。それにトウヨウのくにニホンもかぞえられている（らしい）。ニホンはどちらかというとセイヨウフウのかんがえやセイヒンをいれた。ガッコウではエイゴをガクシュウさせている。そういうわけか、わたしは、チュウゴクジンとはなすのにエイゴをつかったりする。おなじトウヨウジンドウシなのにである。セイヨウには、センシンコクがおおいから、セイヨウのキジュンでなにかをかたることがある。そういうのをグローバルスタンダードというかもしれない。しかし、ニホンとチュウゴクは、トウヨウのくにであるわけだから、かならずしもセイヨウのキジュンではなすヒツヨウはないとおもう。トウヨウのかんがえかたもあるだろう。ニホンでは、セイヨウフウのキョウイクがおおいだろうから、どうしても、セイヨウテキなキジュンでかんがえる。しかし、トウヨウのかんがえかたもあるのである。

ヒャクゴ、『ス』ヒャクニ

しにそうになったおやじがおしえてくれたことは、それでもヒッシになっていきるだ（●『よ』ジュウイチ）。まえにいのちとはなにかをかいた（●『オ』ロク）。キョウチョウすることだ。しにそうになってもキョウチョウする。キセイしていてにげることがカノウなむしなんかはにげるだろう。しかし、にげられないサイボウなどは、それでもなんとかしようとする。ニホンでは、「シャカイジン（●『ス』ニジュウシチ）」といういいかたがある。そういわれるひとたちは、ニホンにとってにげられないサイボウのようなものだろう。とにかくキョウチョウしてくにをながつづきさせようとする。
まえのセンソウはまずかったが、それでもキョウチョウしたのだろう。にげられないサイボウはそうするだろう。そういうあまりよくないケツダンのまえにとめられればいいだろうが、それができなかったこともあると。そういうときは、できるかぎり、とめたホウがいいのであろう。ニホンジンはデモをするシュウカンはないのであろうが。

ヒャクロク、『ス』ヒャクゴ

ゼンサクで、オンガクがひとりイチジカンイチエンでたのしめるとかいた（●ロクジュウニ、『オ』ヒャクサンジュウハチ）。それは、スウジをみてのケイサンである。そのケイサンから、シジョウのドウコウをコウリョし、そうなっていくとかいえるのである。これをケイザイマップといおう。ケイザイマップにくわしいひとは、ジブンでなにかのケイザイマップをつくれないひともいるかもしれない。しかし、ジョウホウをあつめて、ケイサンできるひとはケイザイマップがよめるし、つくったりもできる。ケイザイマップがかならずしもゲンジツのケイザイとあわないこともあるだろうが、シシンにはなるだろう。

ヒャクなな、『ス』ヒャクジュウよん

イデンシをみると、そのセイタイのケイシツがわかるとされる。それをいじってさくもつをつくることもされている。そのイデンシはなにがつくったのか。それはそのセイタイだろう（もしくはそのソセン）。
いまでは、あたまにイシキがあるとされるが、わたしはサイボウにあるのではないかとかんがえている（●ヒャクサン、『ス』キュウジュウよん）。どういうことか。アメーバにイシキがないとはいえなそうだからだ。それなりのイシケッテイをしているとおもわれる。そういうのをホンノウといったホウがいいかもしれないが。
イデンシもイシケッテイのケッカであろう。たとえば、はねをキンイロにするとケッテイしたところで、キンイロがでるシゲンがなかったら、そういうはねはできない。つま

り、ゲンジョウであるシゲンにそって、イシケッテイされたわけだ。イデンシはそのキロクであろう。コウドなイシケッテイである。それをアメーバができるとすれば、サイボウにイシキがあるといってさしつかえないとおもう。
では、ノウはどういうしごとをするか。ひとつはウンドウにかかわることと、タクサンのイシキのシュウヤクチョウセイであろう。セイシンブンセキをはじめたフロイドは、ニンゲンにムイシキをハッケンしたといわれる。つまり、イシキとムイシキがあるということである。わたしにいわせれば、イシキはノウのはたらき、ムイシキはサイボウのはたらきだろう。イシキでかってにかんがえることはできるが、そもそもムイシキのチョウセイをするはたらきなんだから、ムリはするなということである。

ヒャクハチ、『ス』ヒャクジュウなな

あるひとがいえをたてるとする（そのひとがたてるのではない。）。あるギョウシャにたのんだ。シンライドのたかいシャカイでは、たてるひとはジュウブンなおかねをギョウシャにはらうだろうし、ギョウシャもまともないえをたてるだろう。しかし、ギャクにシンライドのひくいシャカイでは、たてるひとは、ギョウシャがヘンなしごとをしないように、みはっていなければならないし、ギョウシャもきちんとおかねがしはらわれるかを、みきわめねばならない。そうすると、いえをたてるひとのフタンがおおきくなるし、ギョウシャのフタンもおおきくなる。
それをなんとかしようとおもったら、そのブンヨケイにおかねがかかることになる。しかし、リョウシャがコウシンライだと、そのブンコストをやすくできる。つまり、ソウホウがきちんとセキニンをもっていれば、コストをやすくできるということである。それがブンメイのいいところだろう。しかし、いいカゲンだと、あいてはよりたかくセイキュウする。だから、フセイをへらしていったホウがくらしやすいのだろう。そういうイミでバッソクもダイジかとおもう。

ヒャクキュウ、『ス』ヒャクジュウハチ

よく「コウリツカ」といわれたりする。コウリツカすれば、やすくなにかをつくれるということだろう。しかし、セッケイのコウリツカはむずかしいとおもう。ブヒンをいくつかへらしたり、サギョウをへらしたりというものだ。そういうのは、「やすブシン」といわれるだろう。
セッケイにはセッケイしたひとのかんがえがそこにふくまれている。そのいくつかをけずってもダイジョウブかもしれないとおもうかもしれないが、それにはイミがあるだろう。ホウリツタイケイもそうかもしれないから、なかなかキセイカンワがすすまない。イチオウホウリツにはシュシがかかれているから、うまくよめばコウリツカできるだろうが、なかなかやすブシンにはしたくないようだ。もうイッカイセッケイしたホウがはやいのかもしれない。

ヒャクジュウ、『ス』ヒャクニジュウ

ゲンダイジンがセイカツすると、かならずディスオーダー（フチツジョ）がでる。タンジュンにいえばごみだ。ジュースをのんでも、あきカンがでるし、たべものをたべても、ホウソウしていたプラスチックがでる。トクにプラスチックはなにもしないと、つちにもかえらないという。
ユウボクミンなら、くさがなくなったところから、くさがあるところへイドウすればいいだけだ。ほとんどごみはでない。ゲンダイジンのばあい、そうしたディスオーダーをショリするのにジカンをかける。バカバカしいのではあるが、そのホウがベンリとおもわれている。タンジュンにプラスチックももやしてしまえとおもうのだが、そうはいかないのだろうか。あえて、もやせるプラスチックというのをつくらなければいけないのだろうか。

ヒャクジュウイチ、『ス』ヒャクニジュウよん

サイコウのビジネスマンとはなんだろう。もっともかせいでいるビジネスマンのはなしをきいたりする。そのひとたちもサイコウのビジネスマンのひとりだろう。どうドリョクしたのかなどもかたられることがある。そういうはなしをきくと、ジブンのブンヤでドリョクすれば、いいビジネスマンになれるとおもうかもしれない。しかし、そのドリョクはムダにおわることもあるだろう。なぜなら、サイコウのビジネスマンは、サイコウのコキャクをかかえているということだからだ。
それにはそのビジネスマンのノウリョクだけとはかぎらない（コキャクをカクトクするのもノウリョクだが。）。ウンだの、ジキなどもカンケイするだろう。いまのところのサイコウのビジネスマンはチュウゴクにいるかもしれない。なぜなら、おおくのコクサイテキなキギョウがジシャコウジョウでつくるにせよ、チュウゴクジンにつくるのをハッチュウしているからだ。タブン、ガッシュウコクのうりあげイチイのキギョウのセイヒンをうけおっているひとがサイコウのビジネスマンだろう。サイコウのおキャクであろうからだ。

ヒャクジュウニ、『ス』ヒャクニジュウゴ

タサイボウセイブツができたのは、「キョウリョクしよう」とするイシキ（●ヒャクなな、『ス』ヒャクジュウよん）がめばえたためとかいた（●『オ』ロク）。それゆえにそれぞれが「サイボウ」としていきはじめた。そのまえは、タンサイボウセイブツだったかもしれないし、ジツは、タンサイボウセイブはタサイボウセイブツからドクリツしたのかもしれない。それはともかくなんらかのブッシツがあったのだろう。タンパクシツをつく

れるジョウタイにあったかもしれない。
いずれにせよ、なんらかのエネルギーがあったのだろう。エネルギーがなかったらセイリツしない。トウをエイヨウにかえたり、タンパクシツをつくったりすることができた。そういうエネルギーがあったということだろう。また、「ウゴキタイ」というイシキがあったから、セイブツがうごくようになったかもしれない。

ヒャクジュウサン、『ス』ヒャクニジュウキュウ

くだものがきにみのったら、とってたべることができる。そのもりにナンニンかがくらしていたら、それぞれがみをたべるかもしれない。しかし、みのったくだものがすくなければ、ケンカになる。「おまえはとりすぎだ。」とか、「そんなことはない。」とか。そういうわけだから、なにかをイッコもっていれば、くだものをイッコとっていいとか、そういうクフウがはじまる。それはおかねのはじまりである。おかねジタイにカチはそれほどないが、くだものをイッコとれると。それがやがて、おかねジタイにかちをもたせることになる。
ニホンでは、コバンなどである。それが、また、カチのないシヘイにかわる。シヘイは、それジタイにはカチがないが（あるといえばある。）、センエンなり、イチマンエンブンのものとコウカンできる。それをチュウオウギンコウがホショウするわけだ。だから、チュウオウギンコウがあまりシサンをもっていないと、ホショウはくずれる。「インフレ」というジョウタイである。しかし、おかねがなくても、ケンカしなければ、もりはヘイワだろう。つまり、うまくやれば、おかねはいらない。そういうシャカイもあるとおもう。

ヒャクジュウよん、『ス』ヒャクサンジュウロク

まえにウチュウはカイソウコウゾウになっているかもしれないとかいた（●『ス』ヒャクニジュウロク）。つまり、ウチュウのそとには、ウチュウがあるし、チキュウのなかにもチキュウがあるといったぐあいにである。そうすると、ウチュウのウチュウには、おおきなニンゲンみたいないきものがいるカノウセイがあるし、チキュウのなかにもちいさなニンゲンみたいないきものがいるカノウセイがある。フツウのニンゲンのおおきさがせいぜいヒャクハチジュッセンチだから、おおきないきもののはなしも、ちいさいいきもののはなしもしづらい。タブン、ウチュウのハンブンくらいのながさのビルもつくれなければ、センチョウブンのイチのおおきさのパソコンもつくれないだろう。だから、キョクロンすると、そのおおきなひとみたいないきものとか、ちいさなひとみたいないきものにニンゲンがセキニンをもつことはできない。そういうわけだから、わたしは、そのハッケンで、ウチュウガイのタンサは、とりあえずシュウリョウするわけである。かれらがうまくやるしかないとなる。いってみれば、かみみたいなものをみつけてしまったともいえる。かみさまたちのモンダイは、かみさまたちがなんとかするしかないと。
ウチュウのそとには、タブンそうそうにはとどかないが、チキュウのなかはとどくカノ

ウセイがある。だから、チキュウのナイブのケンキュウはできるだろう。しかし、それもやはり、ちいさいひとみたいなものが、がんばるしかないだろう。そういうわけで、ひとつのカガクのおわりをケイケンしてしまった。もっといえば、「かみ」をハッケンしただ。シンセイなリョウイキはおかすべからずというはなしににている。ケンキュウをしていたら、「かみ」にいきついたわけだ。それでどうするかは、わたしのモンダイだ。トクにキョウギとかギシキがあるわけでもない。そういうのは、かかわっているうちにできていくんだろう（そのソンザイがあるかもとしかいえない。）。そういうわけだから、どんな「かみ」であれ、あるとされるのはしょうがないとおもう。シュウキョウフンソウがあるのはザンネンだが。わたしは、そのおおきいニンゲンみたいないきものを「スペリオール」ということにする。ニンゲンのリョウブンでしっかりやらねばならないとおもうわけである。

ヒャクジュウゴ、『ス』ヒャクサンジュウハチ

ニホンではエドからメイジにはいり、「ブンメイがカイカした。」という。しかしホントウにそうなのか。たしかにオウベイのものやカガクやブンカがはいってきて、それらをふれられるようになっただろう。それを「ブンメイカイカ」とよんでいいか。ブンメイというのは、なにかをつくるのにたけているということである。たしかにオウベイのものをまねてつくれるようになっただろう。しかし、それは「まね」であって、「ブンメイ」ではない。ニホンジンがトウジつくったものといえば、すきやきぐらいではないか。それでは、ブンメイというにはさびしい。
そういうおそまつなジョウキョウはセンゴもつづいているようにもおもえる。ニホンジンがつくったのは、シィディ（オウベイのキギョウとキョウドウカイハツ）とかタンソセンイぐらいかもしれない。それではブンメイコクとはいいづらいであろう。ガッコウでおそわるカガクもオウベイジンやチュウゴクジンがかんがえたことをおしえている。ニホンジンがハッケンしたなにかというのはすくない。たまに、「カガクリッコク」などというが、そのようなジョウキョウでは、せいぜい「ものまねリッコク」だろう。
ブンメイというのは、コウゾウでもある。ひとつがあれば、それからハセイするものもうまれる。だから、ひとつのハッケンはダイジなのである。いまのニホンジンは、そのハセイブブンでショウブしているにもおもう。しかし、それは、オウベイやチュウゴクのだれかが、はじめにかんがえたからできたことで、そのひとたちにあたまをさげるヒツヨウがある。いってみれば、おおくのニホンジンはオウベイやチュウゴクのひとのセイトなのだ。セイトショウコウグンといってもいい。いいセイセキをとれたから、まぁユウシュウであるとおもったり、「カガクリッコク」といってみたりするが、それはあくまでも、「セイト」としてのはなしである。だから、ニホンは「ブンメイコク」になりづらいのである。イチリュウコクといってもいい。
それがなんとなくわかってきたから「ゆとりキョウイク」などとやりはじめたのであろう。しかし、まだまだセイカがでないようである。キョウイクもフツウのキョウイクにもどしてしまったという。しかし、レキシをふりかえってみれば、いいキョウイクがあ

るとおもうのである。それはなにか。「おしえないキョウイク」である。
たとえば、そらにうかぶくものことを、チジョウのスイブンがそらにあがり、それがかたまってできる。などとおしえたとする。それはだれかがみつけたことである。それをデンタツしたにすぎない。しかし、マイニチくもをみてそれをたまにかんがえていれば、なぜ、それがあるのかがいつかわかるかもしれない。それは、そのひとがかんがえたことである。そうやって、おしえないキョウイクをすることもできる。そのケッカは、ほかのだれでもなく、そのひとがかんがえたことである。それをみつけたジキテキな、はやさのモンダイはあるが、それがつみかさなっていくと、「ブンメイ」になるだろう。それはものまねではない。それはきながなサギョウではあるが、ニホンジンもそうしたキョウイクにきりかえることをしてもいいのではないか。そういうキソケンキュウがダイジとおもうのである。

ヒャクジュウロク、『ス』ヒャクよんジュウキュウ

ひととひとがソンタクしあうとどうなるか。それは、「キョウドウタイ」になるだろう。それをもっとおおくのひとのあいだでなされると、「ホンモノの」キョウドウタイになってくる。しかし、そのなかでそういう「ソンタク」にオウじないひともでてくるだろう。それをセイリすると、タクサンのソンタクイコール キョウドウタイ たす インターサイダーとなる。
インターサイダーとは、うちのひとか、そとのひとかわからないひとたちである。このシキはこどもについていうと、「インターサイダー」が、「いたぶり」にかわったりする。つまり、「いじめ」である。おとなのあいだでは、なかなかいじめにはならないであろう。ハンザイにちかいからだ。しかし、そういうむきもある。
このように、ゼンインサンセイでケツギというのは、なかなかむずかしい。だから、セイトウがタクサンできる。それはいじめよりいいかもしれない。センゴは、タクサンできたから、ユウイなひとつのセイトウのいうことを、かならずしもきくかというと、そうではないだろう。それを、「いじめ」でおさえてしまえというひともいるだろうが、イケンがわれたっていいだろう。ソンタクをぬきにするホウホウもあるだろう。そうすると、オウベイテキになるんだろうか。

ヒャクジュウなな、『ス』ヒャクゴジュウ

ニホンでは、ガクセイがダイキギョウにシュウショクしたり、コウムインになろうとしたりする。タブン、それらなら、つぶれないからアンタイだとおもっているのだろう。たしかにコクナイシジョウで、それだけシェアがあれば、そうわるくはないだろう。しかし、カイガイもふくめると、そのチイはソウタイテキにテイカする。コクサイテキにいうと、かせぐキギョウのジョウイにサイキンはニホンキギョウがはいらない。つまり、カイガイのキギョウのホウがコウチョウというわけだ。だから、ドウキでニュウシャした

だれかがカチョウになったといっても、それでくやしがることはない。ネンシュウだって、ゴヒャクマンエンもかわらないであろう。
カイガイにめをむけると、わたしのコウハイカクが、ネンカンイッチョウエンとかかせいでいる。わたしのドウキはそれほどでもないが、やはりソウトウのサをつけられている。そういうわけだから、コクナイのドウキとくらべるのは、やめたホウがいい。メイジイシンのときもそうだっただろうが、カイガイの「ドウキ」たちときそっていかなければならないのだ。

ヒャクジュウハチ、『ス』ヒャクゴジュウサン

エーアイがたまにワダイになる。ロボットのはなしがでてくることもある。このふたつがニンゲンのロウドウをうばうかがチュウモクされるところだろう。これらはパソコンのようなものかもしれない。ハチジュウネンダイあたりからふえはじめて、レイネンダイにイッキにフキュウした。そのレイでは、フキュウするまでにニジュウネンカンかかった。
わたしはパソコンをテレビがわりにしたので、イッコテレビのしごとをパソコンがうばったことになる。もっといえば、オンガクのロクオンキのしごともうばった。ワープロのしごとをうばったというひともいるだろう。このように、エーアイやロボットもなにかしごとをうばいそうである。それはどんなしごとだろうか。
タンジュンにいえば、「マニュアル（テジュンショ）」どおりにするしごとはうばわれるだろう。それはプログラムカノウだからだ。いまのところは、そのマニュアルでニンゲンをうごかしているが、テジュンショがつくられるということは、プログラムカノウなのだ。それなら、エーアイやロボットをうごかせばよいとなる。うごいていたロウドウシャのネンシュウがサンビャクマンエンなら、ニセンマンエンのロボットをかったホウがやすあがりとなる。それなら、ロウドウシャはカイコされるだろう。そういうリユウで、マニュアルでうごくしごとは、えらばないホウがいいといえるだろう。

ヒャクジュウキュウ、『ス』ヒャクロクジュウ

「カガクをやらないと、レキシがひとつにならない。」とかいた（●ヨンジュウキュウ、『オ』キュウジュウニ）。レイをいえば、とよとみひでよしコウが、ショウグンになったか、とくがわいえやすコウが、ショウグンになったか、リョウホウならどちらがさきか、といったことをつめていかないと、レキシ（キロク）やニンシキやブンカがひとつにならないわけである。ジッサイにそのジブン、セイリョクあらそいもあっただろう。それをつめていくとレキシがひとつになる。ギャクにそれをしないと、いろんなセイリョクにわかれてしまう。ゲンダイテキにいうと、セイトウだろう。それぞれニンシキやシュチョウがちがう。しかし、ガッコウキョウイクで、あるテイドのレキシ、いろいろなキョウカをベンキョウするから、ふるいことがらについては、ニンシキをイッチさせること

ができる。ヨウするにそうやってくにをひとつにまとめているわけだ。
もし、カイガイをふくめて、ニンシキをひとつにするべきだとおもうなら、キョウツウのキョウイクをすればよい。そうすれば、ニンシキはひとつになるホウコウだろう。そういうわけだから、カイガイでキョウイクをうけたニホンジンやガイコクジンは、ニホンのメインブンカとはイッチしないかもしれない。わたしもなんとなく、「ニホンとはなにか」をといつづけた。しかし、またベンキョウをしなおしてもしょうがないであろう。わたしは、ジセツをいうので、トウチシャにとってはけむたいかもしれない。しかし、それもカガクみたいなものだとおもっている。

ヒャクニジュウ、『ス』ヒャクロクジュウサン

オンガクをつくっていて、イッコのガッキをいれかえると、そのキョクのイメージがソウトウかわるというかんじがした。イチたす イチ たす イチは、サンだが、イチ たす ゴたすイチのようなシキになったんだろう。ケイサンケッカもななとかわる。
それをならすのに、ヘイキンイチのホウにあわせるか、ヘイキンゴのホウにあわせるかというモンダイがある。どちらでもいいのだが、ヘイキンをゴにするホウがてまがかかる。ヘイキンをゴにしようとおもえば、たすよん と たす よんのケイ たすハチをしなければならない。しかし、ヘイキンをイチにしようとおもえば、ひくヨンをすればいいだけだ。これはなにかのカダイににていないか。「でるくいはうたれる。」というやつである。あるシャカイで、あしがはやいひとがひとりいたとする。そのひとにあわせてはしろうとすると、クロウがおおいから、あしがはやいひとをヘイキンテキなはやさではしるようにしてしまうというやつだ。これは、いじめのメカニズムでもあろう。あしがおそいひとがいたら、ヘイキンテキにはしってもらうというのがわかりやすいレイだろう。つまり、ヘイキンにあわせるホウが、おおぜいにとって、クロウがすくないから、それがおこるというわけである。しかし、コクサイキョウソウがはげしいと、ユウシュウなひとはヒツヨウである。ムリにあわせるヒツヨウはないが、コセイソンチョウでいいのかもしれない。

ヒャクニジュウイチ、『ス』ヒャクロクジュウゴ

いじめのゲンリをかいた（●『ス』ヒャクロクジュウサン）。なにかのノウリョクがサンのセイト、ひとりと、イチのセイトがヨニンいたとしたら、サンのセイトがイチのセイトにあわせたホウが、ゼンタイテキなロウリョクがすくなくなるというロジックだ。そのばあい、ロウリョクは、ニですむが、ギャクにイチのセイトが、サンにあわせると、ロウリョクがハチかかる。このロウリョクのモンダイで、いじめがおこるというセツである。それでは、いじめはカイケツできるのだろうか。あるノウリョクがジュウのセイトがひとり、イチのセイトがヨニンいるとする。タンジュンなサンスウテキソウサでは、ヘイキンにおちつかせてしまえということがかんがえられるであろう。ゴニンでゴウケイジュ

ウヨンだから、ニテンハチにゼンタイをもっていけばいいと。しかし、そのばあい、ノウリョクがジュウのセイトは、ナナテンニのロウリョクがヒツヨウで、ほかのヨニンとくらべると、イッテンハチだから、ヨニンブンのロウリョクをしいられることになる。これでは、ロウリョクのコウヘイセイはカイショウしない（うらむということだ。）。それならどうすればいいか。
ノウリョクのチュウカンにおちつかせればいいということがかんがえられる。このばあいなら、ゼンインゴテンゴをめざすのである。それだとそれぞれがヨンテンゴのロウリョクをつかえばいいとなる。それならコウヘイだから、おさまりはわるくないのではないだろうか。もっともカンタンなレイだからこういうケッカで、もっとノウリョクがばらけると、フクザツなケイサンがヒツヨウであろう。

ヒャクニジュウニ、『ス』ヒャクロクジュウハチ

あるキギョウがあるセイヒンをうりあげ、ダブリュ（チンギン）と、ピー（リエキ）をだしたとする。このダブリュをジュウギョウインはつかい、セイカツをする。このジュウギョウインがチョキンをせずにダブリュをつかいきれば、またダブリュブンのジュヨウがうまれる。しかし、イッポウのピーがつかわれなかったら、ジュヨウは、そのまえが、ダブリュたすピーがあったところ、ダブリュだけになる。つまり、ピーブン、ジュヨウがへるわけだ。それでまたセイヒンをうると、ダブリュだけうりあげて、またエックス（チンギン）と、キュー（リエキ）をだす。こうしていると、ドンドンチンギンもリエキもさがってしまう。これを「デフレ（●『ス』ヒャクニジュウニ、ロクジュウイチ、『オ』ヒャクサンジュウゴ）」とよぶようだ。
マルクスフウにいえば、「サクシュ」だろう。それをカイケツするには、「リエキ」をださないというホウホウがあるが、そういうキギョウはすくないだろう。しかし、こうしたコウゾウゆえに、フケイキがながくつづいたというはなしもあまりきかない。どうしてだろう。
イッパンテキなコウケイキがつづくうらでは、ケッコウなあかじをだしているキギョウやひとがいるのではないか。「コウケイキ」というのは、あるタスウのはなしである。うらであかじをだしているキギョウがいなければ、チンギンもリエキもさがりつづける。つまり、すくなくとも、さきのピーのブブンをどこかのキギョウやひとがはらっているといえそうなのである。それをセイサクテキにジッコウするのがコウキョウトウシであろう。
セイジカはセンキョでえらばれるから、タスウが、「ケイキがわるい。」というと、トウセンするのがむずかしくなる。しかし、ショウスウが「ケイキがわるい。」といっても、あまりモンダイにならない。だから、ケイザイのメンでいうと、センキョセイジはシッパイかもしれない。タンジュンなキンケンセイジ（シサンにオウじてトウヒョウする。）のホウが、ケイザイテキにはまともかとおもう。タスウのリエキばかりがダイジだとはいえなさそうだから。ゲンザイのやりかたでは、「あかじ」も「コウケイキ」のシゲンになっているといえるだろう。「おかげさまで」というわけである。

ヒャクニジュウサン、『ス』ヒャクななジュウサン

あかじはシゲンであるというはなしをした（●ヒャクニジュウニ、『ス』ヒャクロクジュウハチ）。だれかがあかじをひきうけないと、リエキはでないからである。その「リエキ」のブンを「あかじ」とみないむきもある。しかし、だれかがださなければ、「リエキ」はでない。だから、いいセイヒンをつくるのだろう。そうすれば、「あかじ」のブンまでよろこんではらってくれる。そういうわけで、イチバンリエキをだしているキギョウは、あかじあつめがもっともうまいといえる。
あかじをよろこんでだすならそれもいいだろう。しかし、あかじをだしたくないひともいるだろう。どうも、フケイキのときには、あかじをだすのをためらうひとがおおいようだ。そうすると、カイシャのホウでもギョウセキがおちるのだろうけど。「フケイキ」だとモンダイにするけれど、シゼンなコウバイカツドウもいいとおもう。

ヒャクニジュウよん、『ウンドウはすべてエレクトリック。』ゴ

「でるくいはうたれる。」という。しかし、ですぎたくいをうつのはむずかしい（●『よ』ななジュウゴ）。まえのホンでギロンしたいじめのモンダイ（●ヒャクニジュウ、『ス』ヒャクロクジュウサン、ヒャクニジュウ、『ス』ヒャクロクジュウゴ）も、くいをたたけばいいわけではないというケツロンである。なぜなら、フコウヘイがショウずるからだ。つまり、ひとりのできをかえるのでは、そのひとのフタンがおおきい。だから、コウヘイなリョウだけ、ゼンインのできをかえればいい。それはどういうことかというと、でたくいはちょっとたたき、でてないくいはちょっとひっぱるということである。そうすると、それぞれのドリョクがキントウで、あらたなフコウヘイカンがうまれないということである。

ヒャクニジュウゴ、『ウ』ジュウゴ

ものエーと、ものビーをみたときに、ニンゲンは、それを「おなじ」か「ちがう」とハンダンするだろう。ニホンでは、コクミンドウシが「おなじ」だと、キンシツテキだといわれることがある。しかし、よくみると、ちがいはあるだろう。そういうなかでは、「ちがう」とイシキしたら、「ちがう」となる。
イッポウでガッシュウコクには、「ちがう」ひとたちがあつまっていたりする。そういうなかでは、「ちがう」とニンシキしなくても、「ちがう」だろう。へたすると、「ちがう」ドウシでケンカになるから、「おなじ」とおもわせるしかけがヒツヨウとなるだろう。
そうやって、カンネンテキに「おなじ」にしていく。しかし、いまのはやりは、「ちがう」であるかもしれない。しかし、それをすすめると、ドンドン「ちがう」になってしまう

ので、「おなじ」といえるしくみをキョウカしたりするだろう。そうやって、くにやシャカイはやっていくんだとおもう。いまのところ、サイジョウの「おなじ」はグローバリズムだろう。しかし、「ちがう」のではと。

ヒャクニジュウロク、『ウ』ニジュウゴ

モジをかくのに、おおいシュルイですくなくかくか、すくないシュルイでタクサンかくかというセンタクがある。ゼンシャはカンジをかくようにであり、コウシャはエイゴをかくようにである。

どっちのホウシキでもよいが、ゼンシャのばあいだと、ひとつひとつのモジをおぼえることがカンタンでなない。

そういうモンダイがあってか、サイキンは、コウシャをシジするひとがおおいようにおもう。ニホンゴは、そのチュウカンである。ヘイキンからみると、カンジはくろうとむけだろう。

ヒャクニジュウなな、『ウ』ニジュウキュウ

もし、ミライのシナリオをシジョウがきめるのなら、そのシジョウをソウサしてしまえというかんがえもでることがかんがえられる。それができるとなると、もはやシジョウがきめているとはいえないであろう。そういうのをソウサされたシジョウということにする。

だれがソウサされたシジョウをつくるのか。ひとつは、セイジカだろう。そうすると、そのカイニュウがおおいほど、シジョウを（ミンイを）ソウサするわけだから、チョウキセイケンができやすいだろう（だから、「ちいさなセイフ」がはやらない。）。ドクサイになるかもしれない。

このようにコウセイなセイドのようでも、きびしいウンヨウになるカノウセイがあることをショウチしていなければならない。コジンがシナリオのセンタクケンをもてるシャカイがよいシャカイかもしれない。

ヒャクニジュウハチ、『ウ』サンジュウニ

あるセイヒンがあるとする。それがベンリなら、シジョウにのこる（つかわれつづける）だろう。こどもをうむうまないのかんがえかたはあるが、やはり、ベンリなら、シジョウにのこるだろう。そうかんがえると、センシンコクのニンゲンは、やくにたっていないことになる。どうなのだろう。

ヒャクニジュウキュウ、『ウ』よんジュウロク

ちいさいおもいものをもってから、おなじおもさのおおきなものをもつ。すると、おおきなホウが、おなじおもさであるにもかかわらず、かるくかんじる。これは、タブン、シンリガクでいうサッカクであろう。ニンゲンはタイセキにあわせて、おもさをスイソクするチセイがそなわっているのだろう。

ヒャクサンジュウ、『ウ』ゴジュウよん

センゴ、トウキョウはたてなおされ、セカイユウスウのダイトシとなった。むかしからあるトシは、せいぜいチカテツをつくり、くるまとヘイヨウしてはしらせるのがフツウだが（むかしはバシャがはしっていたであろう。）。トウキョウは、センソウのケッカやけたため、ダイタンなトシケイカクがカノウとなった。それで、シテツ、キュウコクテツカクシャが、トウキョウのチュウシンからホウシャジョウにロセンをはしらせた。ケッカ、コウガイにジュウタクがたち、テツドウでツウキンするようになった。
くるまでもツウキンカノウだが、それでツウキンするひとはすくないようだ。しかしながら、センゼンは、くるまは、かねもちののりものだったが、センゴフッコウをへて、ニホンジンはくるまをもつようになった。それであるならば、トウキョウにくるまツウキンすることは、ケイザイテキにゴウリテキなセンタクといえよう。しかしながら、コウガイからのカンセンドウロはせまいし、トウキョウでチュウシャジョウをみつけるのはむずかしい。つまり、トウキョウは、くるまでツウキンをするセッケイにはなっていないのである。
もっというと、セッケイシャは、くるまをニホンジンがもつとはおもっていなかったのであろう。しかしながら、もってしまったものはしょうがない。セッケイをてなおしするヒツヨウがあるとおもわれる。くるまでかよったホウがやすいからだ。それなら、チュウシャジョウトウをつくればよいが、あまりのこっているトチはない。ワンガンがあるが、ウォーターフロントだから、ひとがすみたがる。そこのところをどうかんがえるべきだろうか。

ヒャクサンジュウイチ、『ウ』ゴジュウゴ

イデンシはジョウホウのチクセキである。タンジュンにタンパクシツをつくるともいわれる。ひょっとしたら、そのセイブツのレキシがかかれているかもしれない。トツゼンヘンイというのは、そのセイブツのなにかがかわったケッカだろう（ギャクのカノウセイもある。）。
どのレベルのことから、ヘンイがハッセイするだろうか。わたしがおもうには、タブン、コウドウがかわったばあいである。そうすると、つかうキンニクがかわってくるからだ。そのためにつくるタンパクシツもかわってくるだろう。だから、あたらしいスポーツが

できたり、あたらしいセイヒンができたりして、つかいはじめると、イデンシがヘンカするだろう。
イゼン、わたしは、「あたらしい」ノウができるとかいたが（●『よ』ヒャクななジュウ）、イデンシレベルでヘンカがおこるようにおもう。ふるいブジュツがのこっているとすれば、ふるいイデンシものこっているだろう。だれかがうけついだ、やすんでいるそれをみれば、ふるいブジュツがフクゲンできるかもしれない。

ヒャクサンジュウニ、『ウ』ゴジュウなな

「コウレイカ」といわれてひさしい。このあと、ジンコウがイチバンおおいセダイがコウレイカし、ホンカクテキなコウレイカシャカイがはじまる。
ゲンザイのニホンジンのコジンキンユウシサンはおおいが、セイフのフサイがおおいため、それでセイサンされれば、ニホンジンはキンユウシサンなしとなる。コンネンドのセイフヨサンがヒャクチョウエンほど。これはゼイシュウのほかにゴジュッチョウエンほどのアカジコクサイがハッコウされる。このままザイセイカイカクをしないとなると、イチバンジンコウのおおいセダイのすがたがみえなくなるころ、ニセンサンジュウハチネンには、やはりセンチョウエンのコクサイザンダカがのこる。
これはニホンジンにはらえるかわからないガクだ（コクミンが、ただばたらきをすれば、はらえる。ニヒャクマンエンブンをロクセンマンニンがジュウネンはたらけばセンニヒャクチョウエンになる。）。
またそのゴもコウレイカはつづく。だから、さきにのべた、ただばたらきをしたくなければ、ザイセイなり、コジンのサイフのひきしめなどがヒツヨウであろう。ニセンサンジュウキュウネンでセンチョウエンだから、ニセンニジュウキュウネンでゴヒャクチョウエン。
もうすでに、ゴヒャクチョウエンキボの、ようするに、ニヒャクマンエンブンをサンゼンマンニンがはたらくただばたらきがはじまっていてもおかしくない。しかし、ほかにもホウホウがあるとことわっておく。

ヒャクサンジュウサン、『ウ』ゴジュウキュウ

さきに、ニホンジンが、ただばたらきをするようになる（●ヒャクサンジュウニ、『ウンドウはすべてエレクトリック。［イカ、ウ］』ゴジュウなな）とかいた。これは、コウレイカのシンテンなどで、セイフフサイがふえるためである。それはなにかであなうめしなければならない。タンジュンにフサイをださなければいいだけだが、いまのところ、カイゼンするケハイはない。だが、だれかががんばれば（おかねをだせば）、そうならないカノウセイもある。
しかし、むかしはロウエキがあったわけだから、けっしてめずらしいケースではない。ゲンジョウ、ただばたらきのロウドウシャがいるところを、だれかがかねをだしているか

ら、そうなっていないというところだろう。
おおきなおかねがあると、キンリだけでケッコウなかずのロウドウシャをやしなえる。たとえばゴヒャクチョウエンあれば、ネンカンジュウゴチョウエンくらいでる。それなら、サンゼンマンニンのただばたらきのひとにゴジュウマンエンをはらうことができる。こづかいがでるわけである。しかし、そういうおかねがなくなると、ただばたらきのニンズウがふえ、こづかいもでにくくなる。セイフフサイがでつづけるとなると、そうなるみこみがおおきい。
タンジュンにケイサンすると、セイフフサイがネンカンゴジュッチョウエンでるわけだから、イチネンカンにネンシュウゴヒャクマンエンのロウドウシャイッセンマンニンが、ただばたらきしなければならないとなる。それがつづいて、だれもかねをださないとなると、キギョウのいきおいにあわせて（キギョウはブジである。しかし、キョウソウにさらされる。）、フツウのシャインのかずもゾウゲンするだろう。
キギョウは、コクサイキョウソウもそうだが、コクナイでタクサンのただばたらきがふえるわけだから、かなりのキョウソウにさらされる。ということは、シャインのチンギンがさがるか、やとうひとをへらすとなるだろう。そうなると、セイヒンをつくってもそんなにはうれない。かうひとにそんなにおかねがないからだ。
ゲンザイでもそういわれたりする。ということは、セイヒンのカカクがさがって、はたらくひとのキュウリョウもさがる。いわゆるケイキがわるいだ。それをどうやってのりこえていくかがカダイだろう。タンジュンにかなりチンギンをさげれば、ながつづきするだろうが、それをするためのキセイはきめにくいだろう。

ヒャクサンジュウよん、『ウ』ロクジュウ

そこらをあるいていると、くるまがよくめにつく。あるカンテンからいうと、それだけかねもちがおおい。そんなにかもちがいるのか。となる。
ニホンのユシュツニュウのトウケイからいうと、せいぜいニジュッチョウエンのくろじ（それでもすごい。）だから、そのギョウカイにつとめるジュウギョウインはかえてもおかしくない（くるまはシゼンブツではないのだ。テッコウセキをユニュウするヒツヨウがある。つまり、ゲンリョウはユニュウだ。）。ニジュッチョウエンをキュウリョウとしてハイブンすると、ネンシュウサンビャクサンジュウサンマンエンのガイカをもつジュウギョウインがロッピャクマンニンいることになる。くるまのネダンがサンビャクマンエンとしても、そのひとたちは、くるまをかえるだろう（ジュウネンローンでもいい。）。だとすると、ロウドウジンコウのジュウブンのイチテイドがクルマをかえることになる。つまり、ジュウニンにひとり、ジンコウでいうと、ニジュウニンにひとりとなる。
だから、そのケイサンでかんがえると、くるまはそんなにはしっていないはずなのだ。かねもちがおおいというジッカンもそこそこまとをえているだろう。しかし、くるまはタクサンはしっている。それはなぜなのか。
さきにのべたように、ニホンのガイカシュウニュウはせいぜいニジュッチョウエンである。そのガイカシュウニュウのハンブンはあぶら、ガスをかうだろう。のこりハンブンの

ハンブンはセイゾウにヒツヨウなゲンリョウをかうとして、そのこりのハンブンのハンブンでくるまをかうとする。ゴチョウエンだから、ヒャクゴジュウマンダイかえる。かいかえがあったとしても、センゴロクジュウネン（ややフッコウしてから。センキュウヒャクロクジュウネンから、それがつづいたとすると、ななジュウネンでハッセンロッピャクマンダイかったことになる。
それなら、なぜかはセツメイできる。ところが、このケイサンだと、くるまイガイのユニュウヒンテキなものは、かえていないことになる。ガイカシュウニュウのよんブンのイチをくるまのコウニュウにあてたということだからだ。
つまり、センゴフッコウしてユシュツできるようニホンジンはがんばったが、コクナイにあるものイガイは、くるましかてにはいらなかったことになる（「くるまが」といったホウがいいかもしれない。）。わたしがバブルをケイケンしたセダイなのでそういうが、ななジュウよネンカンのドリョクのケッカが、ニホンジンがくるまをもったということになる。ベツにくるまでなくともよかっただろうが、そとをあるいてみると、どうもそのようだ。
それがいわゆるななジュウよネンカンのニホンのケイザイセイチョウである。キュウジュウネンダイから、ユニュウヒンがふえはじめたが、それらをかうとなると、くるまをかうにはたりなくなってくる。それをどうかんがえるか。ひとつは、くるまをダイジにながくつかえばいいのである。しかし、ゼイセイ、キセイがチョウバツテキだから、カンタンではない。しかし、シュウリしてつかえばいいだろう。そうすれば、ほかのなにかもかえるかもしれないのである。

ヒャクサンジュウゴ、『ウ』ロクジュウイチ

ニホンジンのジッシツテキなシュウニュウというと、ネンカンニジュッチョウエンほどのガイカシュウニュウにすぎない（●ヒャクサンジュウよん、『ウ』ロクジュウ）。そのほかはニホンジンドウシで、ぐるぐるまわしているにすぎない。そのまわしたリョウはコクナイソウセイサンではかられる。シュウニュウがニジュッチョウエンだから、ひとりあたりニジュウマンエンテイドだ。このハンイで、ユニュウヒンをかわないとあかじになる。あぶらとガスはユニュウである。デンキもダイタイあぶらやガスからつくられるので、ユニュウだ。
あなたのいえのコウネツヒはいくらか。ネンカンジュウマンエンでおさまっていたらまぁいいだろう。あとジュウマンエンのこることになる。わたしはキョネンユニュウヒンをゴマンエンぐらいかった。そうすると、ゴマンエンのこるが、タブンショクヒにきえただろう。ギュウニクとこむぎである。そうすると、そうすると、あたたかいおもいと、いいからだつきと、かったテチョウとマンネンヒツがのこる。
そうかんがえると、そんなにゼイタクはできないとわかってくる。ショクリョウも、さかなや、とりにくをたべればガイカをつかわない。ラーメンでなくて、そばなどにしてもいい。それがカンペキにできれば、ゴマンエンチョキンできる。そうやって、ガイカをチョキンすれば、なにかのときにやくにたつだろう。もし、これがあかじだと、ニホ

ンジンはまずしくなるということだ。

ヒャクサンジュウロク、『ウ』ロクジュウサン

ひとりあたり、ネンカンニジュウマンエンが、ニホンのケイザイセイセイチョウといった（●ヒャクサンジュウゴ、『ウ』ロクジュウイチ）。このニジュウマンエンは、いまのところつかっていないなにかをてにいれるのにつかえる。ネンカンニジュウマンエンだから、よんジュウネンそれをためてもハッピャクマンエンである。
いま、いえをもっていなかったとしたら、いえをたてたいかもしれない。しかし、このばあいたててはだめである。ハッピャクマンエンではたたないだろうからだ。ともばたらきでセンロッピャクマンエンとすれば、ズイブンなコウガイにたてられるかもしれない。しかし、ゼイタクするのなら、そのセンロッピャクマンエンがねべりするからやめたホウがいい。
いますんでいるチンタイアパートがつきジュウマンエンなら、ネンカンヒャクニジュウマエン。ジュウネンでセンニヒャクマンエンだ。ずっとすむつもりだったら、よんジュウネンで、よんセンハッピャククマンエンになる。それなら、はたらきだしてすぐにいえをかえばいいだろうが、そういうひとはすくない。よんジュウダイになって、ニジュウネンブンのヤチンのニセンよんヒャクマンエンとチョキンでかうかというハンダンになろう。
ゼイタクをしていなければ、さきのケイザイセイチョウブン、よんヒャクマンエンためているんだろう。それでニセンハッピャクマンエンである。コウガイにかえる。こんなところが、ニホンジンにできることでないか。タブン、ケンジツでないとむずかしいだろう。

ヒャクサンジュウなな、『ウ』ななジュウなな

むかしとくらべて、すしやがふえた。ふえたのは、カイテンずしやであろう。やすいものだと、ものはよくないが、そこそこたべられる。おもいだすと、わたしがこどものころにたべていたのは、せいぜいテッカマキだったとおぼえている。
おやじはチュウリュウのサラリーマンだったが、きゅうりをまいたのりまきや、カンピョウをまいたのをよくたべていた。それをかんがえれば、さかなののったすしがたべられるというのは、ゆたかになったということだ。そのジキはバブルまえで、まだ、ニホンがケイザイセイチョウしていた。
わたしは、そんなにすしはたべていないが、そういうすしをわすれて、いいものをたべるようになってから、ニホンのケイザイセイチョウがなくなったとおもう。また、がんばりたかったら、そういうショシンをわすれないことである。

ヒャクサンジュウハチ、『ウ』ななジュウキュウ

キンダイのセンソウでは、ヘイはたまをうつ。むかしはゆみやだったろうが、いまはテッポウだ。そういうわけだから、たたかおうとおもったら、たまをタクサンヨウイしなければならない。たたかいはじめると、ドンドンたまをショウヒする。これは、いまのショウヒセイカツにもいえるだろう。
コーヒーをのめば、あきカンがごみとしてでる。ジブンのカップをもちあるいて、そこにいれてもらえば、ごみはでないが、いまのところそういうサービスセッケイになっていない。ベントウもたべれば、ヨウキのごみがでる。それをリサイクルするかもしれないが、ドンドンすてる。これもセンソウであろう。
センソウがおわって、ななジュウネンイジョウたつが、そういうなごりがのこっている。わたしがおもうには、ショクヒンなどのヨウキに、リサイクルのむずかしさ、コウジョウからのキョリでスウジをつけて、なるべくスウジのちいさなものをセンタクできるようにすればとおもう。

ヒャクサンジュウキュウ、『ウ』ハチジュウサン

なにかリョウリをたべると、ひとは、「おいしい」とおもうことがあるだろう。なぜ、「おいしい」とかんじるのか。それは、それをたべるまえに、エネルギーをつかって、なにかをするからだろう。ひとことでいえば、そのひとにマイナスがでたからだ。
いきるということは、マイナスとプラスのレンゾクである。ずっとマイナスだとしんでしまうし、プラスばかりでもからだがうけつけない。マイナスがでてから、なにかリョウリをたべると、エネルギーがホテンされる。そのブン、「おいしい」、「よかった」とおもうのだろう。
めしがまずいというのなら、エネルギーがそんなにマイナスになっていないのかもしれない。そういうときは、そんなにたべなくてもいいかもしれない。

ヒャクよんジュウ、『ウ』ハチジュウゴ

キョネンのふゆはかぜがつよかった。いつもふいていたようにおもう。なぜ、かぜがふくのか。それは、クウキにオンドサがあるためだろう。
あたたかいクウキと、つめたいクウキがぶつかって、やがてヘイキンカする。そのプロセスだろう。それがなぜおこるかといえば、カイスイのオンドがたかいところと、ひくいところがあるから、そのエイキョウで、クウキにもオンドサができるのだろう。だから、フウリョクハツデンをするひとにはメイワクだろうが、カイスイのオンドをなんらかのホウホウでイッテイにしてしまえば、かぜはあまりふかなくなるだろう。
そういうわけだから、タイフウのヒガイをへらすことはカノウだろう。カイスイのオンドをあげてチョウセイすれば、タイフウができたとしても、チョクゲキしないようにで

きる。ただ、それによってフウリョクハツデンがフアンテイになるから、かならずしもいいとはいえない。ヒヨウもかかるであろう。

ヒャクよんジュウイチ、『ウ』ハチジュウなな

まえに、オンガクやエイガなどが、ひとりイチジカンあたりイチエンでたのしめるとかいた（●ロクジュウニ、『オ』ヒャクサンジュウハチ）。そのかんがえかたをすすめると、コンピューターのプログラムもやはり、ひとりイチジカンあたりイチエンとなるだろう。ジッサイにそのくらいでテイキョウしていたりする。
そうだとすると、アイティブームで、コンピューターカンレンのジュウギョウシャがふえたが、やがてはへっていくだろうともいえそうである。ひとりイチジカンあたりイチエンだから、ヒャクニンのコテイユーザーがいないと、ネンカンヒャクマンエンもかせげない。だから、あなたがプログラマーになろうとしたら、ヒャクニンのコテイユーザーをカクトクできるかがめやすとなる。ヒャクニンのユーザーつかまえられないなら、くえないからやめたホウがいいとなる。チュウリュウっぽくセイカツしたければ、ゴヒャクニンのユーザーがヒツヨウだろう。
これをいいかえれば、あなたがプログラマーになれるかはヒャクブンのイチとなる。チュウリュウのセイカツをしたければ、ゴヒャクブンのイチだ。ヘンサチでカンサンすると、プログラムのヘンサチがななジュウテイドないと、くえないとなる。チュウリュウなみにだと、ハチジュウとかがヒツヨウだろう。
だから、プログラムでたべていくのは、コンゴはむずかしくなるとおもう。ちなみに、オンガクやエイガでケイサンすると、ヒャクマンブンのイチ、ゴヒャクマンブンのイチである。オンガクやエイガよりはいいだろう。

ヒャクよんジュウニ、『ウ』ハチジュウキュウ

ドウブツなどは、タクサンのサイボウでコウセイされているという。ガッコウのジュギョウで、ケンビキョウをのぞいたことがあるとおもうが、まぁ、みえないおおきさではない。もっともおおきいサイボウは、なんかのたまごだろうか。しかし、それイジョウのおおきさのサイボウはなかなかないとおもわれる。
それはなぜだろう。ひとつかんがえられるのが、サイボウのおおきさに、ゲンカイがあるということである。もっというと、それイジョウのシゲンがあつまると、ブンレツしてしまう。
これは、シャカイについてもいえるのではないか。ベイチュウでボウエキコウショウをやったり、エイコクがイーユーからリダツしそうだったりするが、あるおおきさにタツすると、わかれてしまう。それは、シゼンなのではないかということだ。だから、リセイテキに、ひとつとかんがえても、ジツはタクサンなのではないかといえるようなきがする。

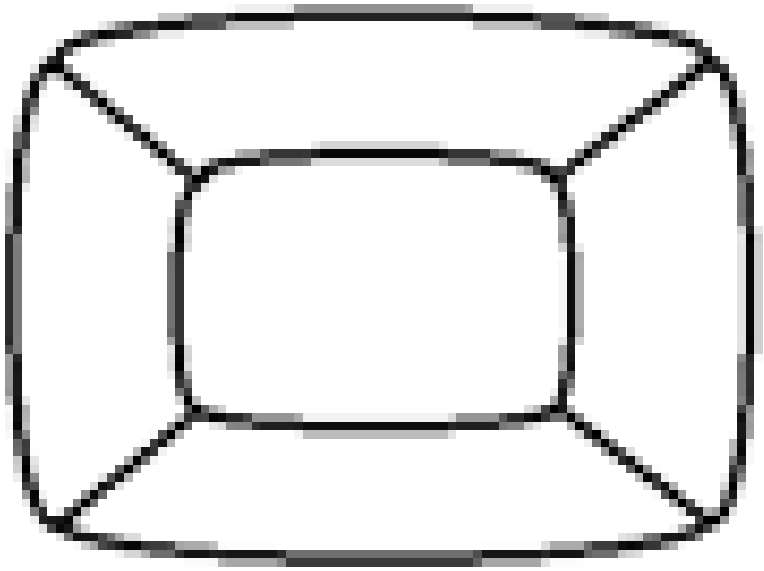
ヒャクよんジュウサン、『ウ』キュウジュウゴ

むかしのジュウタクは、にわにきをうえたりしている。わたしのいえもそうだ。それをデントウがたジュウタクとよぶことにする。
しかし、いまのジュウタクは、よくて、にわにしばをうえるテイドではないか。にわにしばをうえるジュウタクはガッシュウコクガタだとおもう。ガッシュウコクでそういうジュウタクをみた。しかし、それはサイキンのジュウタクのなかではいいホウで、そもそも、にわがないというセッケイもある。
ハチジュウネンダイ、キュウジュウネンダイに、ガッシュウコクがたのいえがはやったのか、そういういえをつくるようになったのだろう。だが、にわがホソウされているよりはいいが、ちょっとさびしい。そして、にわがないいえである。これはどういうことか。ダンダン、シゼンではなくて、キョジュウキノウがジュウシされるようになったのだろう。ジュウタクのトシカといってもいい。そうなると、シゼンとキョウゾンするかんがえはうすれ、シゼンはガイブカされるだろう。でもそれはニンゲンらしいのか。ただのコンテナにすむでは、あじけないようにおもうのである。

ヒャクヨンジュウよん、『ウ』キュウジュウハチ

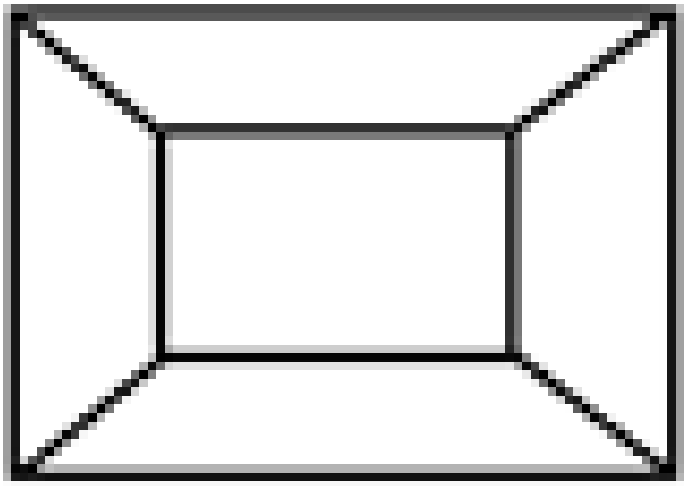
いまのひとは、エンキンホウでなにかをかくのがただしいとおもっていないか。センジツ、ヘヤのはしらをみていると、まがってみえた。ホントウにまがっているかというと、まがっていないだろう。しかし、みるはしらのイチによっては、キョリがあるから、ひっこんでみえてもフシギではない。だから、ズニのようなえになる。

ズ ニ



これもイッシュのエンキンホウだろうが、あまりこういうえはみない。
なぜか。タブン、オブジェクト（タイショウブツ）のセイシツをえがこうとするからだろう。つまり、「はしら」はまがっていないと。だから、ズサンのようになる。

ズ サン



ｂ０１１-03.png

ズ ニは、サブジェクト（シュカン）をジュウシしたえである。ダイタイが、ズサンのえのようなるのは、オブジェクトをジュウシしようというブンカがあるからだろう。いいかたをかえれば、カガクテキなシセイである。
サブジェクトにこりだすと、ひとのかずほどあるだろうから、オブジェクトでいきましょうというゴウイである。そういうゴウイがあるだろうから、ズニのようにみえたとしても、ズサンのようにホセイする。つまり、みえるものは、カガクのチケンやキョウイクなどによってホセイされてみることがおおいのではということだ。
そのホセイする、カガクやキョウイクをうけなかったひとは、ズニのようにかくかもしれない。しかし、ダイタイキュウネンカンは、ガッコウキョウイクをうけるから、ズサンのようになるだろう。そういうホセイもダイジであろう。それではなしがつうじるからである。

ヒャクよんジュウゴ、『ウ』キュウジュウキュウ

カガクはきることでなりたつとかいた（●ニジュウイチ、『オ』よんジュウロク）。エイ

ゴのエスシーアイは、きることなのである（サイエンスのつづり）。そうやってこまかくしていろいろハッケンするわけである。
しかし、きることばかりで、よのなかがなりたっているわけでない。シュジュツでからだのどこかをきれば、いとでぬってつなげようとする。きることばかりなら、バラバラシャカイができるだろう。それはどうなのかである。
だから、あるひとは、つなげようとする。なにがいいたいのかといえば、カガクがハッテンするシャカイというのは、そのブン、つなげることもうまいシャカイなのではないかということだ。セイヨウのばあいだと、カガクがなにかをバラバラにしても、キリストキョウのちからテイドにカガクはハッテンできたのではないかということだ。ニホンでは、ザンネンながら、そういったダイキボのシュウキョウはないかもしれない。そのブンカガクのハッテンはよわいだろうということだ。
しかし、まわりにめぐまれたひとが、ハッテンさせるだろう。コジンのリキリョウということになるかもしれない。そういうカガクシャのへいがあるのではないか。

ヒャクよんジュウロク、『ウ』ヒャクゴ

みずには、コタイ、エキタイ、キタイのすがたがある。オンドがひくければ、コタイだし、オンドがたかければ、キタイになる。また、ひとは、キオンがニジュウドとかいって、さむいだのあついだのいう。さむかったら、シツナイでは、あたたかいクウキをおくってもらったり、あつかったら、つめたいクウキをおくってもったりする。
イッポウで、シツドというのもある。クウキにスイブンがおおくふくまれれば、シツドがたかいし、すくなければ、シツドがひくいという。クウキのオンドをかえるエアコンがチュウモクされて、シツドのことはあまりチュウモクされない。シツドもキオンのひくい、たかいにエイキョウをあたえるだろう。シツドかひくければ、みずはコタイやエキタイのジョウタイであろうから、キオンはひくめになる（みずはレイドでコタイに、ヒャクドをしたまわるとエキタイになるといわれている。）。
ギャクにシツドがたかければ、キタイのジョウタイをとりやすいであろうから、キオンはたかくなる。そういうわけだから、ふゆにシツドをあげればあったかいし（ストーブのうえに、みずのはいったやかんをおくだろう。）、なつにシツドをさげれば、すずしいということになる。エアコンとシツドチョウセイのどちらがやすいかというモンダイである。

ヒャクよんジュウなな、『ウ』ヒャクジュウイチ

イゼンにヘヤにショクブツをおいたことがある。みずとひかりとニサンカタンソがあれば、そだつとおもっていたが、そだたなかった。
イッポウで、おふくろがベツのところにおいたはなはそだっている。そだてるニンゲンのソヨウかとおもっったが、ひとつおもいあたることがある。それは、ひかりのシュルイである。わたしのヘヤはケイコウトウ。おふくろがおいたところはハクネツデンキュ

ウである。
そのふたつのどこがちがうか、タブン、ヒキンゾクのザイリョウをひからすか、キンオクケイのザイリョウをひからすかであろう。つまり、ヒキンゾクのひかりでは、ショクブツがそだたなくて、キンゾクケイのひかりなら、ショクブツがそだつということであろう。ようするに、ハクネツデンキュウのホウが、タイヨウのひかりにちかいわけである。いまのジュウタクのオクナイはケイコウトウや、シンガタデンキュウがほとんどであろう。シンガタデンキュウでは、ためしたことがないが、そういうリユウで、ニンゲンが、ショクブツからはなれているさまがわかる。たしかに、ケイコウトウなら、ショルイがやけないなどのリテンがあるんだろう。しかし、ものはモクテキにあわせてえらぶべきである。ハクネテデンキュウはやはりいいということだろう。

ヒャクよんジュウハチ、『ウ』ヒャクジュウサン

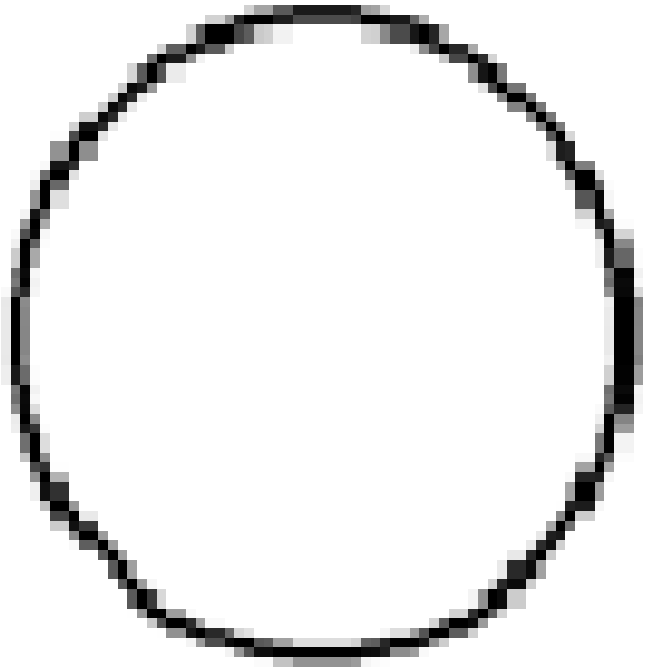
ショウバイしているひとのショウスウがあかじのばあい、「コウケイキ」という（ゼンブがクロジというケースはすくないだろう。）。ダイタスウがあかじになると、「フケイキ」という。
そのことからいうと、コウケイキでも、あかじをだしているひとにとっては、フケイキはあまりカンケイないだろう。ダイタスウがあかじだと、セイフに「なんとかしろ。」といいはじめる。それがただしいのか。セイフがおかねをだしたとしても、それは、セイフがあかじをだすだけで、あかじをフタンするシュタイがかわるだけだ。ただ、それで、あかじがへるひともいよう。
そういうイミでは、フケイキジタイはかわらない。そもそも、フツウのショウバイジタイが、コキャクにあかじをおわすというのは、ジユウシュギケイザイでは、まぁ、シゼンジョウタイだろう（●『ウ』イチ）。コウケイキとフケイキはなにがちがうか。
コウケイキのハンイでは、あかじでもおかねをだすことだろう。つまり、コウバイイヨクともいうが、ひとのシンリのモンダイであろう。エイゴでは、フキョウのことを、デプレッションという。それには、「うつっぽい」というイミもある。それがいうように、あまりコウバイするイヨクがないからそうなるわけだ。わたしは、しずかなのがきらいでないから、それもありだとおもうが、イッパンはいやがるのだろう。

ヒャクよんジュウキュウ、『ウ』ヒャクジュウよん

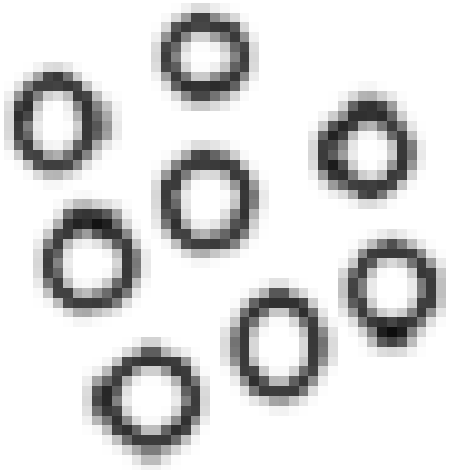
ニンゲンのイシキがサイボウにあるのではというはなしをした（●『ス』よんジュウサン、キュウジュウキュウ、『ス』ハチジュウロク、ヒャクイチ、『ス』キュウジュウイチ、ヒャクニ、『ス』キュウジュウサン、ヒャクサン、『ス』キュウジュウよん、ヒャクなな、『ス』ヒャクジュウよん）。
タンサイボウドウブツでも、イシキがありそうだ（キケンをさけたりするだろう。）。それなら、イシキはサイボウにあってもおかしくない。そういうはなしだ。しかし、なぜ

イシキができたのか。
イシキも、カガクブッシツのハンノウ、つまり、ウンドウであろう。イシキとは、もののウンドウということであれば、ウチュウにも、イシキがあってもおかしくない。いろいろなブッシツがあるだろう。すくなくともモデルになったのではないか。もし、ウチュウにイシキがあるとすれば、ドウショクブツがそれぞれイシキをもつというのはうたがわしくなる。どういうことか。それは、チキュウゼンタイをイシキがおおっていて、ドウショクブツも、それにあえわせているカノウセイがあるからだ（ズよん）

ズよん



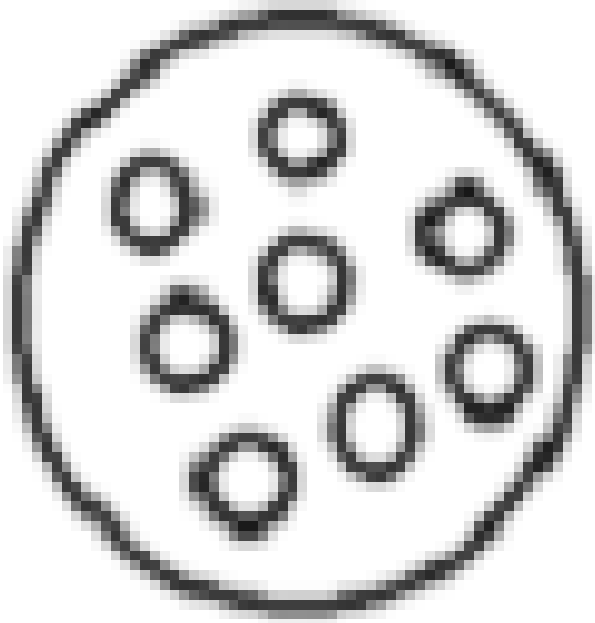
しかし、いまのジョウシキテキなはなしでは、イシキはドウショクブツそれぞれがもっているとされるだろう（ズゴ）。



ｂ０１１-05.png

まとまりもイシキをもつし、コもイシキをもつというかんがえかたもできるだろう（ズロク）。

ズ ロク



ｂ０１１-06.png

パソコンネットワークとハードディスクのカンケイのようである。アップロードもできるし、ダウンロードもできる。ローカルでショリすることもできるというわけである。

ヒャクゴジュウ、『ウ』ヒャクジュウなな

よのなかには、「リベラル」とよばれるひともいれば、「ホシュ」とよばれるひともいる。ニホンでは、いまひとりのギインが、ながくセイムのトップについている。つまり、アンテイしているわけだ。そのまえはコロコロそのザにつくひとがかわっていた。そのアンテイはのぞましいようにもおもえる。しかし、もっとアンテイさせることもできるだ

ろう。
それは、アンテイしたものをたべることである。どういうことかというと、ジブンのところでとれたさくもつをたべ、それをハイセツして、はたけにかえし、また、ショクブツがそだち、たべるというジュンカンをくりかえすのである。それは、おなじものをジュンカンさせるわけだから、あたらしいなにかはない。むかしはそういうジュンカンが、トシをのぞいたほとんどでジツゲンしていたのではないか。そういうために、わりとニホンシはおだやかだったのではないか。
しかし、それではだめだというかんがえかたもある。それは、ヨーロッパが、ガイコクにショクミンチをもとめたためでもある。そういうのがあってか、ヨーロッパはセンシンテキなチイキになった。それにタイオウするためには、あたらしいなにかをとりいれるヒツヨウがあっただろう。ケッカとして、ニホンはハイセンしたから、それでもたりなかったのかもしれない。
つまり、ヘンドウがおおいときには、アンテイはまずいかもしれないということだ。だから、またあたらしいものをとりいれるようかもしれない。ただ、いまは、コウレイカがイチバンのカダイであろう。それをのりきるドリョクがダイジなようにおもう。

ヒャクゴジュウイチ、『ウ』ヒャクニジュウよん

ニジュッセイキはセンソウがあった。それはおおくのシシャとハカイをもたらしたという（ザンネンながら、わたしはカンサツしていない。）。もうそれから、ハチジュウネンたつが、まだ、ひょっとしたらたたかっているのかもしれない。ただ、ジュウをむけるセンソウはそうおおくはない。あいてにキョウラクをあたえるセンソウである。そして、それはジンルイをタイハイにむかわせているかもしれない。
コンピューターもそうだし、シィディプレイヤーもそう。エアコンもそうだし、ゲームキもそうだ。ダイタイ、これらはセンゴにできたものだろう。これらは、キホンテキになくてもすむものだ。そういいつつ、わたしもサイヨウしている。まずは、「はずかしながら、タイリョウにネンリョウとみずをつかうフロをショユウしています。」とか、「これはわたしのダラクなんですが、オーディオセイヒンをつかっています。」というところからはじめなければいけないのかもしれない。しかし、そのまえに、まえのセンソウのショリもダイジであろう。

ヒャクゴジュウニ、『ウ』ヒャクサンジュウサン

イシキはサイボウにあるのではとかいた（●『ス』よんジュウサン、キュウジュウキュウ、『ス』ハチジュウロク、ヒャクイチ、『ス』キュウジュウイチ、ヒャクニ、『ス』キュウジュウサン、ヒャクサン、『ス』キュウジュウよん、ヒャクよんジュウハチ、『ス』ヒャ

クジュウよん、『ウ』ヒャクジュウよん)。それだと、ノウはウンドウをするためのキカンとなる。しかし、ダイタイのニンゲンのイシキは、ことばをつかうであろう。だから、そのメンでは、ノウのハンチュウといえそうだ。
ことばをシュウトクするには、ウンドウがヒッスである。「あ」ということばをおぼえるにも、そのハツオンをきいて、ジブンでいってみて、おぼえるようだ。だから、ナラティブ(オンセイ)のばあいは、ノウがはたらいているといってよいだろう。つまりウンドウだ。モジのばあいは、いきなりよめるようにならないし、ほとんどのばあいが、オンセイをきいておぼえるようではないか。だとしたら、ウンドウというわけだ。ただ、ことばにならないおもいなど、サイボウがもっていることはあるとおもう。

ヒャクゴジュウサン、『ウ』ヒャクサンジュウゴ

かわせやブッカがアンテイしているホウがくらしやすい。それをタッセイするために、ツウカのシンライドがジュウヨウとなる。むかしは、ドルとキンのコウカンがホショウされていた。ドルをもっていくと、キンなんグラムとコウカンしてもらえたわけである。だから、そういうタイセイカでは、ケイザイはアンテイするだろう。しかし、ベツのモンダイもある。
それは、シホンシュギのシステムのモンダイだ。それはなにかというと、まえにセツメイしたとおり(●『オ』ヒャクサンジュウ、『ス』ヒャクニジュウニ、ヒャクニジュウイチ、『ス』ヒャクロクジュウハチ)、リエキやチョキンをだすと、シジョウからおかねがすくなくなることだ。それで、ブッカがやすくなると、「デフレ」という。そうすると、キギョウのギョウセキがアッカするから、チンギンもさがるし、シツギョウがでる。そういうモンダイだ。
むかしは、ガッシュウコクとシャカイシュギのソレンで、ちからくらべをしていたから、ガッシュウコクはまけるわけにはいかなかったんだろう。ドルとキンのコウカンをやめてしまった。それによって、ツウカをタクサンインサツして、リエキやチョキンでツウカがきえたブンをキョウキュウしただろう。それによって、「デフレ」はカイショウされただろう。それで、キュウジュウネンダイにソレンがシュウリョウした。シホンシュギがかったようだが、おかねのすりすぎというモンダイがのこった。リエキやチョキンがイッセイにシジョウにでたら、イッキにインフレになるだろう。そういうイサンがのこった。
これをカイショウしてというはなしはあまりきかない。なにかものがたかくなったとしたら、リエキやチョキンをそのしなものにかえているということだろう。ニホンでもタニンごとではない。キュウにキョウコウがおこるカノウセイはあろう。ソレンというセイタイはシュウリョウしたが、かならずしも、シホンシュギがかったわけではないかとおもう。

ヒャクゴジュウよん、『ウ』ヒャクサンジュウロク

たまに、おいしいものをたべたくなる。とはいっても、わたしにとってのそれは、せいぜいゴヒャクエンテイドのものだ。しかしである。ガイショクをほとんどしないわたしのリョウシンとくらべれば、ゼイタクかもしれない。わたしのリョウシンはセンゼンうまれだから、センソウをしっているし、シッソだ。なにかものをかってくるということもすくない。それにくらべて、わたしは、ものをかってきたりする。センソウをしっているか、しらないかでこうもちがうものか。
ただタンに、わたしがあまりかんがえていないだけかもしれない。バブルが、ハチジュウネンダイコウハンにあって、ブランドものがはやるようになった。わたしは、すこしだけ、それをかった。しかし、それもゼイタクだろう。ハチジュウネンダイコウハンから、そういう「ゼイタク」ムードがニホンにひろまったとおもう。そのまえは、かっぱまきやら、やきそばパンをたべていたにもかかわらずである。
たしかに、ニホンはセンゴフッコウして、まあまあゆたかになったかもしれない。それは、おやじたちや、そのまえのセダイや、コウゾクのセダイがドリョクしたためであろう。イチジはジーディピーでセカイニイとなった。しかし、それからのサンジュウネンは、あまりかんばしくなかった。ジーディピーはほぼよこばい。キュウリョウもほとんどあがっていない。ケイザイリョクは、イーユーやエイレンポウやチュウゴクにぬかれてゴイとなった。
ただ、おもうのは、それでも、たべものがゆたかになったということだ。ショウテンをみても、かっぱまきはあまりみられないし、きゅうりをはさんだだけのサンドイッチもみられないし、やきそばパンもあまりうっていない。センゼンよりゼイタクになったか、ジッサイに、みてくらべたわけでないのでわからないが、カクジツにショウワのジダイよりは、ゼイタクになったであろう。また、タブン、センゼンよりゼイタクであろう。
それをケイザイハッテンだと、ケイザイガクテキなメンでいえば、まぁわるくないが、セイジガクテキなメンでいうと、ちょっとそれとはちがうはなしになる。フツウ、レキシテキにいえば、センソウにまけたくには、まずしくなる。また、そのまけをばねに、ドリョクしたりするであろう。もしドリョクしなければ、つよいくににほろぼされる。そういうのは、レキシをみれば、よくあるはなしである。
ニホンはセンソウにまけたにもかかわらず、そのセンソウにまけるまえよりも、いいたべものをたべている。これをレキシテキなユウシュウなジンブツだったらどうみるか。ひとことでいえば、「ダラク」であろう。それでは、くにはながくないである。ハンロンもあろう。もう、センソウはおわったと。だが、ホントウに、そのショリがおわったのか。わたしはうたがわしいとおもっている。ながくないでは、こまってしまうので、わたしは、やきそばパンをよくたべるようにしたいとおもう。

ヒャクゴジュウゴ、『ウ』ヒャクサンジュウハチ

ダイガクセイのことを「ユウヨキカン」といういいかたもある。しかし、ジッシツテキには、ユウヨされづらいのだとおもう（●『ウ』ヒャクサンジュウなな）。ショウガクキ

ンがかえせないガクセイのはなしもきく。それなら、コウコウにいきながら、アルバイトをして、おかねがたまったら、ダイガクにいけばいい。
ガクリョクがユウセンされるむきもあるが、ニンゲンにとってダイジなのは、ケイザイセイカツである。そのシジョウのこえにも、みみをかたむけるべきだとおもう。ジッサイにおかねをだしてみて、そうおもう。
そんなカンサツからスイソクすると、スウジのうえでは、ニホンジンは、いえをかえたりするが、ジッシツテキには、そうカンタンでないといえるとおもう。カイガイフニンもした、わたしのおやじでも、いえはたてたが、くるまはチュウコシャにのっていた。それをかんがえると、そうカンタンでないとわかる。
タブン、ジッシツテキには、ニホンジンのロウドウシャには、ふたつのセンタクシがあるとおもう。「いえをかいますか。くるまをかいますか。」だ。どっちもというのは、ジッシツテキなイミでむずかしいのだとおもう。わたしなんかは、くるまにのらないで、シュミのオンガクにおかねをつかっていたから、いえもかえないで、ショウヒでおわるかもしれない。

ヒャクゴジュウロク、『ウ』ヒャクよんジュウなな

ショクブツはコウゴウセイするという。グタイテキには、ニサンカタンソとスイソから、みずとサンソをつくるということである。まえに、ひかりはデンキだとかいた（●『ウ』キュウジュウ）。だから、デンキをあびせれば、ショクブツは、コウゴウセイするかもしれない。しかし、ケイコウトウのひかりではだめらしい（わたしのケイケン、●ヒャクよんジュウなな、『ウ』ヒャクジュウイチ）イッポウ、ハクネツデンキュウでは、そだっているようだ。
しかし、ひかりやデンキというよりも、タンジュンにいえば、スイソであろう。スイソがなければ、みずはできない。ニッコウのセイブンのひとつは、スイソといるのではないか。そうでなければ、みずはできない。
ところで、ニサンカタンソにひかりをあてつづけたら、どうなるであろう。チキュウはもえているので、ニサンカタンソは、むかしからあるとおもわれる。そこに、ニッコウがあたっていたのもかわらないであろう。あまり、ニサンカタンソがブンカイされれば、みずとタンソができるか、タンスイカブツと、サンソができるであろう。このふたつのうち、どちらがさきだったのであろうか。
なにか、クフウしてやれば、これらができるわけである。このふたつは、ショクブツケイにヒツヨウなブッシツと、ドウブツケイにヒツヨウなブッシツである。そのショクブツとドウブツがどうやってできたか。または、どこからかはこばれてきたかというのはわからない。ためしにそのブッシツをどこかのワクセイにおいておいたら、どうなるのかをみてみるといいかもしれない。

ヒャクゴジュウなな、『ウ』ヒャクよんジュウキュウ

ケイザイやとりひきについて、ひとつのたちばがあろう。それをひとことでいえば、「もうかるということはない。」である。
どういうことか。ゲンコウのやりかたでも、セイヒンには、あるテイドのホショウがついている。イチネンホショウなどだ。「もうかるということがない」やりかたでは、それをエイキュウホショウにする。つまり、こわれたら、シンピンとコウカンするということだ。そうだと、ケッコウなカカクにしても、もうかるということはないだろう。いつこわれてコウカンになるかわからないから、うりあげをつみたてておくようだ。
これは、ゲンコウのやりかたでも、ホケンというのがある。それをセンモンのカイシャがやるのではなく、それぞれのキギョウがやるということである。カンゼンホショウだから、ユーザーはたすかる。しかし、メーカーはもうからない。メーカーがチョクセツハンバイすれば、やはり、ショウテンももうからないだろう。
このかんがえかたをすすめると、たべものがムリョウになる。どういうことか。たとえば、ダイコンをつくるノウカは、ダイコンのセイサンにセキニンをもつ。イッポンヒャクエンでシュッカするとしよう。それをリヨウシャがヒャクエンでかう。このリヨウシャもダイコンのショウヒにセキニンをもつ。どういうことかというと、それをたべたあとのウンコ（ダイコンのセイブンがはいっているであろう。●『ス』ゴジュウロク）を、ノウカにやはりヒャクエンでうるわけである。そして、しいれたノウカは、そのウンコをつかって、ダイコンをそだてる。そのジュンカンがつづくならムリョウだ。ノウカはヒャクエンでうって、ヒャクエンでしいれている。リヨウシャは、ヒャクエンでかって、ヒャクエンでうっている。
たべものがムリョウなら、ゼイタクしなければ、いきていける。セイヒンもやはりムリョウにできる。どういうことかというと、イチマンエンのラジカセをかうとする。それでメーカーにイチマンエンはいる。ただ、それは、さきにのべたように、エイキュウホショウである。だから、つかいおわって、メーカーにかえせば、イチマンエンうけとれる。つまり、セイヒンがムリョウなわけだ。ただ、ナンテンは、みずはムリョウにできても、ガス、デンキを、いまのところムリョウにできなさそうなテンだ。これらがムリョウになれば、その「もうかるということはない」いきかたもできるであろう。これは、シジョウやセイフをヒテイするものではない。キギョウなどがやればいいとおもっている。あかじのあびせあいとか、カクサはモンダイにならなくなるとおもう。

ヒャクゴジュウハチ、『ウ』ヒャクゴジュウ

カンペキな「もうかるということはない」シャカイ（●ヒャクゴジュウなな、『ウ』ヒャクよんジュウキュウ）もかんがえられるが、それはどあいのモンダイかもしれない。サイキンのニホンジンは、ガッシュウコクジンのかんがえかたをよくとりいれるが、むかしは、ノウサンヒンとウンコのジュンカンが、できていたであろう。つまり、ものがやすかったということだ。またニホンは、わりとシンライシャカイなので、ソショウもすくない。つまり、ホショウのどあいがおおきいということだ。ガッシュウコクはソショ

ウがおおいという。つまり、ホショウのどあいがちいさいということ。そのブン、もうけもおおきいだろう。
ジジツ、ガッシュウコクのキギョウのなかには、おおきいものがある。しかし、「もうかる」というばあいはゲームのヨウソがつよい。かちとまけがあるということだ。ニホンもサイバンセイドを、ガッシュウコクのようにかえはじめたが、そんなにゲームをしなくてもよいとおもう（すきなひとはやればいい。）。コウシンライで、ものがやすいというのもダイジだからだ。
デフレで、サンジュウネンケイザイセイチョウしなかったというが、ものがやすいということは、わるいことではない。そもそも、「ケイザイセイチョウ」というのはないだろう。なぜなら、チキュウのシゲンはユウゲンだからだ。あったとしても、タイヨウコウのリョウだけであろう。もしくは、インフレリツのことをいっているのか、ほかのくにからとってきたシサンのおおきさをさしているのだろう（ガイコクとのシサンのやりとりについては、ボウエキトウケイがある。）。
「ケイザイセイチョウ」がインフレリツとすれば、それは、ちいさいにこしたことにない。それはそれでよろこばしいことだ。コクナイソウセイサンをヒャクチョウエンふやすということは、ニジュッパーセントのインフレをタッセイしようということである（ゲンザイ、ニホンのコクナイソウセイサンはゴヒャクチョウエンテイド）。それより、ショクリョウがムリョウのホウがよくないかとおもってしまう。

ヒャクゴジュウキュウ、『ウ』ヒャクゴジュウゴ

イシキとはなにか。このといにこたえないひともいるらしい。ブンケイテキにいえば、かんがえたりするなにかというのにちかいだろう。わたしは、これは、サイボウがカガクハンノウをしたり、ねつをもったケッカショウずるものとかんがえる。ようするに、エル（ウンドウ）というわけである。だから、ウンドウしていないものは、イシキをもたないであろう。
そこらにあるいしは、キホンテキにはイシキをもたないであろう。しかし、チキュウのジュウリョクにひかれているブンウンドウがある。だから、イシキをもつかもしれない。ひょっとしたら、もっとおおきなレベルでイシキがあるかもしれない。

ヒャクロクジュウ、『ウ』ヒャクゴジュウなな

ヨーロッパのよろいは、てつでできていてガンジョウである。イッポウ、ニホンのよろいは、やをとおしてしまうかもしれない。なぜ、ガンジョウなよろいがヒツヨウだったか。みをまもるためといわれそうだが、リユウがあるとおもう。
それは、よろいをきるようなタイショウが、ブジであれば、ヘイシにきちんとキュウリョウがしはらわれるからだ。ヘイのなかには、いやいやつきあっているひともいるだろうが、なぜ、たたかうかといえば（ボウエイのときは、しょうがないであろうが。）。キュ

ウリョウがもらえるからである。キョウリョウがもらえないのなら、ベツのしごとをしていたホウがいいだろう。しかし、タイショウがしんでしまうと、キュウリョウがみばらいになる。だから、タイショウがよろいをつけていると、ヘイもアンシンなわけだ。
ニホンでもおなじだろうが、ちょっとよろいがよわかったかもしれない。そのケッカ、ケッコウなみばらいがショウじただろう。だから、タイショウには、ガンジョウなよろいをつけてもらったホウがいい。おだのぶながコウが、ヨーロッパのよろいをみたことがあったかわからないが、しっていたなら、すくなくとも、ブカが（はしばひでよしや、もりランマルである。)、そういうよろいをヨウイしておくべきだったであろう。

ヒャクロクジュウイチ、『ウ』ヒャクゴジュウキュウ

イシキというのは、ダンペンでもある。しかし、それをならべれば、レキシになる。ということは、イシキは、ジカンといってもさしつかえないのではないか。つまり、シーオー（イシキ）イコールティ（ジカン）である。ジカンでなかったら、エル（ウンドウ）といえばよい。デンキシンゴウなり、カガクブッシツがうごくわけだから、そういうわけだ。カガクブッシツやデンキシンゴウというわけだから、それをよみとれるキノウがあれば、イシキをあつかうイシキというわくぐみはあるだろうということになる。だから、ニンゲンイガイのどうぶつだけでなく、ショクブツにも、イシキがあるだろうとなる。そのイシキをあつかうイシキのわくぐみとはなんだろう。わたしは、それは、タンパクシツではないかとおもっている。よくたべたホウがイシキカツドウがカッパツになるからである。

ヒャクロクジュウニ、『ウ』ヒャクロクジュウニ

ひょっとしたら、シンジツよりもしあわせのホウが、ダイジかもしれない。これまで、わたしは、チャレンジャーのシセイでいろいろケンキュウしてきた。しかし、ホントウに、シンジツやシンリはダイジなのだろうかとおもった。
わたしが、チキュウがまわるリユウをしらなくても、チキュウはまわりつづけるだろうし、また、ソクラテスもやりすぎて、ガリレオもつかまえられてしまった。いまは、カガクをやって、ころされるということはすくないだろうが、そうおもってしまった。

ヒャクロクジュウサン、『ウ』ヒャクロクジュウなな

ジンセイには、しあわせとフコウがある。これらをおおきくりかえすひとは、ドラマティックなジンセイだろう。やまあれば、たにありというジンセイである。そういうジンセイははなしになる。それもいい。
しかし、ほとんどどちらでもなく、ヘイタンなジンセイもあるだろう。アンガイ、そういうジンセイのがいいかもしれない。タブン、ゼンインがしあわせというのは、なかなか

ないだろう。だから、いましあわせであっても、つぎのシュンカンにフコウになることもある。それならば、そのどちらでもない、フツウをめざしたホウがいいのではないか。なんとなくそうおもう。しあわせなら、よりむずかしいカダイにチョウセンして、フコウなら、おいしいものをたべたりというぐあいにである。

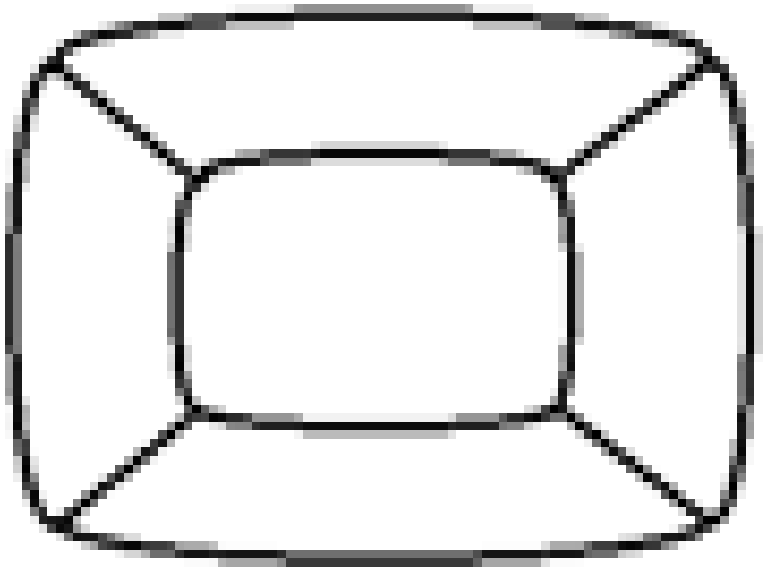
ヒャクロクジュウよん、『ウ』ヒャクロクジュウキュウ

わたしは、スウガクのモンダイをとくのがおそい。チュウガッコウまでは、まぁまぁだったが、それでも、あまりいいテンはとれなかった。コウコウにはいってから、ほぼラクダイテンになった。
なぜ、そうなるのか。わたしは、スウガクのモンダイをとくのにヒツヨウなコウシキをショウメイしてからときはじめる。いきなりコウシキにスウジをあてはめることができないのだ。だから、ジカンがかかる。といているうちにジカンぎれとなり、てをつけなかったモンダイのブン、テンがわるくなる。それでスウガクがきらいになった。スウガクのジュギョウにでるのもクツウで、コウコウをやめた。
シンガッコウのベンキョウは、はやさとセイカクさをもとめられる。そうしないと、いいダイガクにはいれないからだ。しかし、わたしは、そういうリユウで、はやりにつきあうことはできなかった。いまでは、それでよかったとおもっている。あしがはやいひとがいれば、あしがおそいひともいる。ムリに、ジブンにあわないことをしなくてもいいだろうと。そのゴ、わたしはダイガクにいったが、そこでも、スウガクのエンシュウは、イチバンとくのがおそいホウだった。
スウガクでいいテンがとりづらいとわかったら、ジブンにむかないダイガクではなくて、それイガイのシンロをかんがえればよい。ただ、わたしのばあいは、リョウシンがダイガクにいってほしかったようだから、そのタのシンロをしらなかった。もっとヘイキンテキなコウコウにいって、センモンガッコウにでもいけばよかっただろう。そのホウがしあわせだったかもしれない。
ジブンにあう、あわないはあるとおもう。むいているしごとをやればいいだろう。スウガクのモンダイのときかたがそうだから、ギャクにわかることもある。それは、コウシキやガクセツがジツはただしくないのではないかということだ。はやくとくひとは、コウシキやガクセツがただしいというカテイでとく。しかし、コウシキやガクセツがただしくなかったら、ケイサンジタイはただしくとも、こたえはまちがいだ。だから、そういうのをシテキするのもいいとおもっている。

ヒャクロジュウゴ『ウ』ヒャクななジュウ

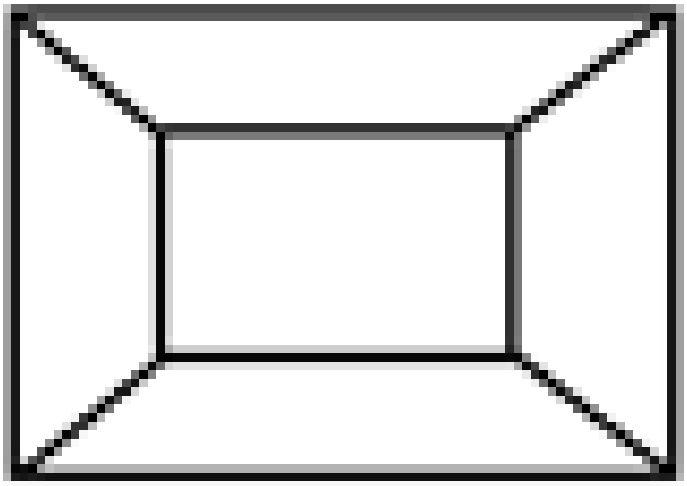
さきにニンゲンのもののみかたのはなしをした（●ヒャクよんジュウよん、『ウ』キュウジュウハチ）。ニンゲンがなにもゼンテイがなく、ものをみれば、ズニのように、ものがみえる（たとえば、へやのイチメンである。）。

又 二



しかし、キンダイイコウ、キョウイクがハッタツし、ガッコウでまなぶ、ズニのようなエンキンホウをもとにしたえをおぼえさせられる。だから、ズニのようなジブンのシカクではなくて、ズサンのようなエンキンホウによるえをイッパンテキとする。

ズ サン



ｂ０１１-03.png

えでもテレビでもズニのようにみるひとはすくないだろう。ジッサイにまがっているかを、はかってみると、そうまがっているわけではない。もののジョウタイのえとしては、ズサンのホウがただしいのである。だから、シュカンより、オブジェクトをユウセンするシコウともいえる。だから、ズニようにみえたとしても、ズサンのようにかくのが、キンダイのキョウイクのたちばだろう。それを、「ケイモウシュギ」といっておく。
しかし、そのキホンをわすれてしまうと、ズニをみたときにフアンになる。わたしのめがおかしいのだろうかと。でも、ニンゲンのめはシカクくできていない。だから、ビミョウなカクドができるのはムリもない。むしろ、ズサンが、わたしのみたえだとおもうホウがヘンではないか。
ようするに、キョウイクによって、ズ ニをあたまのなかでフゴウカして、ズサンのように、ヘンカンして、シュツリョクするというキノウをあたまのなかにインストールする。そのフゴウカしたズサンから、またしかくでみるような、ズニにフクゴウができないというと、キソをわすれているということになる。
たとえば、はしごをつかってブタイのうえにのって、おりようとしたら、はしごがなかったというジョウタイにちかい。それをキョウイクのケッカとありがたがることもできるが、やはり、ズニとズサンはちがうというひとはでてくるだろう。ようするに、テレビ

のえをみるのもタンレンなわけである。ダイタイがズサンのようなえをだす。カメラがとったえだ。カメラはまるいのに、なぜ、えがシカクくなるかは、わたしにはよくわからないが、ようするに、カメラごしにえをみるわけだ。だから、なれないひとにみせるとヘンだというのではないか。
そういうフウに、サイキンのシカクゲイジュツは、ヨーロッパリュウのケイモウシュギをドダイにしている。きづいてしまったわたしにいわせれば、「クラシック」「ヴィジュアル」であろう。ただ、シュカンよりものにリキテンをおいたテンですぐれているとおもう。テレビはさきにいったようだから、われわれは、フゴウカしたエイゾウをみるということだ。ようするにあたまのなかでのショリがおこなわれるということだ。ひょっとしたら、さきのズイチのようにもどさないかもしれない。
しかし、ジブンがかかわるエイゾウだったら、ジッサイにめでもカクニンするから、ズイチのようにニンシキしないと、イワカンがおこるだろう。めより、カメラレンズのホウがたてながだから、ニクガンより、テレビでうつるえのホウがやせてみえるかもしれない。しかし、いまのテレビはフゴウカしているから、すこしのショリをくわえることで、めでみたカンがでるかもしれない。ニンゲンのあたまがショリしたホウがいいか、マイクロチップがショリしたホウがいいかというはなしである。ショリをするとつかれるだろうから、ひとはそんなにみない。だから、キカイにショリさせることもできるだろう。

ヒャクロクジュウロク、『ウ』ヒャクハチジュウサン

カラオケがリュウコウしていたころがある。ことばとして、カイガイにユシュツされていたくらいだ。あるうたのメロディを、バンソウがなるなか、ほんもののカシュがうたうようにうたうあそびである。このあそびでは、すきかってにアドリブ（ジユウエンソウ）してはいけない。しかし、これがジョウタツしたとしても、プロのカシュにはなりづらいだろう。ちゃんとほんもののカシュがいるからである。プロになるばあいは、ジブンのもちうたでショウブするべきだろう。
これはどういうことかというと、カラオケがうまいひとはダイタイ、コウタイがカノウということである。つまり、エーというカシュがうたうイーというキョクは、カラオケずきなイチマンニンがうたう。そのカラオケのばでは、かならずしもエムさんがうたわなくてもよい。ほかのキュウセンキュウヒャクキュウジュウキュウニンのだれでもいいから、うたえばよいのだ。そのばでは、かけがいのないひとりというのはない。あるとすれば、ほんもののカシュだろう。これはなにかににていないか。
そうガッコウキョウイクである。そこでは、ダイタイセイセキのよいジュンに、いいキギョウにシュウショクできるという「おもいこみ」があるだろう。しかし、スウガクのシケンでキュウジュッテンとるガクセイは、ほかにニマンニンいたとする。それなら、そのひとがえらばれるためには、ほかのニマンニンにタイしてなんらかのチョウショがなければいけない。それがなければ、ほかのニマンニンのうちのだれでもいいということになるだろう。
このように、ダイタイカノウセイというのがある。もし、シケンでキュウジュッテンとる

エーさんがカイシャをさっても、おなじテンをとるブイさんをサイヨウすればよい。これは、センコウするがわにとってユウリなしくみだ。しかし、ニマンニンのがわでは、イチドウにカイしたら、だれがさきかという、ジュンバンまちになるかとおもわれる。スムースにショウシンできれば、そのひとはモンダイがすくないだろう。しかし、イチマンキュウセンハッピャクニジュウイチバンメのひとは、イッカイキュウですらあがれるかわからない。ジュンバンまちからおりるてもあるが、やはり、このジュンバンまちで、ソウトウカンジョウテキになるのだとおもう。
わたしみたいに、ドクジのメロディ（ハモり）をうたうひとはすくないだろう。だから、カラオケのばによばれない。ただ、ジュンバンまちをしなくていいというのは、ストレスがすくない。

ヒャクロクジュウなな、『ウ』ヒャクキュウジュウ

サンジュウネンほどまえまで、ニホンとガッシュウコクは、ロウドウセンソウをしていたといえるかもしれない（●『ウ』ヒャクハチジュウなな）。モジどおり、ロウドウのセンソウである。なぜ、これがおこるか。それは、セイフのフサイがおおきいからである。いまやニホンでも、セイフフサイがセンチョウエンをこえた。ガッシュウコクでは、ギョウセイキカンをしめているという。
センチョウエンはセイフのシャッキンだが、ミンシュシュギなら、コクミンのシャッキンともいえる。これをかえそうとしたら、コクミンがおかねをだすか、はたらくということになるだろう。ニホンのコクナイソウセイサンが、ゴヒャクチョウエンだから、コクミンゼンインが、ニネンカンただばたらきをすれば、かえせるということだ。
ガッシュウコクもそうやっておさめられる。サイキンになって、チュウゴクもロウドウセンソウにくわわった。つまり、シャッキンをかえすために、ニホンジンもはたらくし、ガッシュウコクジンもはたらくし、チュウゴクジンもはたらくということだ。ヨーロッパでは、ほとんどセイフフサイがないから、これらをにがにがしくおもっているだろう。こういうジョウケンがあるから、ニホンジンはゆっくりできないわけである。

ヒャクロクジュウハチ、『ウ』ニヒャクイチ

センシンコクのニンゲンはやくにたっていないのではとかいた（●ヒャクニジュウハチ、『ウ』サンジュウニ）。シジョウでは、やくにたつものがうれつづける。だが、センシンコクでは、こどものかずがへっている。センシンコクのこどもないし、おとなはやくにたっていないのではということだ。
なぜ、センシンコクのひとは、やくにたっていないのであろう。それは、ロウドウセンソウ（●ゴジュウヨン、『オ』ヒャク、ヒャクニジュウハチ、『ウ』サンジュウニ、ヒャクロクジュウなな、『ウ』ヒャクキュウジュウ、ヒャクロクジュウハチ、『ウ』ニヒャクイチ、）をするからだといえるかもしれない。むかしのことばでいえば、「サクシュ」だ。ロ

ウドウセンソウとは、ほかのくににまけないように、はたらくことである。つまり、シジョウでユウイにたとうとする。トクに、セイフフサイがおおいと、それをやめづらい。いつかのジテンで、だれかがしはらわなければならないからだ。
また、いまのイッパンテキなショウバイでは、リエキをだすことをよしとする。つまり、そのクロジのブン、だれかがソンシツ、あかじをだすわけだ。しかし、イッパンテキには、それにモンクをいわない。そういうゲームである。クロジをだすのがうまいひとはいいが、クロジをだすのがへたなひとはかせげない。フクシなどがあるが、それなら、そういうゲームをやめてもいいはずだ。センシンコクのこどもがへっているということは、そのゲームがよくないからだとおもう。やくにたつセイヒンをつくって、うっても、リエキをだすわけだから、それはそんなにすばらしいことではない。つまり、ニンゲンがあまりやくにたっていないのではとおもえる。

あとがき

　まえにのべたが、シャカイカガクをケンキュウするのは、おかねがかかる。それは、プライバシーなどがあるからである。もののシャシンをとってもセイキュウされることはほとんどないが、ひとのばあいだと、ナンビャクマンエンとセイキュウされるばあいがある。だから、シャカイカガクでなく、ブツリガクや、ひとではなく、おかね、つまりケイザイガクにケンキュウのむきをかえた。このホンニシュウロクされているのは、そのどちらにもあてはまらなかったものがおおい。つまり、それらイガイでもケンキュウできるということである。
　つぎのコノシリーズのホンがでるのは、おそらく、ライネンイコウになるが、まだギロンしたいとおもう。

ニセンニジュウネンサンガツジュウロクニチ

シソウしそう ニカン
エイゾウ

ニセンニジュウネンサンガツとおか
ニセンニジュウネンゴガツサンジュウイチニチ

ニセンニジュウイチネンクガツトオカ
iii toga db011-2

エイチティティピーコロンスラッシュスラッシュアイアイアイティオージーエーピリオドシーオーエム
ティエスユーエスエイチアイエヌアットマークアイアイアイティオージーエーピリオドシーオーエム

エイゾウのホン

『アルクカラカンガエル』ニセンジュウゴネン

『むしのツゴウニンゲンのツゴウ』ニセンジュウシチネン

『よろこぶゲンシジン』ニセンジュウハチネン

『オンガクイチエンのジダイ』ニセンジュウハチネン

『スーペリアーをみつけた。』ニセンジュウキュウネン

『ウンドウはすべてエレクトリック。』ニセンジュウキュウネン

『エルガク〜ひとりブツリガクのチョウセン』ニセンジュウキュウ

『ものみダイからのケイザイガク』ニセンジュウキュウネン

『ひかりのあるところにはジュウリョクがある。』ニセンジュウキュウネン

『シソウしそう』ニセンニジュウネン

エイゾウのデンシサイトからコウニュウできます。
http://eizo09.com

『シソウしそう ニカン』

著　　エイゾウ

制　作　Puboo
発行所　デザインエッグ株式会社